第３回　東京都北区地域包括ケア推進計画策定検討委員会　次第

令和８年3月３０日 午後1時３０分
北とぴあ　１３階　飛鳥ホール

１　開　　会

２　議　　題

（１）アンケート調査結果の報告について
【資料１】

（２）来年度の会議日程について
【資料２】

３　閉　　会

＜配布資料＞
資料１　北区地域包括ケア推進計画のためのアンケート調査結果報告書（概要）
資料２　令和８年度北区地域包括ケア推進計画策定スケジュール

資料１

北　区
地域包括ケア推進計画のためのアンケート調査結果報告書
＜抜 粋 版＞

令和８年３月

北　区

目　次

第１章　調査の概要　1
１．調査実施の目的……3
２．調査対象……3
３．調査方法……3
４．調査期間……3
５．配付・回収状況……4
６．注意事項……4

第２章　要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果　7
１．ご家族や生活状況……9
（１）性別……9
（２）年齢……9
（３）家族構成……10
（４）要介護・要支援度及び介護・介助の必要性……12
（５）主な介護者・介助者……13
（６）世帯年収……14
（７）住みやすさ……14
２．からだを動かすこと……14
（１）椅子からの立ち上がり……15
（２）15分間の歩行……15
（３）外出頻度……16
（４）外出控え……18
（５）外出を控えている理由……19
（６）外出する際の移動手段……20
（７）転倒の有無……20
（８）転倒に対する不安……21
３．食べること……23
（１）固いものの食べにくさ……23
（２）むせる経験……23
（３）口の渇き……24
（４）共食の頻度……26
４．物忘れ・認知症……27
（１）物忘れの状況……27
（２）家族の認知症症状の有無……30
（３）認知症の印象……30

（４）認知症になった場合の周囲の認知・・32
（５）認知症相談窓口の認知度・・・32
（６）物忘れや認知症の相談先・・・33
（７）北区認知症あんしんなびの認知度・・・34
５．毎日の生活・・・36
（１）１人での外出・・・36
（２）食品・日用品の買物・・・36
（３）食事の用意・・・37
（４）請求書の支払い・・・37
（５）ごみ出し・・・38
（６）預貯金の出し入れ・・・38
（７）スマートフォン等の使用状況・・40
（８）日常生活で手助けをしてほしいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
（９）自立した生活を続けていくために必要なサービスや地域の支え合い・・・・・・・・・・・・・・・・46
（10）成年後見制度の認知状況・・・47
６．社会参加・・48
（１）書類の記入・・・48
（２）新聞閲読・・・48
（３）本や雑誌の閲読・・・49
（４）健康記事、番組への関心・・・49
（５）友人宅の訪問・・・51
（６）生きがいの有無・内容・・・52
（７）地域活動への参加頻度・・・53
（８）地域活動に参加する理由・・・55
（９）地域活動に参加しない理由・・・56
（10）地域活動に参加しやすくなるために必要な要素・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
７．仕事・・59
（１）就労状況・・・59
（２）今後の就労意向・・・59
（３）就労希望理由・・・60
８．たすけあい・・61
（１）たすけあえる人・・・61
９．健康・・64
（１）健康状態・・・64
（２）この１か月のゆううつ感・・・64
（３）この１か月の無気力感・・・65
（４）孤独感の把握・・・67
（５）かかりつけ医の有無・・・69
（６）かかりつけ歯科医の有無・・・69

（７）治療中や後遺症のある病気……70
（８）終活についての考え……72
（９）終活の準備にあたり不安なこと……76
10．在宅療養……80
（１）在宅療養の継続希望……80
（２）在宅療養の実現可能性……80
（３）在宅療養が難しいと思う理由……81
（４）最期を迎えたい場所……81
11．介護の状況など……82
（１）「高齢者あんしんセンター」の認知度……82
12．介護保険サービス……84
（１）今後増やしてほしい福祉サービス……84
■自由記述……86
（１）一般高齢者調査……86
（２）認定者調査……90

第３章　在宅介護実態調査の結果　93
１．調査対象者について……95
（１）施設等への入所・入居の検討状況……95
（２）介護保険サービスの利用状況……96
（３）在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス……98
（４）家族・親族からの介護の頻度……99
２．主な介護者について……100
（１）主な介護者の年齢……100
（２）主な介護者の勤務形態……100
（３）働き方の調整の有無……101
（４）両立の見通し……101
（５）介護を始める前との体調比較……102
■自由記述……103

第４章　55歳以上64歳以下調査の結果　107
１．仕事に対する考え方……109
（１）就労状況……109
（２）就労形態……110
（３）65歳以降の就労意欲……112
（４）希望する就労年齢……113
（５）希望する働き方……114
２．地域とのつながり、社会参加……115
（１）65歳以降の近所との関わり意向……115

（２）65歳以降にやってみたい活動 ･･･ 116
（３）自身が認知症になったことを知られてもよいか ･････････････････････････････････ 118
（４）終活についての考え方 ･･･ 119
（５）終活の準備にあたって、不安に思っていること ･････････････････････････････････ 121
３．高齢者あんしんセンター ･･･ 123
（１）高齢者あんしんセンターの認知度 ･･･ 123
■自由記述 ･･･ 125

第５章　介護サービス事業者調査の結果 129
１．事業所について ･･･ 131
（１）事業所の採算状況 ･･･ 131
２．人材の確保・育成 ･･･ 132
（１）事業所が求める質を十分に満たす人材の確保状況 ･･･････････････････････････････ 132
（２）人材確保に向けてあるとよい公的支援 ･･･ 132
（３）人材の定着に向けてあるとよい公的支援 ･･･････････････････････････････････････ 133
３．事業所運営の状況や課題 ･･･ 134
（１）事業所の運営に関する不安や課題 ･･･ 134
４．認知症の方や家族の支援 ･･･ 135
（１）認知症の方の支援に必要なこと ･･･ 135
（２）若年性認知症の方の支援に必要なこと ･･･ 136
５．独居高齢者 ･･･ 137
（１）独居高齢者に必要だと思う支援・仕組み ･･･････････････････････････････････････ 137
６．連携状況 ･･･ 138
（１）医療機関との連携状況 ･･･ 138
（２）医療機関と連携しない理由 ･･･ 138
（３）医療機関との連携のために必要な支援や手段 ･･･････････････････････････････････ 139
７．区に対する要望 ･･･ 140
（１）事業運営する上で必要な支援 ･･･ 140

第１章　調査の概要

１．調査実施の目的

本調査は、令和９年度からの高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画・介護保険事業計画である「北区地域包括ケア推進計画」の資料とするために、高齢者の方や介護者の方、高齢になる前の方、介護サービス事業者の実態と意向を把握することを目的として実施しました。

２．調査対象

調査名	調査対象
①要介護認定を受けていない方の調査 【一般高齢者調査】	令和７年11月１日現在で、要介護認定を受けていない65歳以上の方の中から5,000人を無作為抽出しました（要支援認定を受けている方を含む）。
②要介護（要支援）認定を受けている方の調査 【認定者調査】	令和７年11月１日現在で、要介護（要支援）認定を受けている65歳以上の方の中から2,000人を無作為抽出しました。
③在宅介護実態調査	令和７年11月１日現在で、被保険者台帳のうち、在宅介護を受けている65歳以上の方の中から2,000人を無作為抽出しました。
④55歳以上64歳以下の方の調査	令和７年11月１日現在で、55歳以上64歳以下の方の中から2,500人を無作為抽出しました。
⑤介護サービス事業者調査	北区内の全介護サービス事業所

３．調査方法

調査名	調査対象
①要介護認定を受けていない方の調査 【一般高齢者調査】	郵送配布／郵送回収（はがきによるお礼を兼ねた督促状：１回送付）
②要介護（要支援）認定を受けている方の調査 【認定者調査】	
③在宅介護実態調査	
④55歳以上64歳以下の方の調査	郵送配布／郵送回収またはＷＥＢ回答（はがきによるお礼を兼ねた督促状：１回送付）
⑤介護サービス事業者調査	

４．調査期間

令和７年12月３日（水）から24日（水）までの期間に実施しました。

５．配付・回収状況

調査名	配付数 （件）	有効回収数 （件）	有効回収率 （％）
①【一般高齢者調査】	5,000	3,157	63.1
②【認定者調査】	1,998	1,019	51.0
③在宅介護実態調査	2,000	1,300	65.0
④55歳以上64歳以下の方の調査	2,500	1,235 （郵送：744 WEB：491）	49.4
⑤介護サービス事業者調査	449	285 （郵送：102 WEB：183）	63.5

６．注意事項

・本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数です。
・百分率（％）の計算は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示しました。したがって、単数回答（１つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合があります。
・複数回答（２つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合があります。
・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
・回答者数が30件未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。
・選択肢「その他」については、本文中で触れていません。
・第２章の設問で、調査票の場号の前に一と記載があるものは一般高齢者のみを対象とする調査、認と記載があるものは認定者のみを対象とする調査です。
・第２章の両方の調査に共通する設問で、調査票上の番号が調査ごとに異なる場合、一般高齢者調査の番号を先に、認定者調査の調査票の番号を後に掲載しています（例：一Ｑ３認Ｑ４）。

・報告書内に居住地区別で分析している設問がありますが、居住地区の区域は地域振興室の管轄区域となっています。

地区名	該当区域
十条台	中十条１～４丁目、岸町１～２丁目、十条台１丁目、王子本町１～３丁目、上十条１丁目
王子	王子１～６丁目、豊島1丁目
豊島	豊島２～８丁目
十条	上十条２～５丁目、十条仲原１～４丁目、十条台２丁目
神谷	神谷１～３丁目
赤羽西	赤羽西１～６丁目（５丁目３～15を除く）、西が丘１～３丁目
志茂	志茂１～５丁目
赤羽	岩淵町、赤羽１～２丁目、赤羽３丁目１～４番、５番２～11号、６番１～9号・27～32号、赤羽南１～２丁目
赤羽北	赤羽北１～２丁目、３丁目（３～５、16、18、26及び27の一部を除く）、赤羽３丁目（赤羽の管轄区域を除く）、赤羽台４丁目２～15、17（９、25～65）、18、19、桐ケ丘１丁目20、桐ケ丘２丁目11
滝野川西	滝野川３～７丁目（一部管轄外の区域あり。また滝野川１丁目の一部を管轄区域に含む。）
滝野川東	滝野川１～２丁目、西ケ原２～４丁目
西ケ原東	上中里１丁目、中里１～３丁目、西ケ原１丁目、西ケ原３丁目（一部）
昭和町	上中里２～３丁目、昭和町１～３丁目、栄町
浮間	浮間１～５丁目
桐ケ丘	桐ケ丘１～２丁目（都営団地）、赤羽北３丁目（16、18、26）、赤羽台１～３丁目、４丁目１、16、17（１～８、10～24、66、68）、赤羽西５丁目（赤羽西の管轄区域を除く）
田端	田端１～６丁目
東十条	東十条１～６丁目
堀船	堀船１～４丁目
東田端	田端新町１～３丁目、東田端１～２丁目

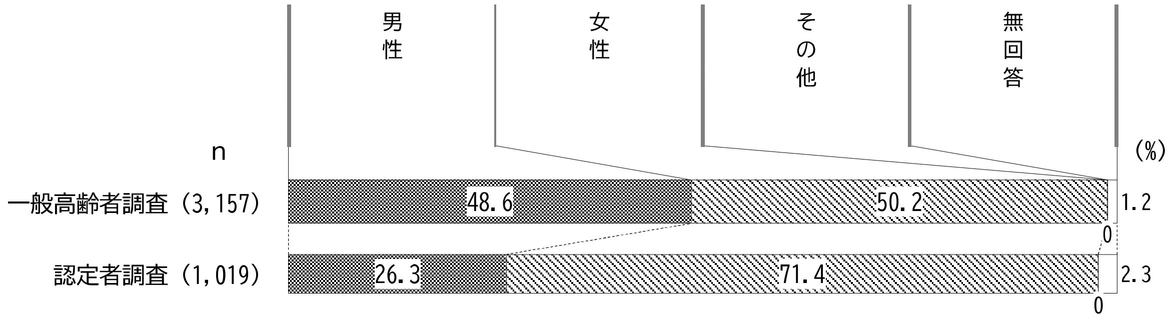
第２章　要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

１．ご家族や生活状況

（１）性別

Ｑ１．あなたの性別をお答えください。

一般高齢者調査では、「男性」が48.6%、「女性」が50.2%となっています。
認定者調査では、「男性」が26.3%、「女性」が71.4%となっています。

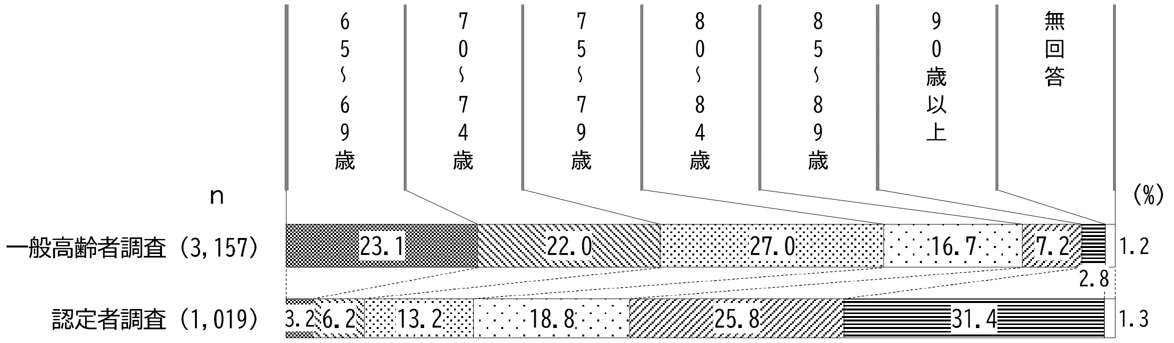


※「その他」は０件だった。

（２）年齢

Ｑ２．あなたの年齢をお答えください。

一般高齢者調査では、「75～79歳」が27.0%と最も多く、次いで「65～69歳」が23.1%、「70～74歳」が22.0%、「80～84歳」が16.7%となっています。
認定者調査では、「90歳以上」が31.4%と最も多く、次いで「85～89歳」が25.8%、「80～84歳」が18.8%、「75～79歳」が13.2%となっています。

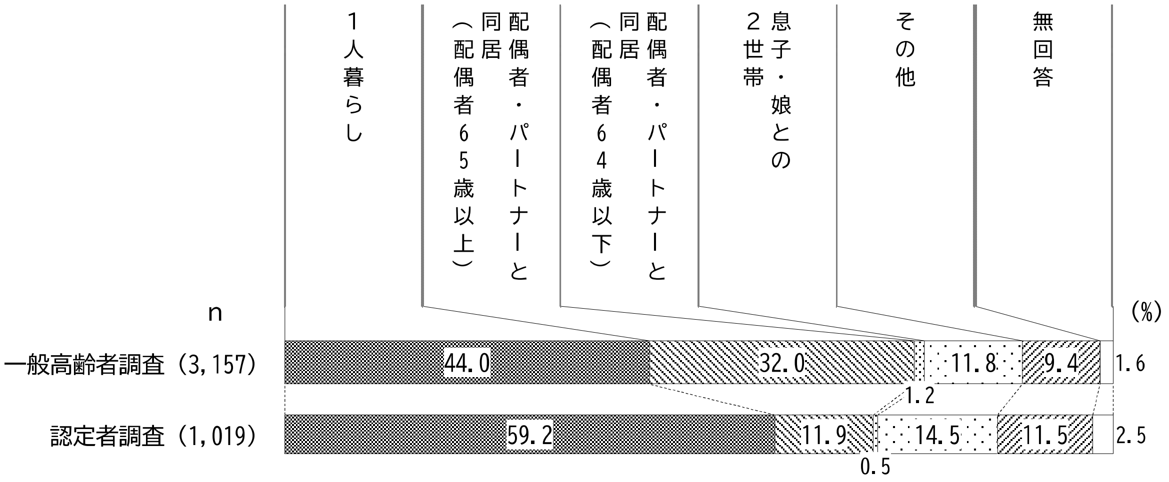


（３）家族構成

一Ｑ３認Ｑ４．家族構成をお教えください。（○は１つ）

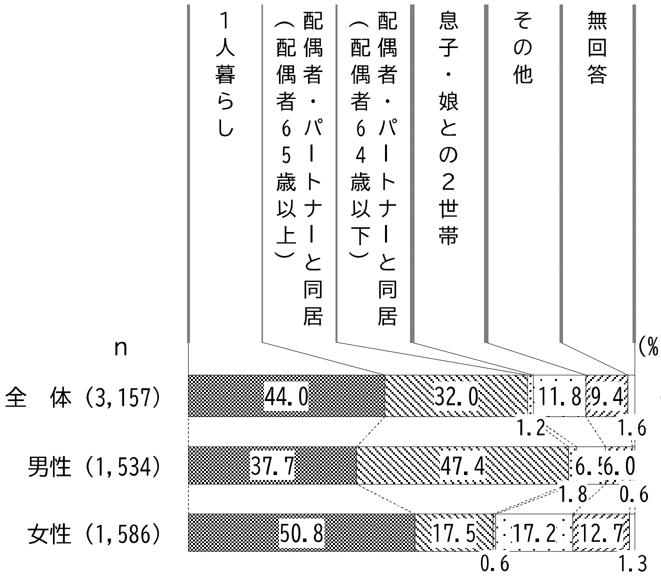
一般高齢者調査では、「１人暮らし」が44.0％と最も多く、次いで「配偶者・パートナーと同居（配偶者65歳以上）」が32.0％、「息子・娘との２世帯」が11.8％、「その他」が9.4％となっています。

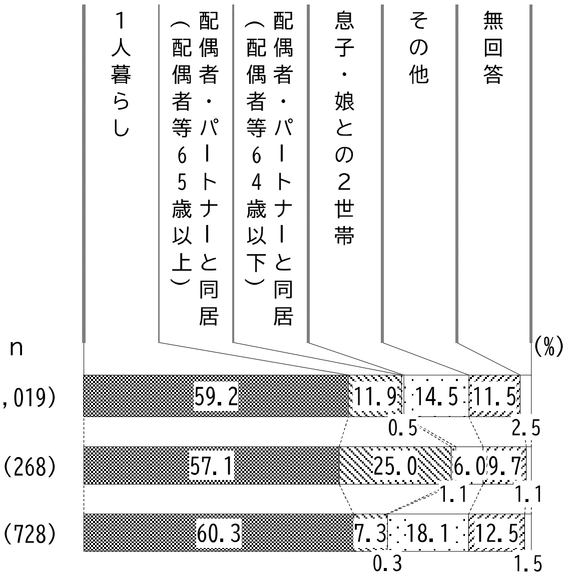
認定者調査でも、「１人暮らし」が59.2％と最も多く、次いで「息子・娘との２世帯」が14.5％、「配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）」が11.9％、「その他」が11.5％となっています。



〈性別／家族構成〉

性別に見ると、一般高齢者調査の男性は、「１人暮らし」（37.7％）よりも「配偶者・パートナーと同居（配偶者65歳以上）」（47.4％）の方が多く、女性はいずれの調査でも「１人暮らし」が最も多くなっています。



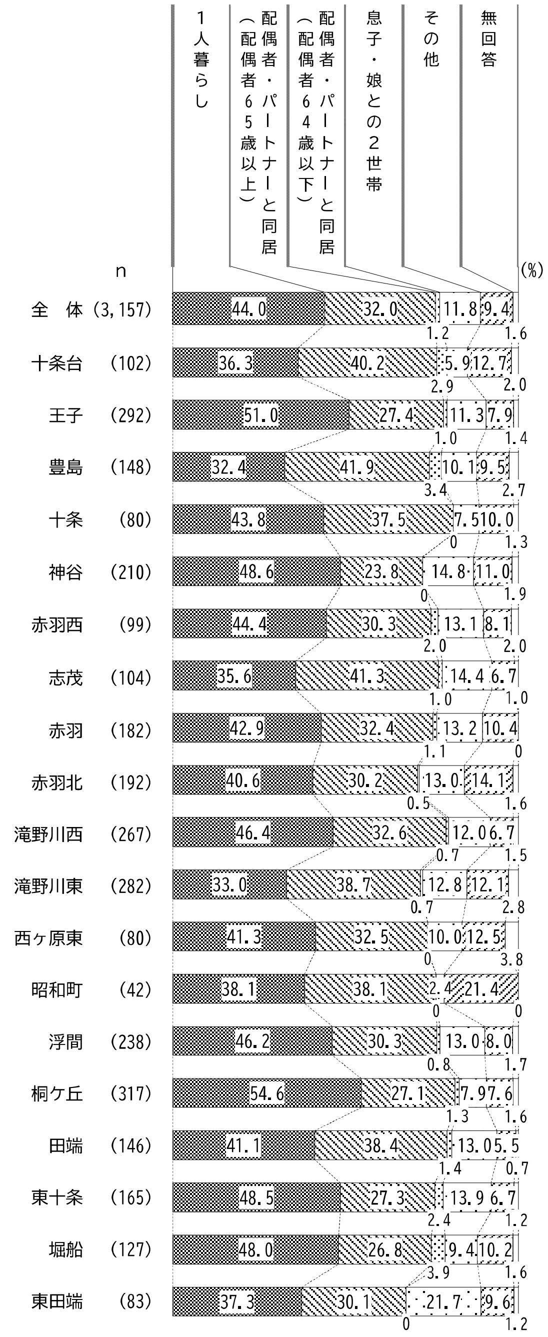


〈居住地区別／家族構成〉

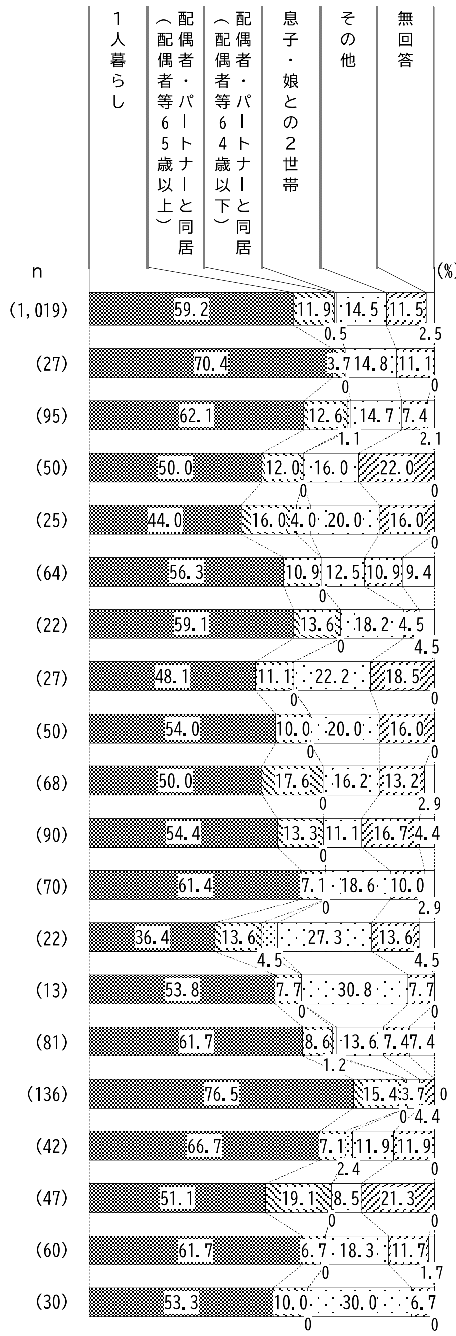
居住地区別に「１人暮らし」の割合を、一般高齢者調査・認定者調査で比較すると、ほとんどの地区で認定者調査の方が上回っていますが、西ケ原東は一般高齢者調査の方で多くなっています。

認定者調査の「１人暮らし」は、十条台（70.4％）と桐ケ丘（76.5％）で７割以上と多い一方、西ケ原東（36.4％）では唯一４割未満となっています。

【一般高齢者調査】



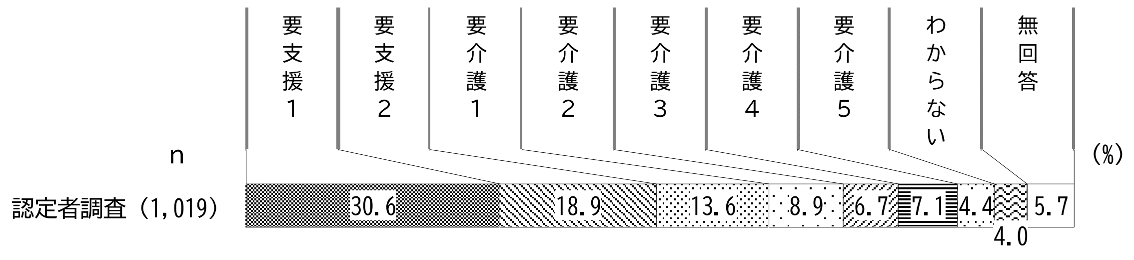
【認定者調査】



（４）要介護・要支援度及び介護・介助の必要性

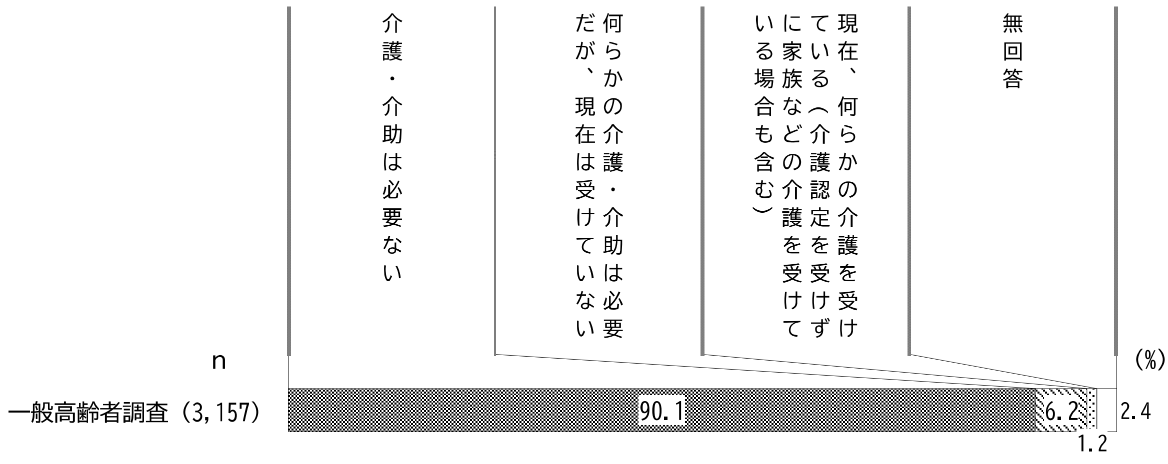
認Ｑ３．あなたの要介護度（要支援度）をお答えください。（○は１つ）

「要支援１」が30.6％と最も多く、次いで「要支援２」が18.9％、「要介護１」が13.6％、「要介護２」が8.9％となっています。



一Ｑ４．あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。（○は１つ）

「介護・介助は必要ない」が90.1％、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.2％、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が1.2％となっています。



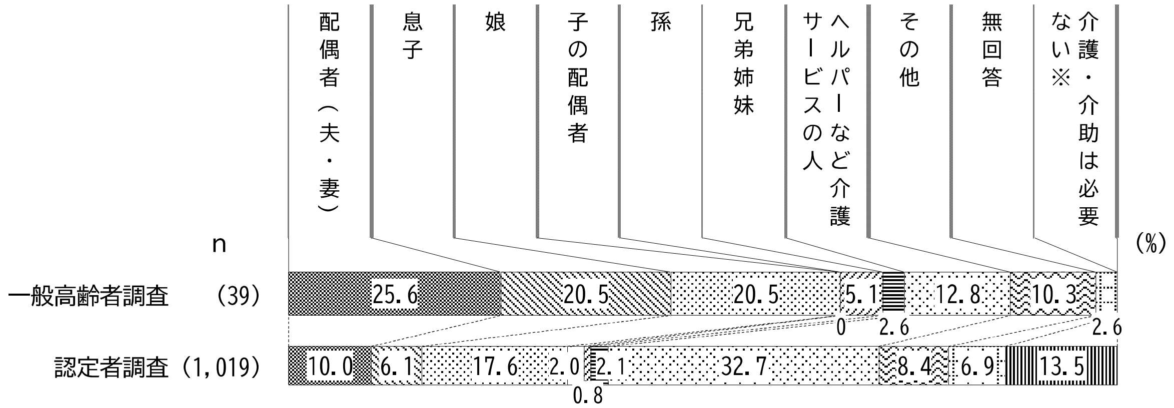
（５）主な介護者・介助者

【Ｑ４で「３．現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」と答えた方にうかがいます。】

Ｑ６．主にどなたの介護・介助を受けていますか。（○は１つ）

一般高齢者調査では、「配偶者（夫・妻)」が25.6％と最も多く、次いで「息子」が20.5％、「娘」が20.5％となっています。

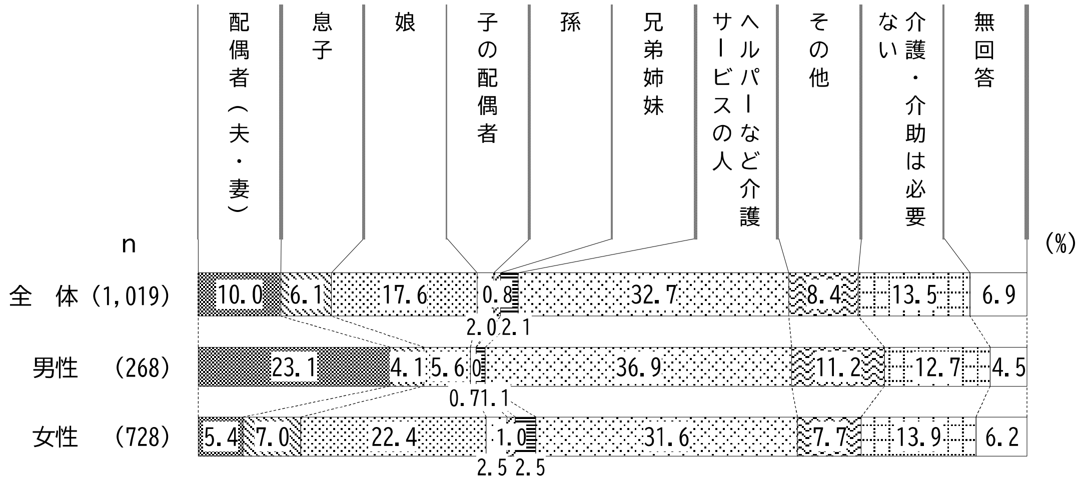
認定者調査では、「ヘルパー等介護サービスの人」が32.7％と最も多く、次いで「娘」が17.6％、「配偶者（夫・妻)」が10.0％となっています。



※選択肢「介護・介助は必要ない」：認定者調査のみ聴取した。

〈認定者調査：性別／主な介護者・介助者〉

認定者調査を性別に見ると、男女とも「ヘルパーなど介護サービスの人」が３割台と最も多く、次いで、男性は「配偶者（夫・妻)」(23.1%)、女性は「娘」(22.4%）となっています。

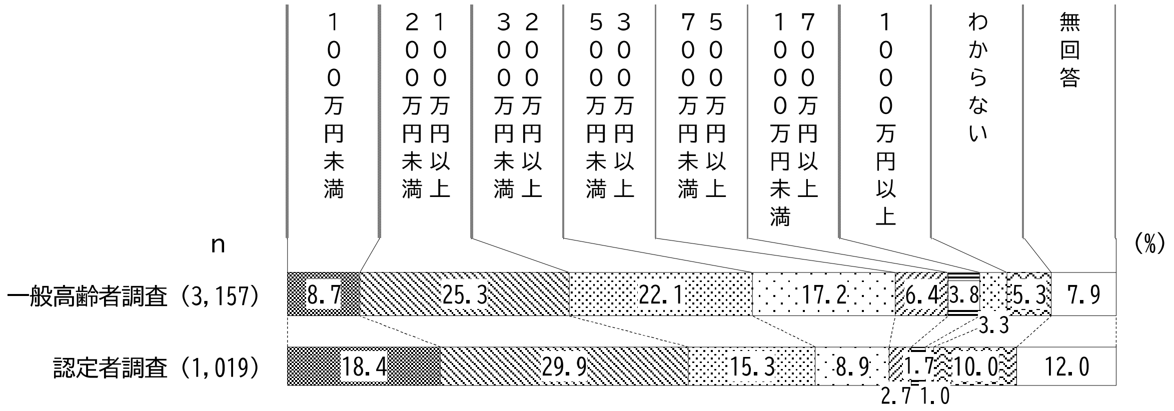


（６）世帯年収

Ｑ８．昨年１年間の、あなたとご家族の年間収入（税込）総額はどれくらいですか。
（○は１つ）

一般高齢者調査では、「100万円以上200万円未満」が25.3％と最も多く、次いで「200万円以上300万円未満」が22.1％、「300万円以上500万円未満」が17.2％、「100万円未満」が8.7％となっています。

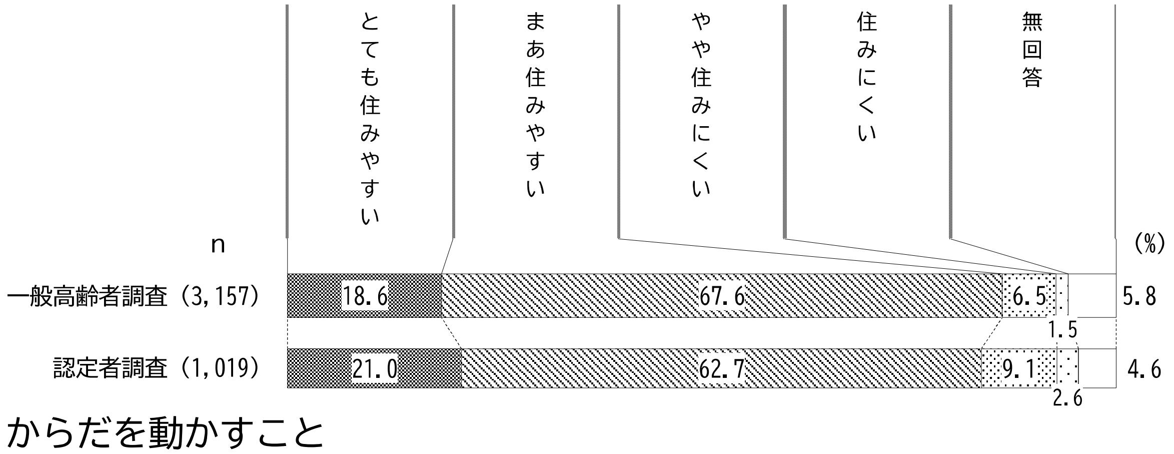
認定者調査では、「100万円以上200万円未満」が29.9％と最も多く、次いで「100万円未満」が18.4％、「200万円以上300万円未満」が15.3％、「300万円以上500万円未満」が8.9％となっています。



（７）住みやすさ

一Q11認Q14．ご自身の住んでいる地域を「住みやすい地域」だと感じますか。
（○は１つ）

いずれの調査も「まあ住みやすい」が６割を超え、「とても住みやすい」が２割前後となっています。

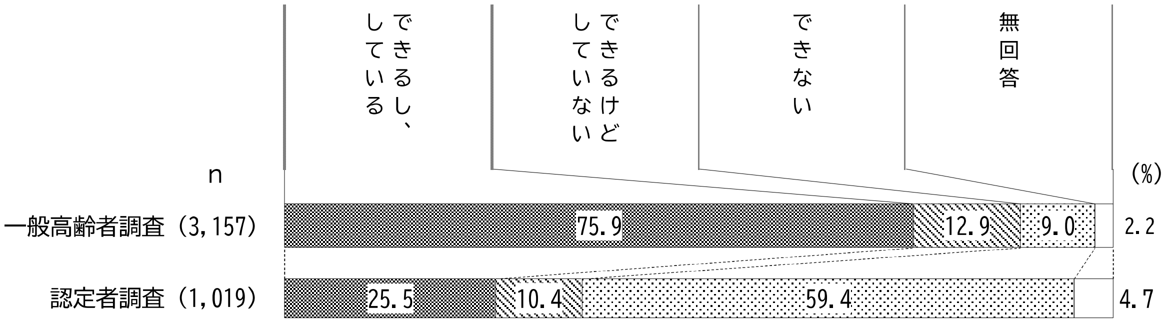


２．からだを動かすこと

（１）椅子からの立ち上がり

Ｑ２．椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。（○は１つ）

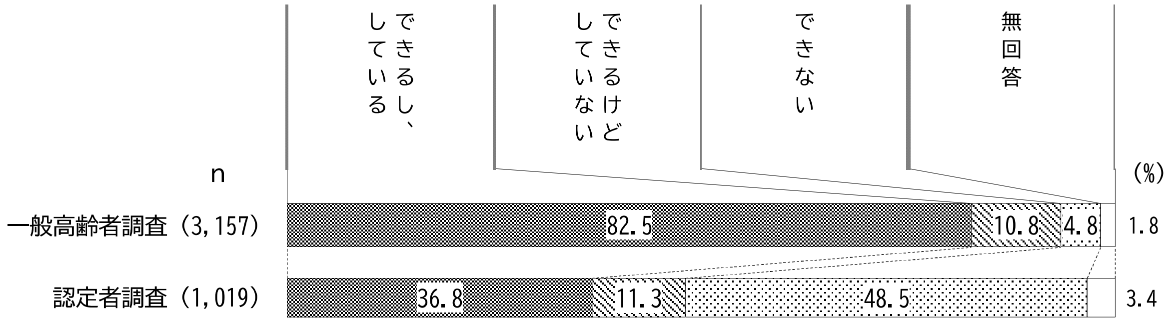
一般高齢者調査では、「できるし、している」が75.9％なのに対して、認定者調査では、「できない」が59.4％となっています。



（２）15分間の歩行

Ｑ３．15分位続けて歩いていますか。（○は１つ）

一般高齢者調査では、「できるし、している」が82.5％を占める一方、認定者調査では36.8％で、「できない」の48.5％よりも少なくなっています。

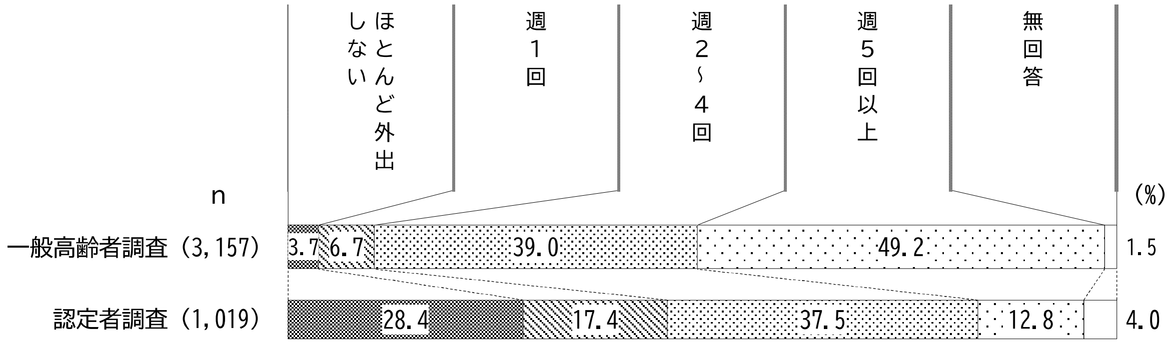


（３）外出頻度

Ｑ４．週に１回以上は外出していますか。（○は１つ）

一般高齢者調査では、「週５回以上」が49.2％、「週２～４回」が39.0％の順で多くなっています。

認定者調査では、「週２～４回」が37.5％、「ほとんど外出しない」が28.4％、「週１回」が17.4％となっています。



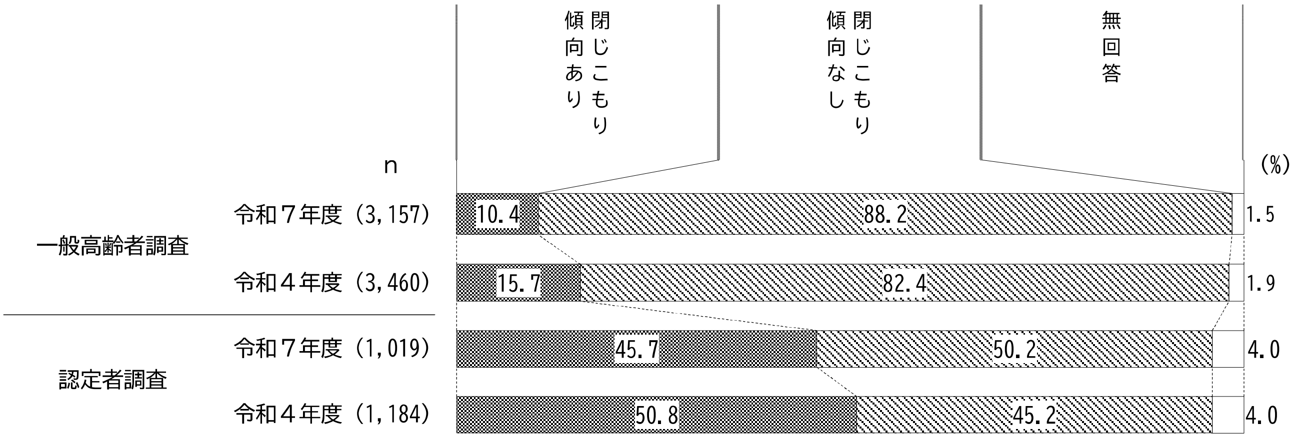
〈閉じこもり傾向〉

Ｑ４（外出頻度）で、「ほとんど外出しない」「週１回」と回答した人を、『閉じこもり傾向がある高齢者』としています。

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和７年８月）

「閉じこもり傾向あり」は、一般高齢者調査で10.4％である一方、認定者調査では45.7％となっています。

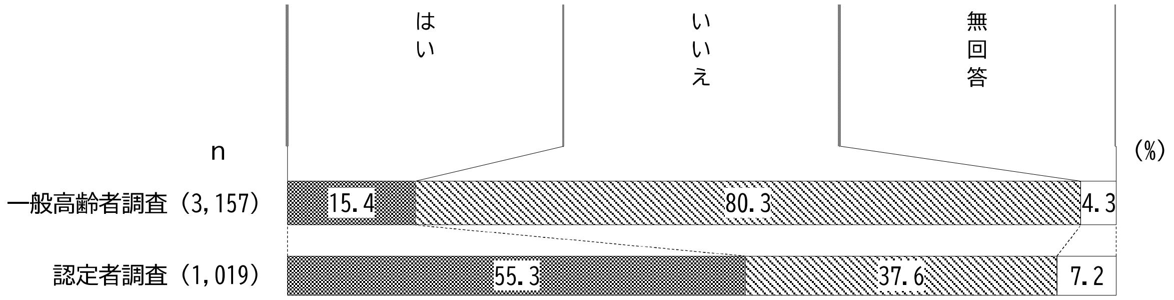
令和４年度と比較すると、いずれの調査も「閉じこもり傾向あり」は５ポイント以上減少しています。



（４）外出控え

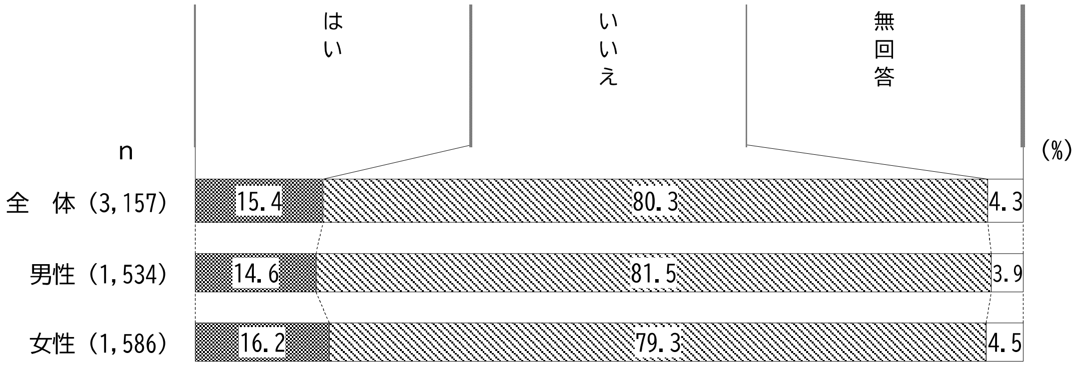
Ｑ６．外出を控えていますか。

一般高齢者調査では、「はい」が15.4%、認定者調査では55.3%となっています。



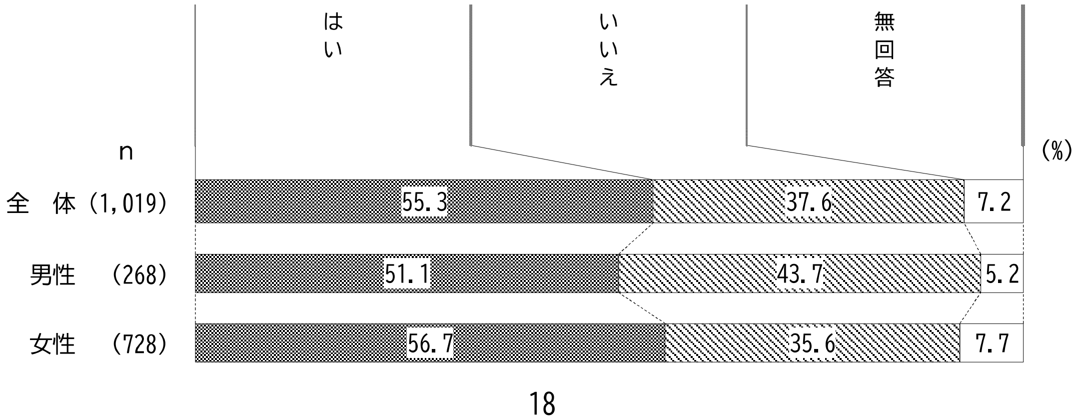
〈一般高齢者調査：性別／外出控え〉

性別に見ると、男女とも「はい」は１割台となっています。



〈認定者調査：性別／外出控え〉

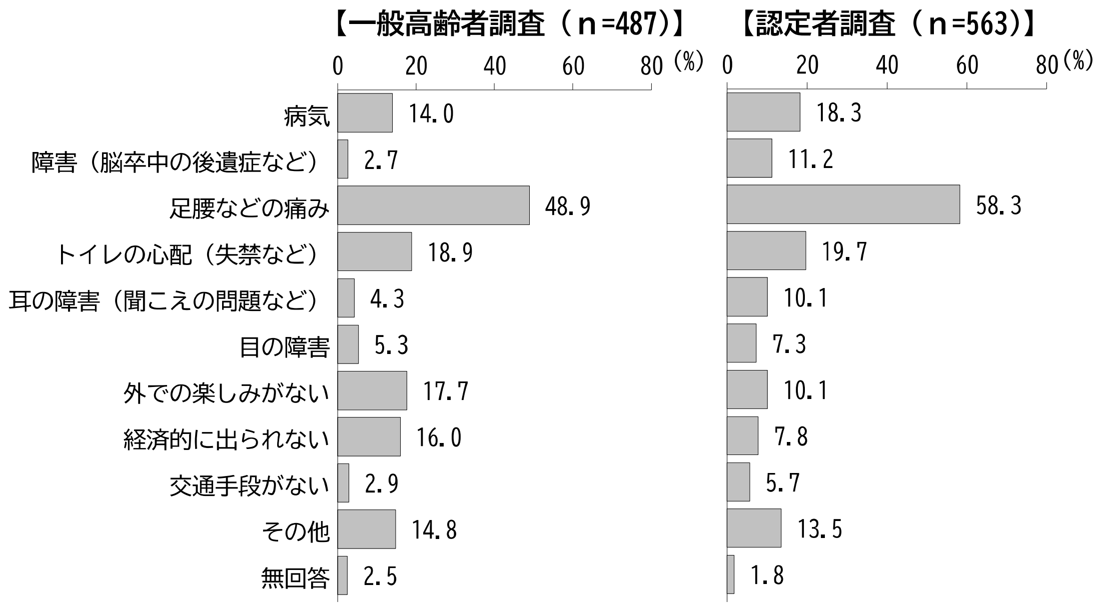
性別に見ると、女性で「はい」が56.7%であるのに対し、男性では51.1%となっています。



（５）外出を控えている理由

【Ｑ６で「１．はい」と答えた方にうかがいます。】
Ｑ７．外出を控えている理由は、次のどれですか。（あてはまるものすべてに○）

いずれの調査も「足腰などの痛み」が最も多く、次いで、一般高齢者調査では「トイレの心配（失禁など）」（18.9％）、「外での楽しみがない」（17.7％）、「経済的に出られない」（16.0％）と続き、認定者調査では、「トイレの心配（失禁など）」（19.7％）、「病気」（18.3％）と続いています。

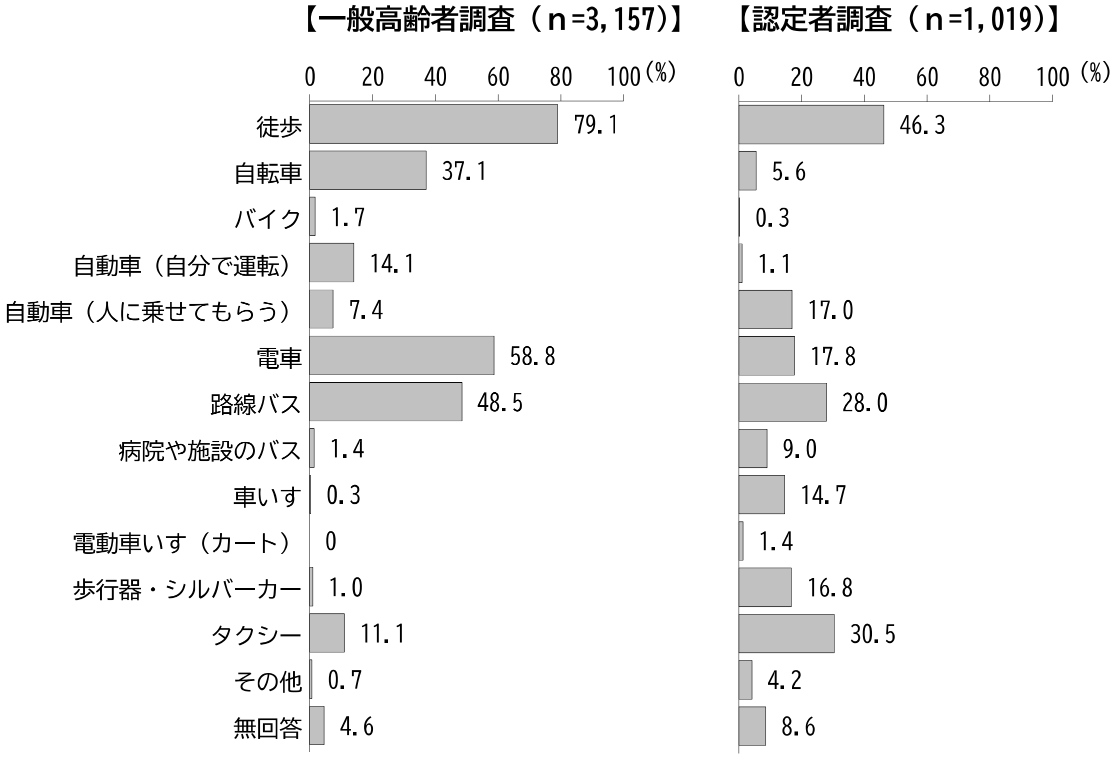


（６）外出する際の移動手段

Ｑ８．外出する際の移動手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

一般高齢者調査では、「徒歩」が79.1％と特に多く、次いで「電車」（58.8％）、「路線バス」（48.5％）、「自転車」（37.1％）となっています。

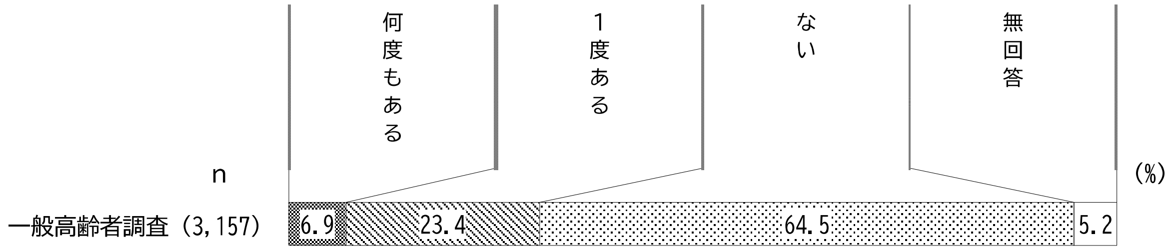
認定者調査では、「徒歩」（46.3％）に次いで「タクシー」（30.5％）、「路線バス」（28.0％）、「電車」（17.8％）となっています。



（７）転倒の有無

Ｑ９．過去１年間に転んだことがありますか。（○は１つ）

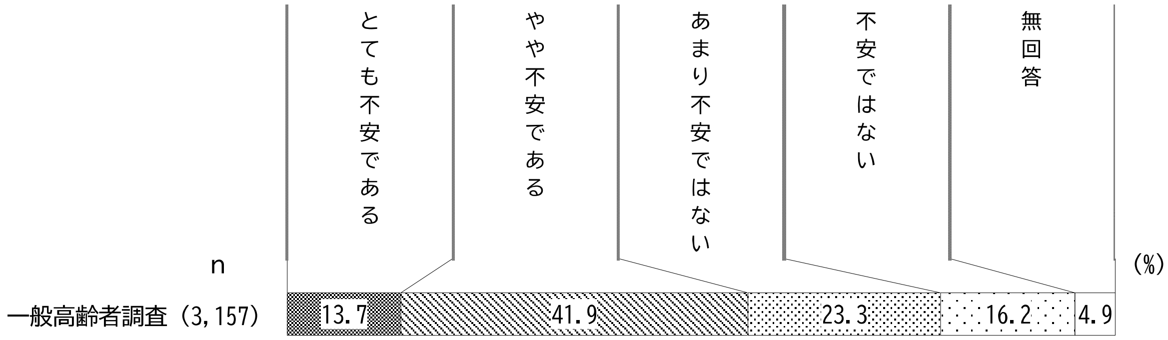
「ない」が64.5％で、「１度ある」が23.4％、「何度もある」が6.9％となっています。



（８）転倒に対する不安

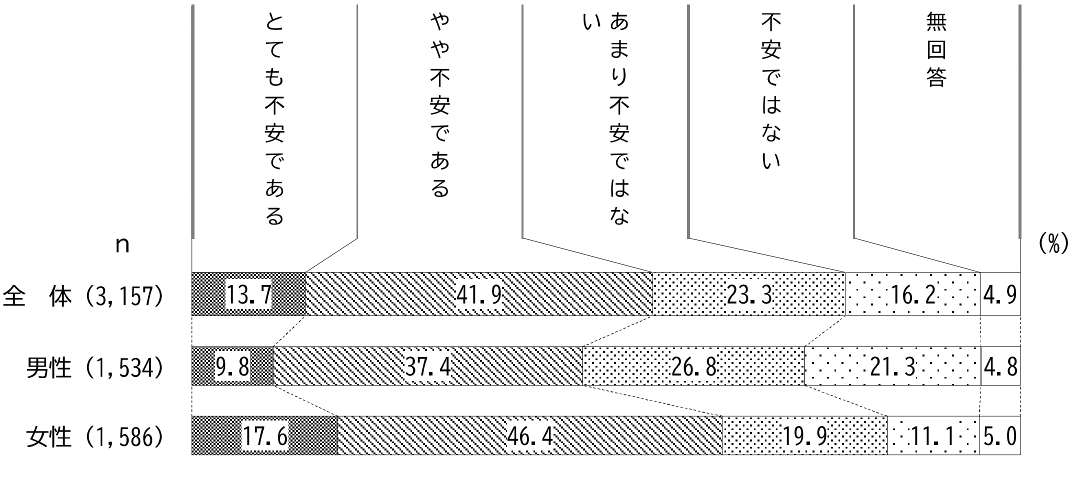
一Q10. 転倒に対する不安は大きいですか。（○は１つ）

「やや不安である」が41.9％と最も多く、「とても不安である」（13.7％）と合わせると55.6％と過半数になっています。



〈性別／転倒に対する不安〉

性別に見ると、『不安』（「とても不安である」＋「やや不安である」）は、男性では47.2％であるのに対して、女性では64.0％となっています。



〈運動器機能低下リスク〉

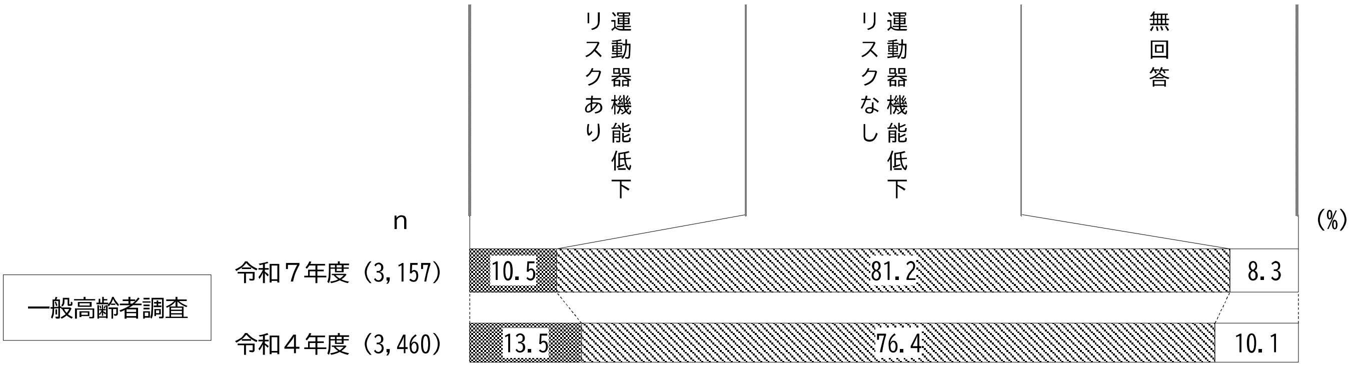
下記の５項目中、３項目以上に該当する場合、『運動器機能が低下している高齢者』（運動器機能低下リスクあり）としています。

・階段を手すりや壁をつたわらずに昇ることができない（Ｑ１）
・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない（Ｑ２）
・15分続けて歩くことができない（Ｑ３）
・過去１年間に転倒した経験が、何度もある、あるいは、１度ある（Ｑ９）
・転倒に対して、とても不安である、あるいは、やや不安である（Q10）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和７年８月）

一般高齢者調査で「運動器機能低下リスクあり」は10.5%、「運動器機能低下リスクなし」は81.2%となっています。

令和４年度と比較すると、「運動器機能低下リスクあり」は3.0ポイント減少し、「運動器機能低下リスクなし」は4.8ポイント増加しています。

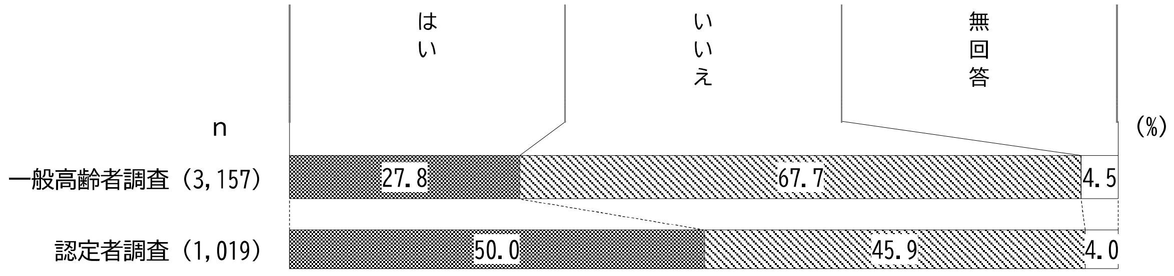


３．食べること

（１）固いものの食べにくさ

Ｑ４．半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

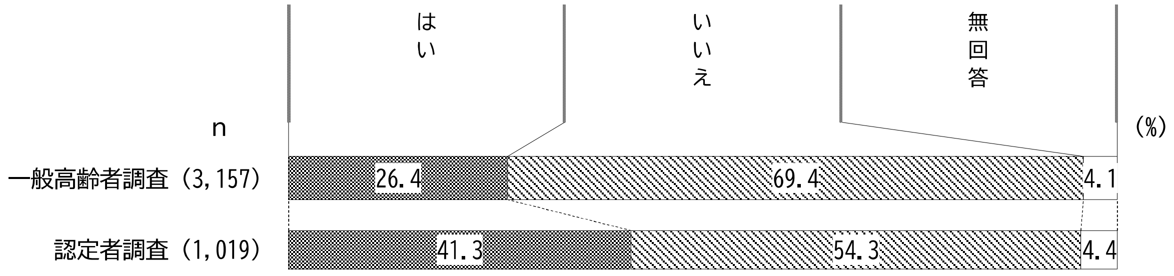
一般高齢者調査では、「はい」が27.8%、「いいえ」が67.7%となっています。
認定者調査では、「はい」が50.0%、「いいえ」が45.9%となっています。



（２）むせる経験

Ｑ５．お茶や汁物等でむせることがありますか。

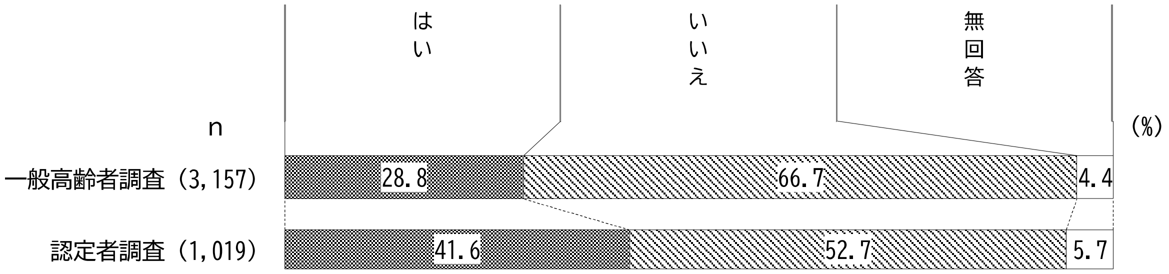
一般高齢者調査では、「はい」が26.4%、「いいえ」が69.4%となっています。
認定者調査では、「はい」が41.3%、「いいえ」が54.3%となっています。



（３）口の渇き

Ｑ６．口の渇きが気になりますか。

一般高齢者調査では、「はい」が28.8%、「いいえ」が66.7%となっています。
認定者調査では、「はい」が41.6%、「いいえ」が52.7%となっています。



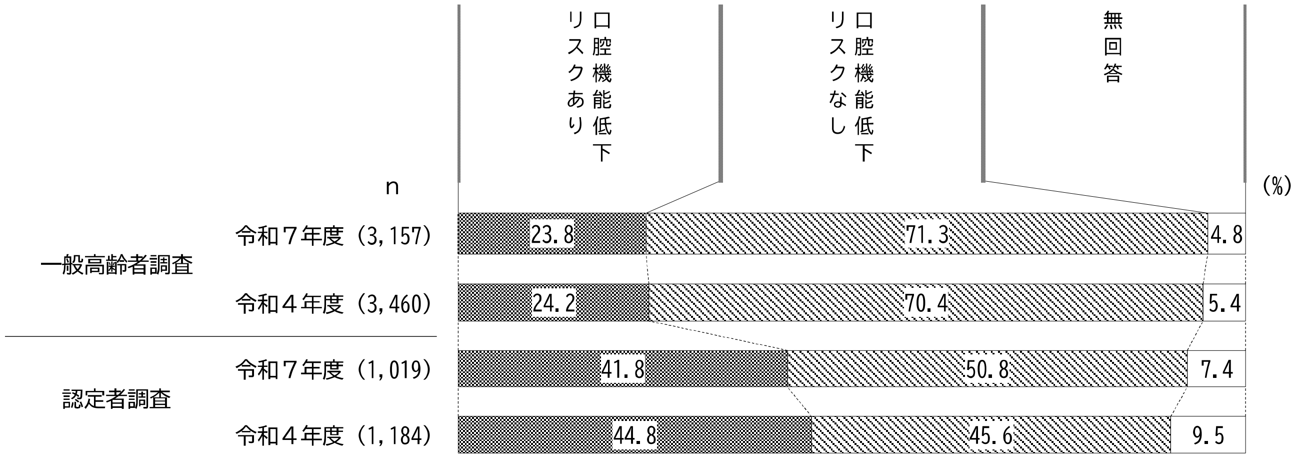
〈口腔機能低下リスク〉

下記の３項目中、２項目以上で「はい」に該当する場合、『口腔機能の低下に該当する高齢者』（口腔機能低下リスクあり）としています。
・半年前に比べて固いものが食べにくくなった（Ｑ４）
・お茶や汁物等でむせることがある（Ｑ５）
・口の渇きが気になる（Ｑ６）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和７年８月）

「口腔機能低下リスクあり」は、一般高齢者調査で23.8%、認定者調査では41.8%となっています。

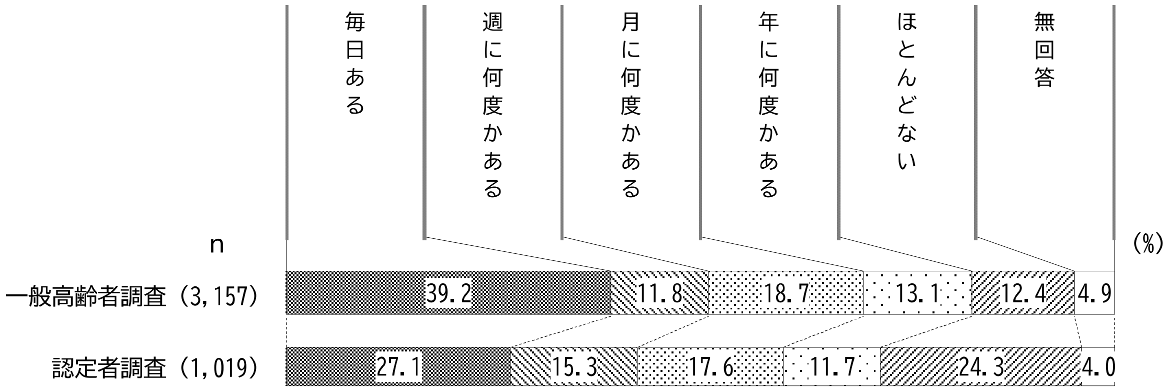
令和４年度と比較すると、「口腔機能低下リスクあり」は一般高齢者調査では大きな違いは見られないものの、認定者調査では3.0ポイント減少しています。



（４）共食の頻度

一Ｑ９認Q12. どなたかと食事をともにする機会はありますか。（○は１つ）

「週に何度かある」、「月に何度かある」、「年に何度かある」は一般高齢者調査と認定者調査の間に大きな差はありませんが、「毎日ある」は前者が約12ポイント、「ほとんどない」は後者が約12ポイント高くなっています。



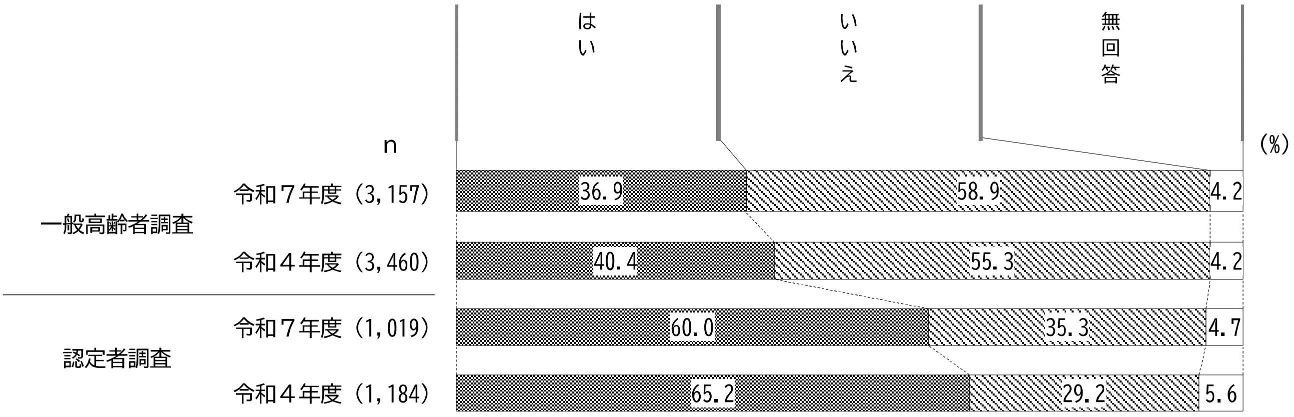
４．物忘れ・認知症

（１）物忘れの状況

Ｑ１．物忘れが多いと感じますか。

一般高齢者調査では36.9%、認定者調査では60.0%が「はい」（物忘れが多いと感じる）と回答しています。

令和４年度と比較すると、「はい」は一般高齢者調査で3.5ポイント、認定者調査で5.2ポイント減少している。

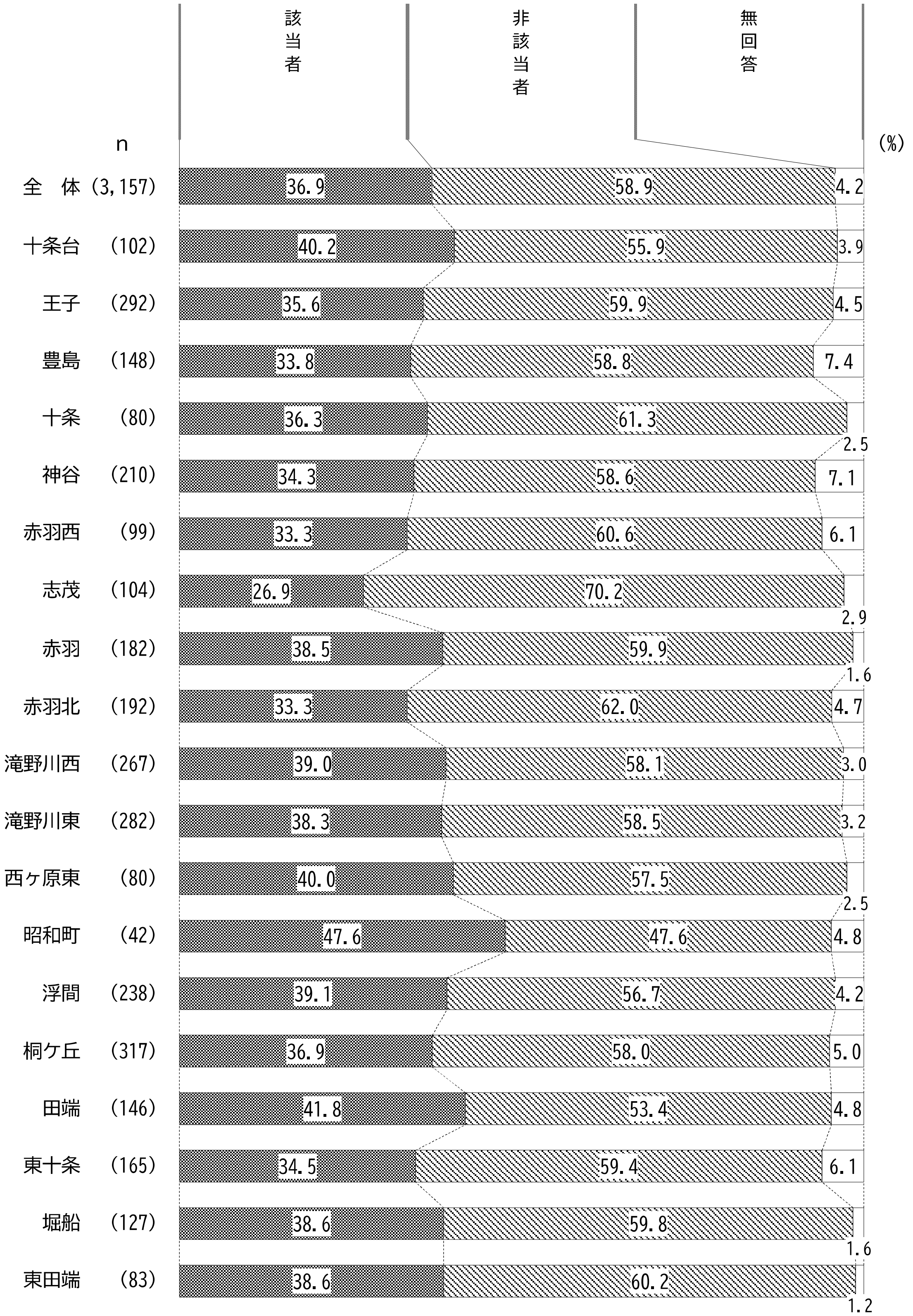


物忘れが多いと感じる（「はい」）と回答した場合、『認知機能の低下がみられる高齢者』（認知機能低下リスクあり）としています。

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和７年８月）

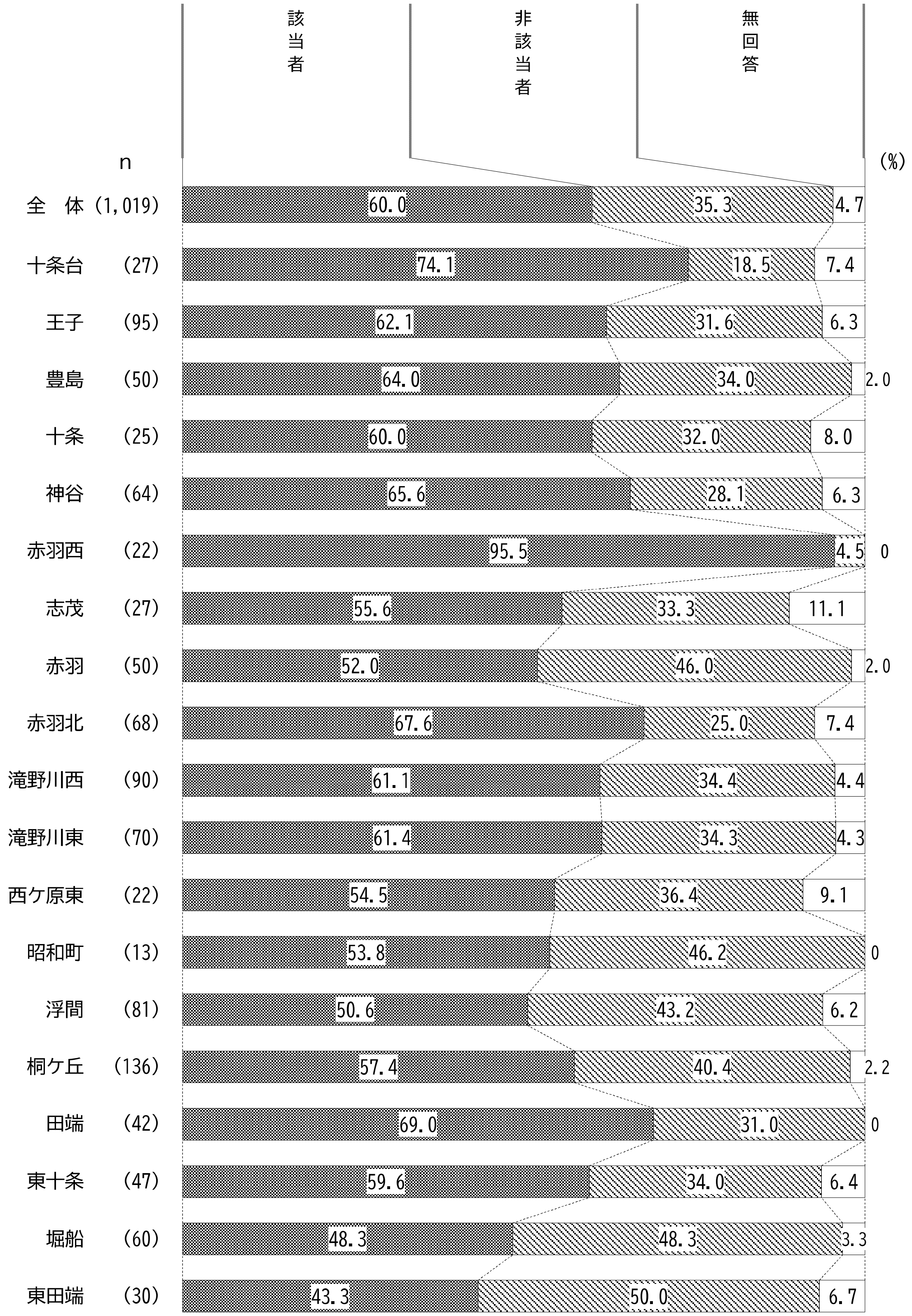
〈一般高齢者調査：居住地区別／認知機能低下リスク〉

認知機能低下リスクの割合を居住地区別に見ると、該当者は、昭和町（47.6％）、田端（41.8％）、十条台（40.2％）、西ヶ原東（40.0％）の順で多く、最も少ないのは志茂の26.9％となっています。



〈認定者調査：居住地区別／認知機能低下リスク〉

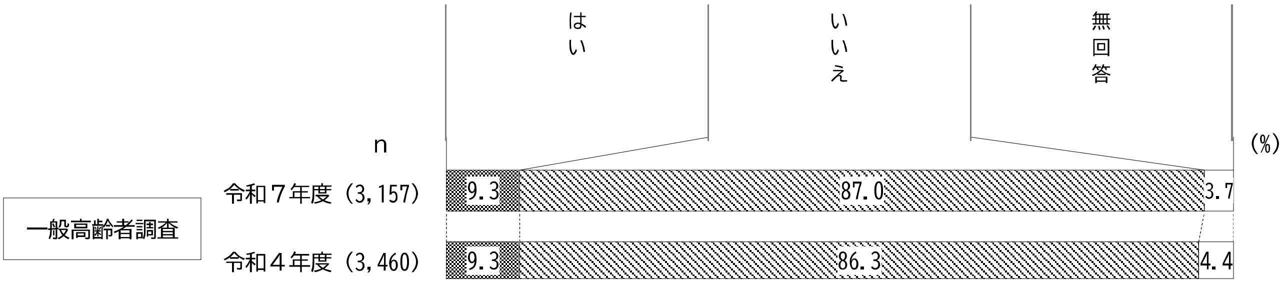
認知機能低下リスクの割合を居住地区別に見ると、該当者は、赤羽西（95.5％）、十条台（74.1％）、田端（69.0％）、赤羽北（67.6％）の順で多く、最も少ないのは東田端の43.3％となっています。



（２）家族の認知症症状の有無

|一|Ｑ３．あなた自身に認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。

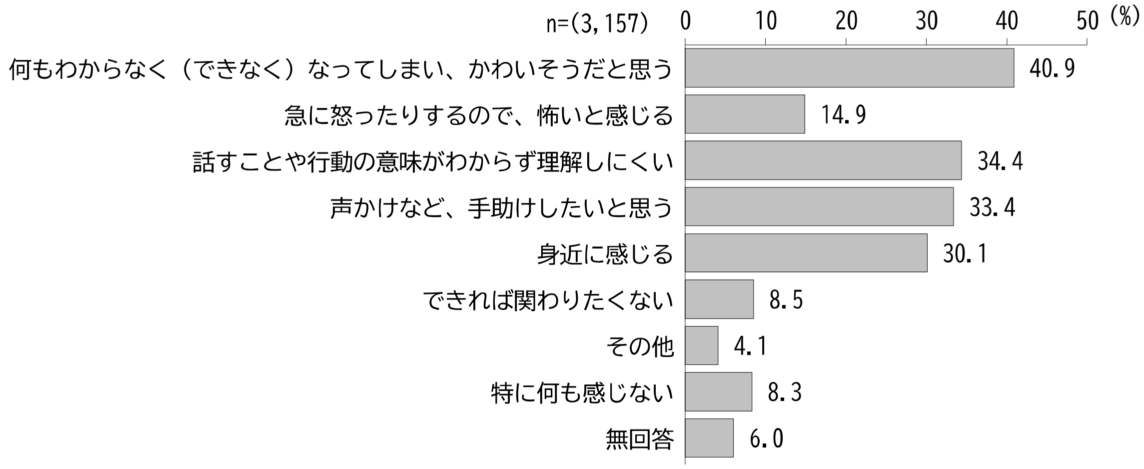
9.3％が「はい」（自分または家族に認知症の症状がある）と回答しています。
令和４年度と比較すると、大きな違いは見られません。



（３）認知症の印象

|一|Ｑ４．認知症について、あなたはどのような印象を持っていますか。

「何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う」が40.9％と最も多く、次いで「話すことや行動の意味がわからず理解しにくい」が34.4％、「声かけなど、手助けしたいと思う」が33.4％、「身近に感じる」が30.1％となっています。



〈一般高齢者調査：性別／認知症の印象〉

性別に見ると、男性では「何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う」（44.7%）、女性では「声かけなど、手助けしたいと思う」（40.7%）が最も多くなっています。また、「特に何も感じない」は男性で10.3%と女性（6.4%）よりもやや多くなっています。

（%）

	回答者数	何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う	急に怒ったりするので、怖いと感じる	話すことや行動の意味がわからず理解しにくい	声かけなど、手助けしたいと思う	身近に感じる	できれば関わりたくない	その他	特に何も感じない	無回答
一般／全体	3,157	40.9	14.9	34.4	33.4	30.1	8.5	4.1	8.3	6.0
男性	1,534	44.7	13.8	36.2	25.6	24.3	12.8	2.8	10.3	5.5
女性	1,586	37.3	16.1	32.8	40.7	35.9	4.2	5.4	6.4	6.5

〈一般高齢者調査：年齢別／認知症の印象〉

年齢別に見ると、「急に怒ったりするので、怖いと感じる」と「話すことや行動の意味がわからず理解しにくい」は低年齢層ほど割合が高くなっています。

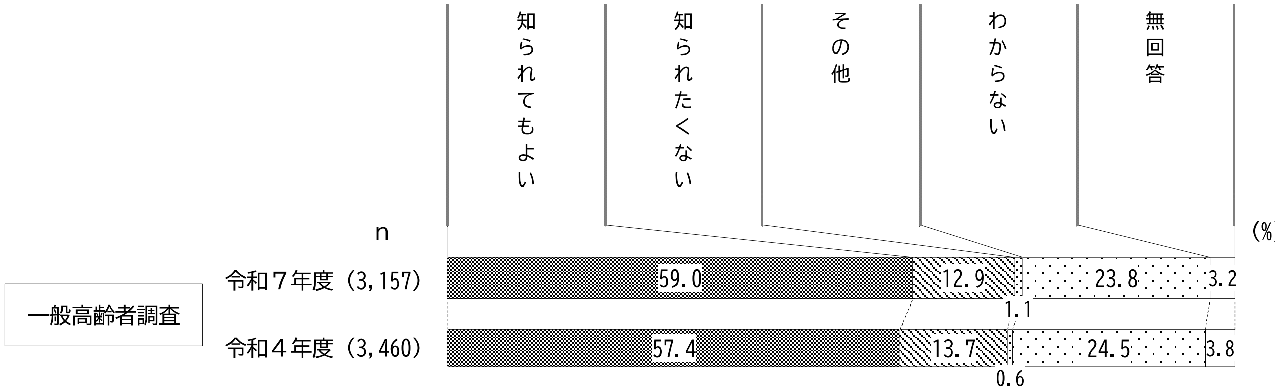
（%）

	回答者数	何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う	急に怒ったりするので、怖いと感じる	話すことや行動の意味がわからず理解しにくい	声かけなど、手助けしたいと思う	身近に感じる	できれば関わりたくない	その他	特に何も感じない	無回答
一般／全体	3,157	40.9	14.9	34.4	33.4	30.1	8.5	4.1	8.3	6.0
65～69歳	729	40.9	18.2	37.7	35.8	31.8	6.9	5.6	6.7	2.5
70～74歳	695	40.7	17.3	37.8	30.9	28.3	10.8	4.5	8.3	4.6
75～79歳	853	41.4	13.4	34.7	32.8	29.3	9.0	3.0	9.8	6.7
80～84歳	527	39.3	12.1	30.7	33.8	30.6	7.6	3.8	7.6	8.9
85～89歳	227	43.6	12.3	29.1	34.8	30.8	6.6	3.1	8.8	11.0
90歳以上	88	39.8	9.1	17.0	28.4	36.4	8.0	2.3	10.2	5.7

（４）認知症になった場合の周囲の認知

Q５．あなた自身が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。（○は１つ）

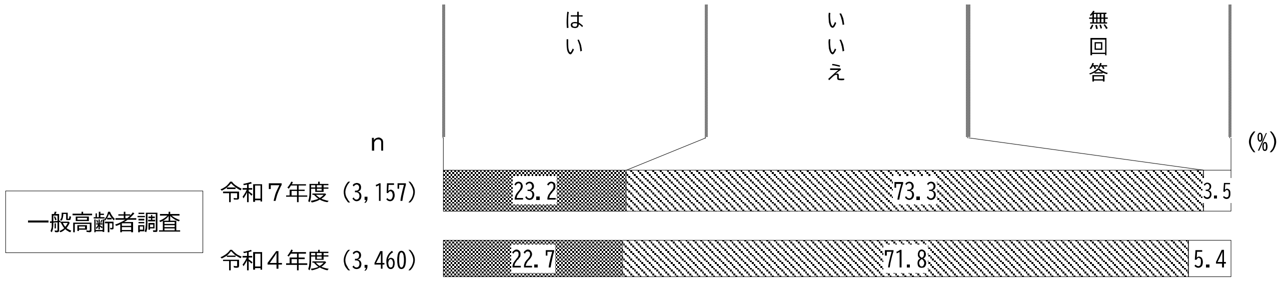
「知られてもよい」が59.0％と、「知られたくない」の12.9％を大きく上回っています。
令和４年度と比較すると、大きな違いは見られません。



（５）認知症相談窓口の認知度

Q６．認知症に関する相談窓口を知っていますか。

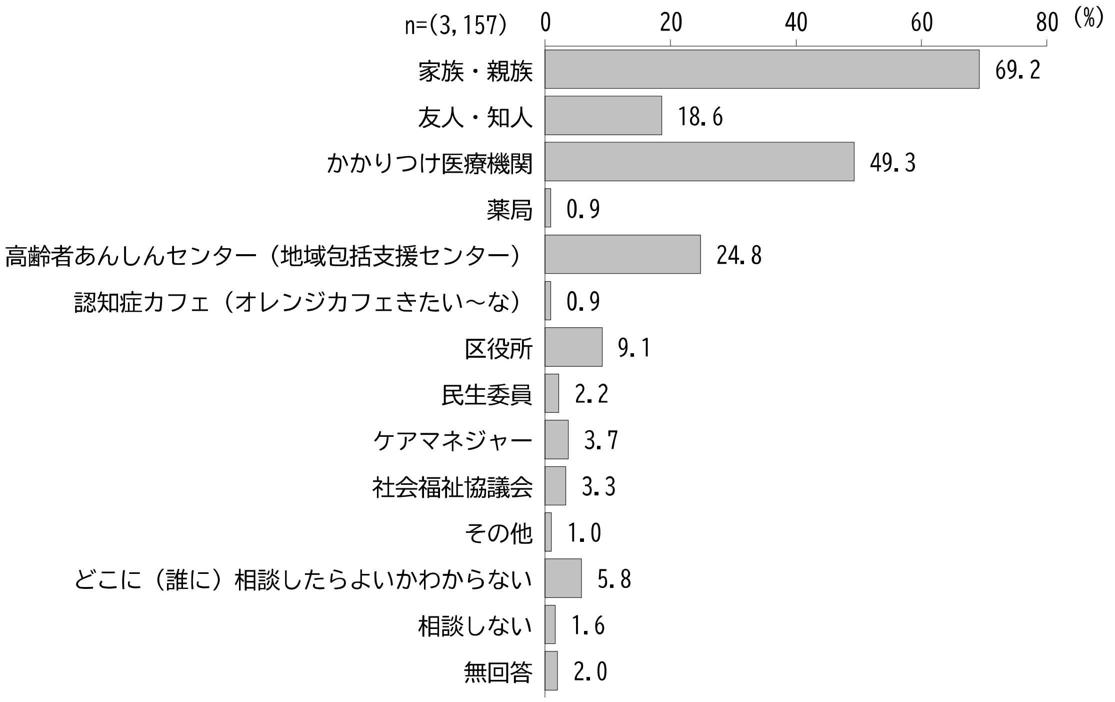
23.2％が「はい」（知っている）と回答しています。
令和４年度と比較すると、大きな違いは見られません。



（６）物忘れや認知症の相談先

【一Q６で「１．はい」と答えた方におうかがいします。】
一Q７．物忘れや認知症の不安がある時、どこに（誰に）相談をしようと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

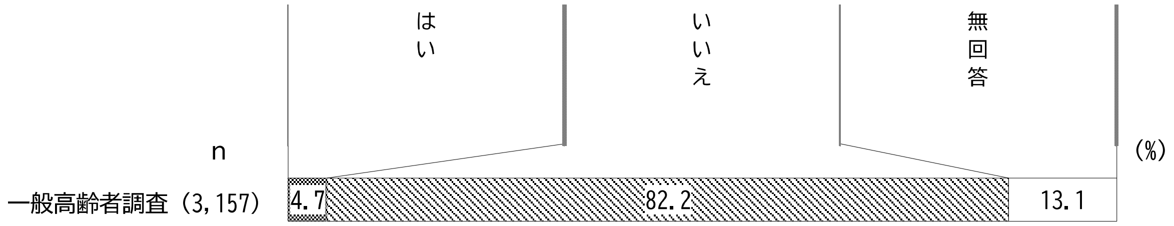
認知症相談窓口を知っている人の相談相手は、「家族・親族」が69.2％と最も多く、次いで「かかりつけ医療機関」（49.3％）、「高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）」（24.8％）、「友人・知人」（18.6％）となっています。



（７）北区認知症あんしんなびの認知度

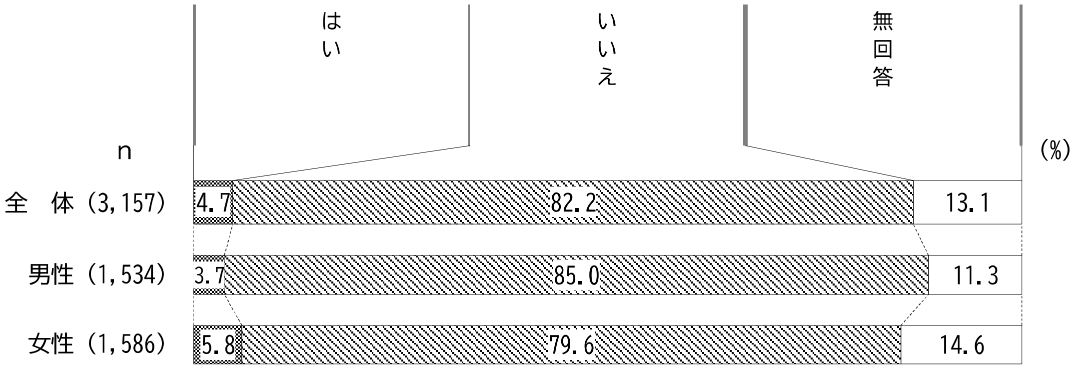
一Ｑ８．「北区認知症あんしんなび」を知っていますか。

4.7%が「はい」（知っている）と回答しています。



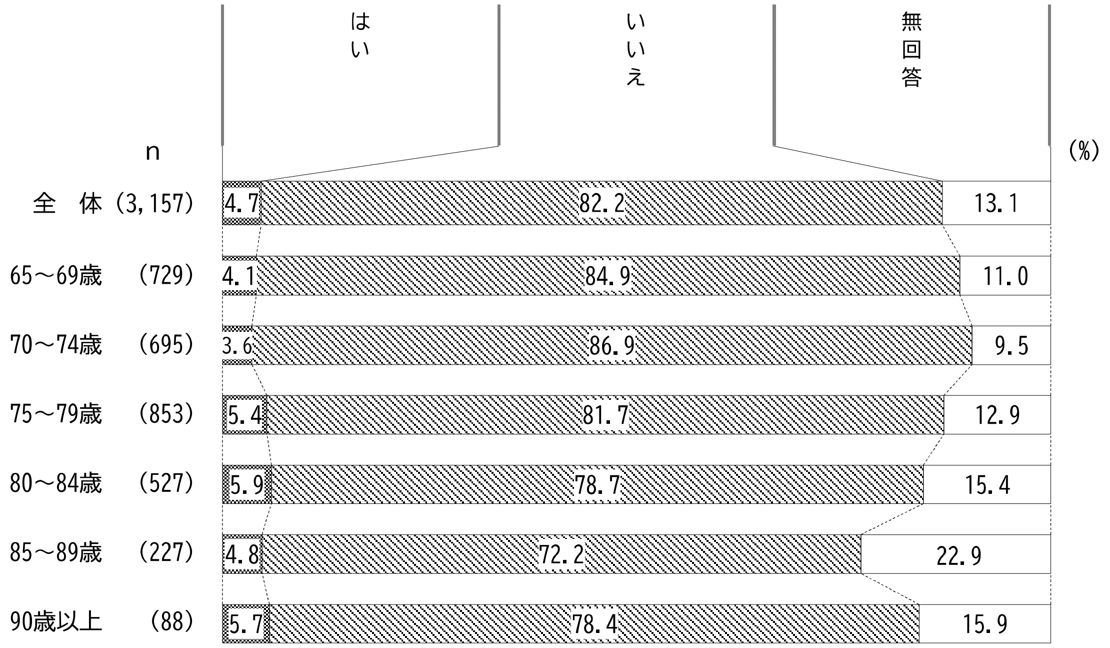
〈一般高齢者調査：性別／北区認知症あんしんなびの認知度〉

性別に見ると、「いいえ」（知らない）は男性で85.0%と、女性（79.6%）よりも5.4ポイント高くなっています。



〈一般高齢者調査：年齢別／北区認知症あんしんなびの認知度〉

年齢別に見ると、「いいえ」（知らない）は75～79歳までで８割台、80～84歳以降で７割台となっています。

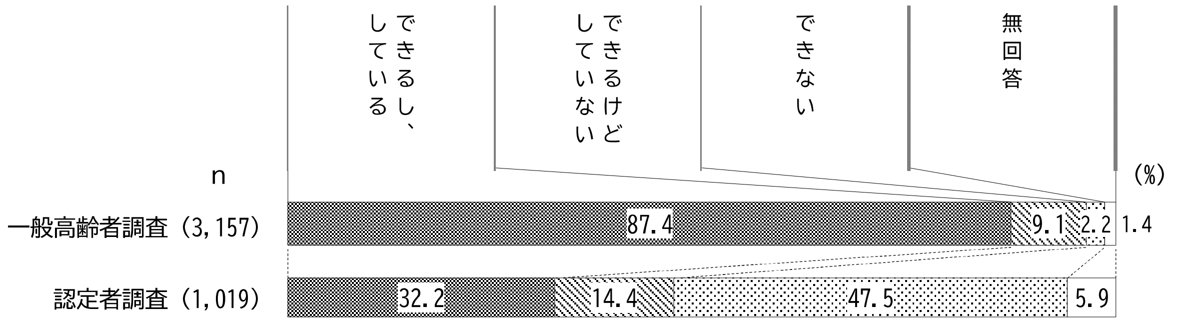


５．毎日の生活

（１）１人での外出

Ｑ１．バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。（○は１つ）

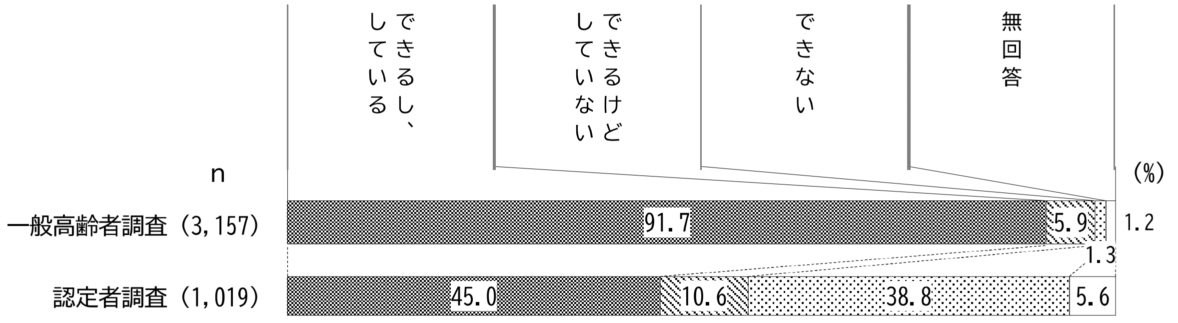
一般高齢者調査では、「できるし、している」が87.4%を占めますが、認定者調査では32.2%にとどまり、「できない」の47.5%よりも少なくなっています。



（２）食品・日用品の買物

Ｑ２．自分で食品・日用品の買物をしていますか。（○は１つ）

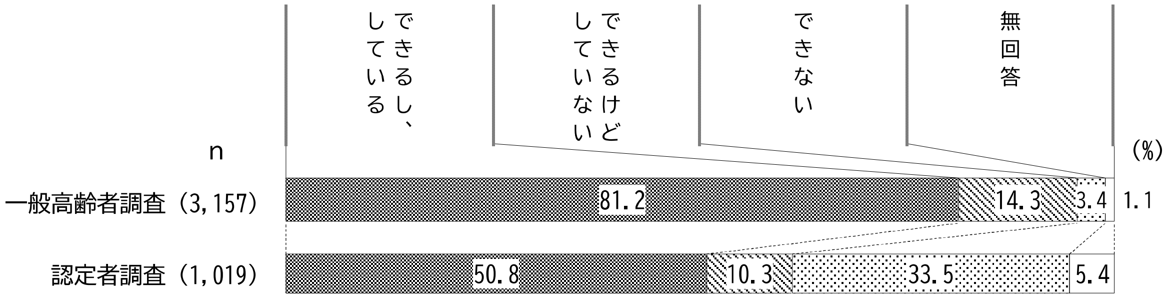
一般高齢者調査では、「できるし、している」が91.7%を占めていますが、認定者調査では45.0%で、「できない」が38.8%となっています。



（３）食事の用意

Ｑ３．自分で食事の用意をしていますか。（○は１つ）

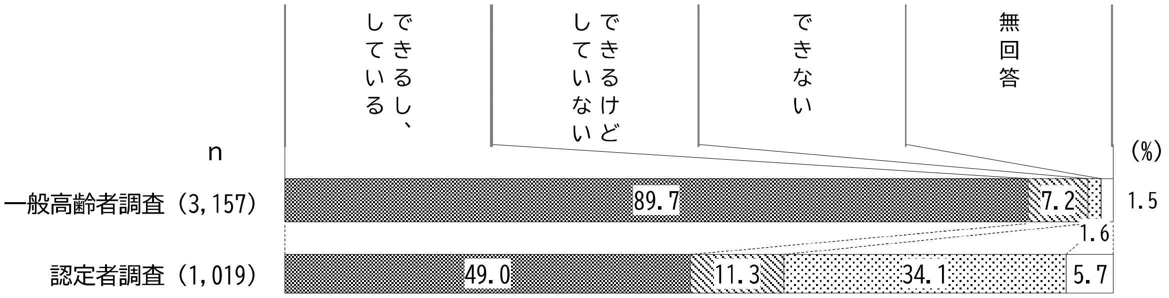
一般高齢者調査では、「できるし、している」が81.2％ですが、認定者調査では50.8％で、「できない」が33.5％となっています。



（４）請求書の支払い

Ｑ４．自分で請求書の支払いをしていますか。（○は１つ）

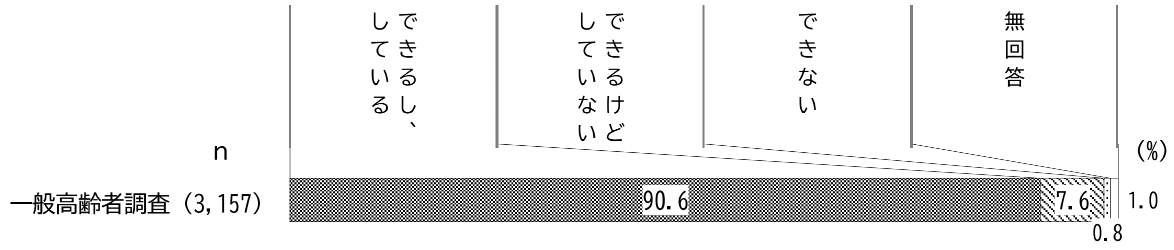
一般高齢者調査では、「できるし、している」が89.7％を占めますが、認定者調査では49.0％で、「できない」が34.1％となっています。



（５）ごみ出し

一Ｑ５．自分でごみ出しをしていますか。（○は１つ）

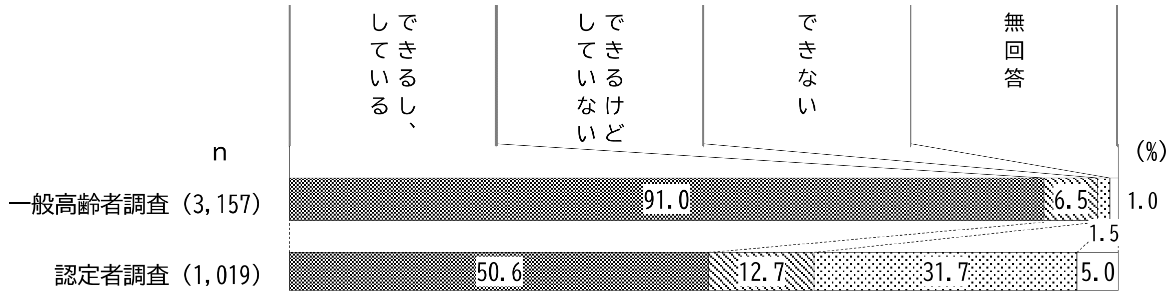
「できるし、している」が90.6％を占めています。



（６）預貯金の出し入れ

一Ｑ６認Ｑ５．自分で預貯金の出し入れをしていますか。（○は１つ）

一般高齢者調査では、「できるし、している」が91.0％を占めますが、認定者調査では50.6％で、「できない」が31.7％となっています。



〈IADL※ リスク〉

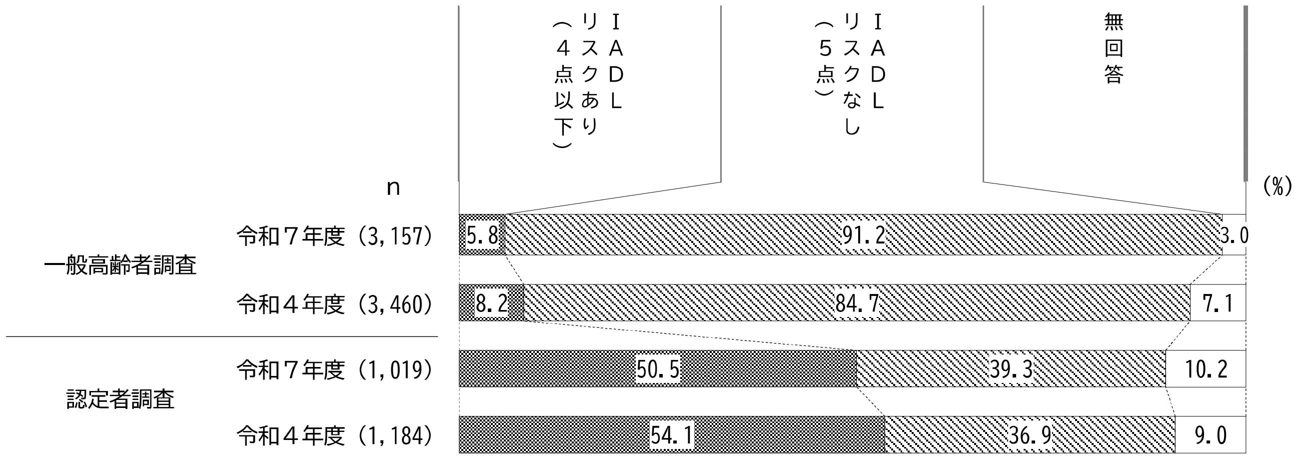
※「IADL」とは、手段的日常生活動作のことで、「掃除・料理・洗濯・買い物などの家事や交通機関の利用、電話対応などのコミュニケーション、スケジュール調整、服薬管理、金銭管理、趣味」などの複雑な動作を指します。

下記の５項目中、１つでもできない場合は、本調査において『IADL機能低下リスクがある高齢者』としました。
・バスや電車を使って１人で外出（Q１）
・自分で食品・日用品の買い物（Q２）
・自分で食事の用意（Q３）
・自分で請求書の支払い（Q４）
・自分で預貯金の出し入れ（一Q６認Q５）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和７年８月）

一般高齢者調査では、「IADLリスクなし」が91.2%を占めますが、認定者調査では39.3%で、「IADLリスクあり」（50.5%）の方が多くなっています。

令和４年度と比較すると、一般高齢者調査では「IADLリスクなし」が6.5ポイント増加しています。認定者調査では「IADLリスクあり」が3.6ポイント減少しています。



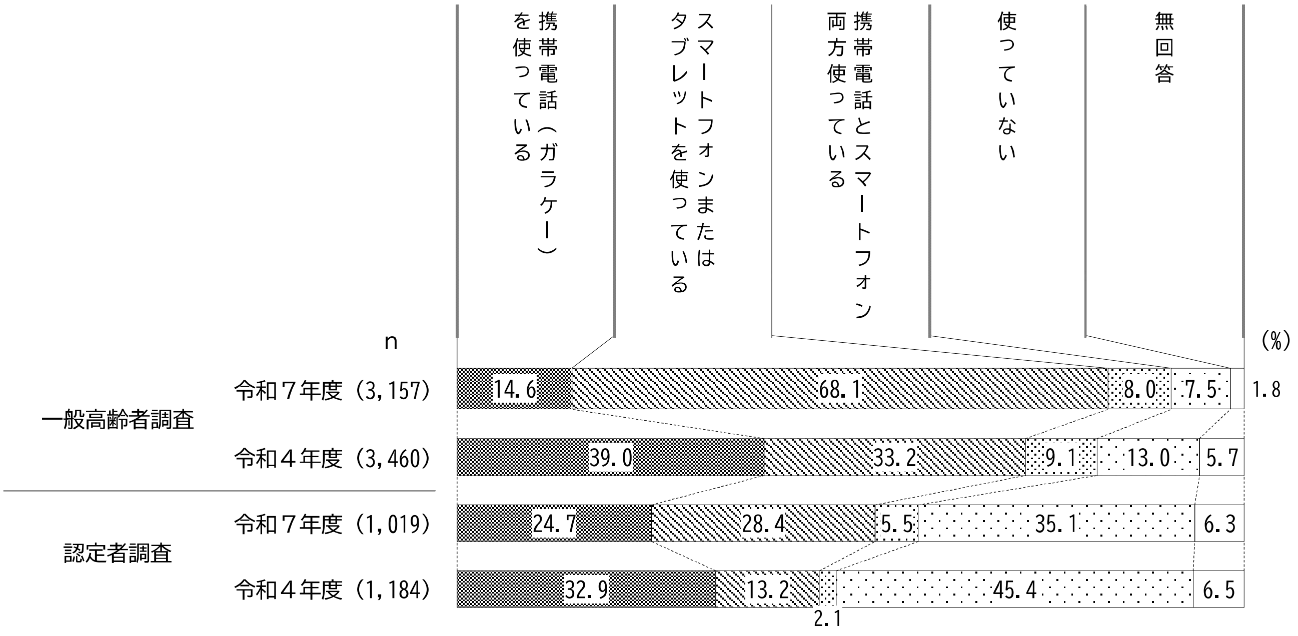
（７）スマートフォン等の使用状況

一Ｑ７認Ｑ６．携帯電話またはスマートフォン・タブレットを使っていますか。（〇は１つ）

一般高齢者調査では、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」が68.1％と最も多く、次いで「携帯電話（ガラケー）を使っている」が14.6％となっています。

認定者調査では、「使っていない」が35.1％で、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」が28.4％、「携帯電話（ガラケー）を使っている」が24.7％となっています。

令和４年度と比較すると、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は一般高齢者調査で34.9ポイント、認定者調査で15.2ポイント増加しています。一方、「携帯電話（ガラケー）を使っている」は一般高齢者調査で24.4ポイント、認定者調査で8.2ポイント、「使っていない」は一般高齢者調査で5.5ポイント、認定者調査で10.3ポイント減少しています。



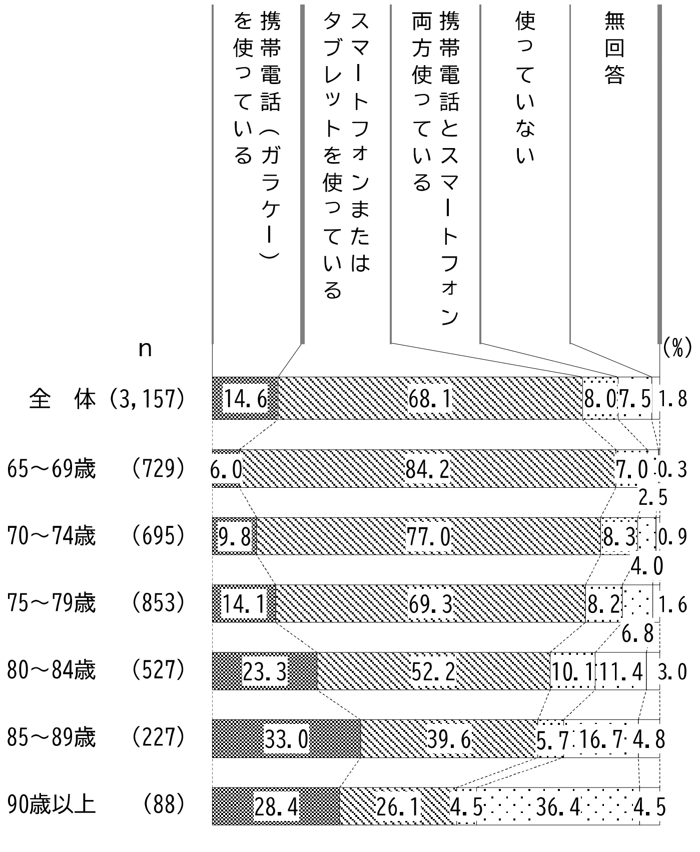
※今回調査の選択肢「携帯電話（ガラケー）を使っている」は、令和４年度調査では「携帯電話を使っている」、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は「スマートフォンもしくはタブレットを使っている」、「携帯電話とスマートフォンを両方使っている」は「両方使っている」だった。

〈一般高齢者調査：年齢別／スマートフォン等の使用状況〉

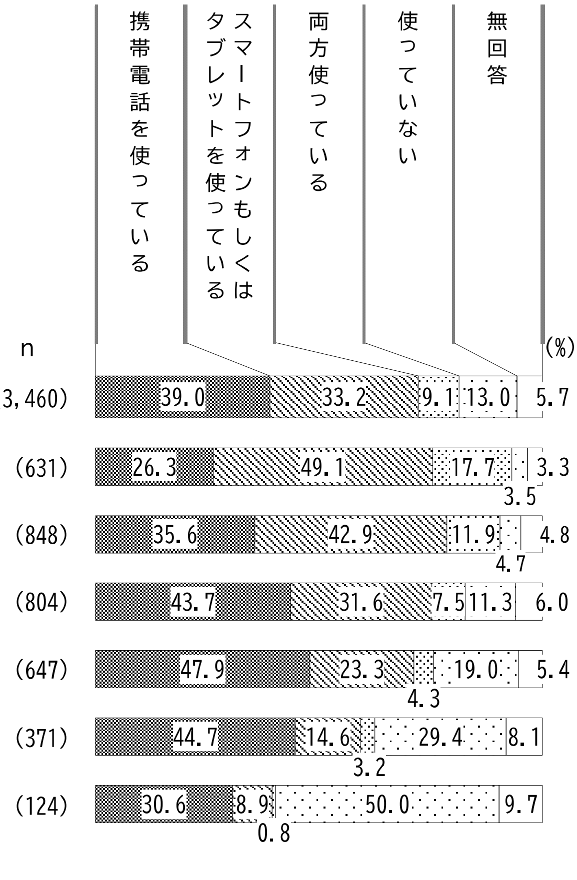
一般高齢者調査を年齢別に見ると、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は低年齢層ほど割合が高く、「使っていない」は高年齢層ほど高くなっています。また、85～89歳では「携帯電話（ガラケー）を使っている」が３割を超えています。

年齢別の結果を令和４年度と比較すると、「携帯電話（ガラケー）を使っている」は65～69歳から80～84歳までで20～30ポイント以上減少しています。また、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は65～69歳から75～79歳までで30ポイント以上、80～84歳から90歳以上で15ポイント以上増加しており、すべての年代で割合が大きく増加しています。一方、「使っていない」は85～89歳と90歳以上で10ポイント以上減少しています。

【令和７年度】



【令和４年度】

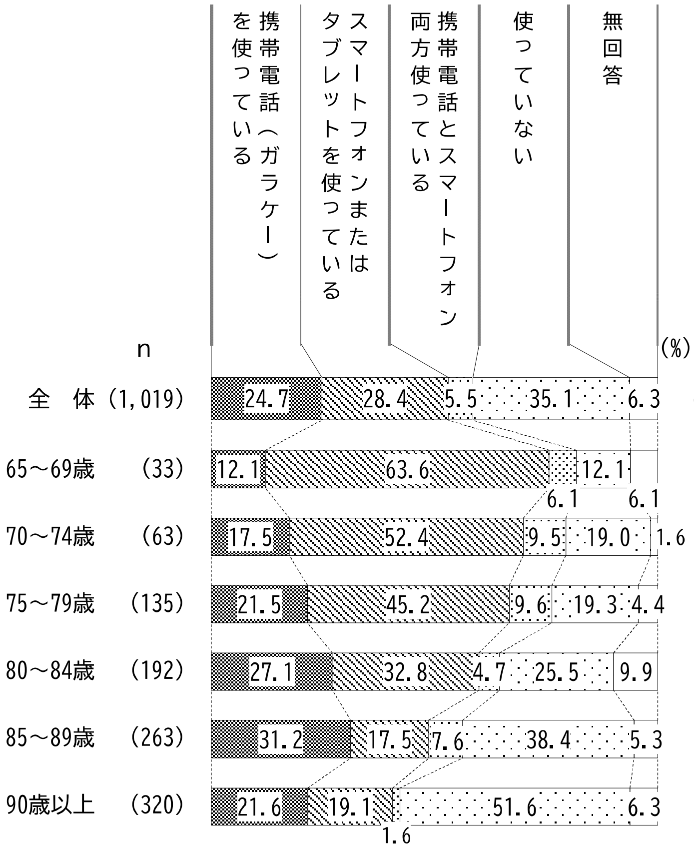


〈認定者調査：年齢別／スマートフォン等の使用状況〉

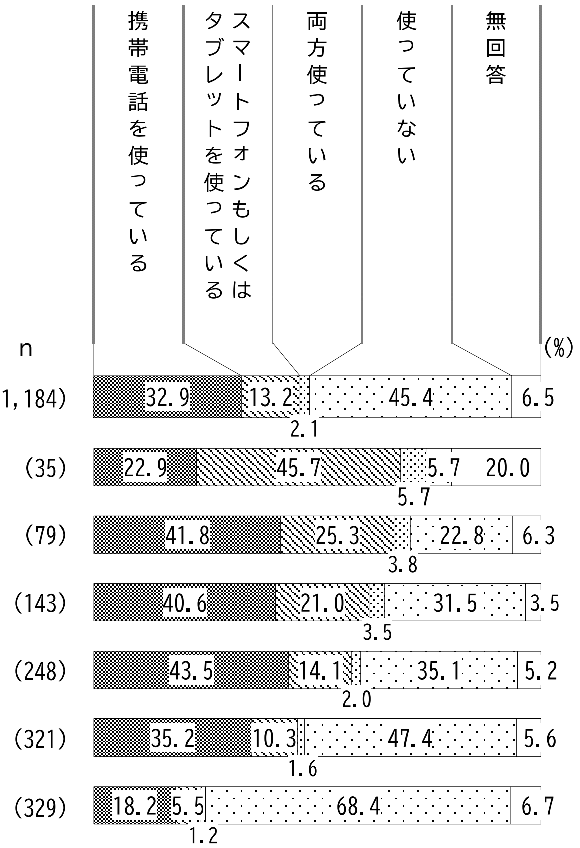
認定者調査を年齢別に見ると、一般高齢者調査と同様に「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は低年齢層ほど割合が高くなっています。また、「使っていない」は高年齢層ほど高く、90歳以上では「使っていない」が５割を超えています。

認定者調査では、「携帯電話（ガラケー）を使っている」は65～69歳から80～84歳までで10～20ポイント以上減少しています。また、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は65～69歳から80～84歳までで15～20ポイント以上増加しています。一方、「使っていない」は75～79歳から90歳以上で約10ポイント減少しています。

【令和７年度】



【令和４年度】

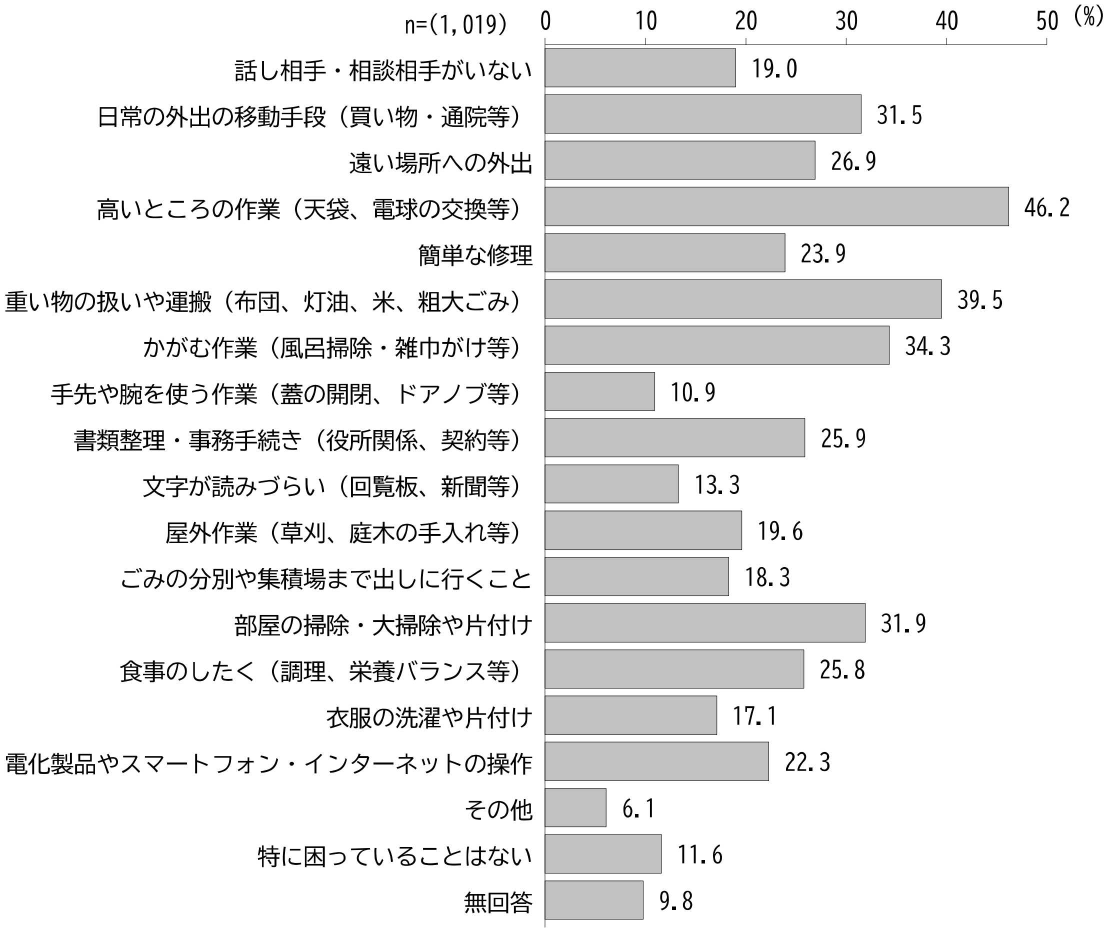


（８）日常生活で手助けをしてほしいこと

認Q10. あなたが日常生活で手助けをしてほしいことがあれば、それはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

全体から「特に困っていることはない」と無回答を除いた78.6％が、手助けしてほしいことを挙げています。

「高いところの作業（天袋、電球の交換等）」が46.2％で最も多く、以下、「重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）」（39.5％）、「かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）」（34.3％）、「部屋の掃除・大掃除や片付け」（31.9％）、「日常の外出の移動手段（買い物・通院等）」（31.5％）と続いています。



〈家族構成別／日常生活で手助けをしてほしいこと〉

家族構成別に見ると、「高いところの作業（天袋、電球の交換等）」、「重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）」や「かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）」は“１人暮らし”で多く、「遠い場所への外出」、「部屋の掃除・大掃除や片付け」、「食事のしたく（調理、栄養バランス等）」や「衣服の洗濯や片付け」は“息子・娘との２世帯”で多くなっています。

(%)

	回答者数	話し相手・相談相手がいない	日常の外出の移動手段（買い物・通院等）	遠い場所への外出	高いところの作業（天袋、電球の交換等）	簡単な修理	重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）	かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）	手先や腕を使う作業（蓋の開閉、ドアノブ等）	書類整理・事務手続き（役所関係、契約等）	文字が読みづらい（回覧板、新聞等）
認定者／全体	1,019	19.0	31.5	26.9	46.2	23.9	39.5	34.3	10.9	25.9	13.3
１人暮らし	603	21.2	33.7	26.4	54.1	26.5	44.3	39.3	10.9	27.5	13.9
配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）	121	11.6	28.1	24.8	37.2	18.2	35.5	23.1	5.0	18.2	9.9
配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）	5	20.0	60.0	80.0	80.0	60.0	80.0	60.0	40.0	80.0	40.0
息子・娘との２世帯	148	19.6	31.8	34.5	36.5	23.0	37.2	34.5	16.9	30.4	15.5
その他	117	15.4	27.4	20.5	29.1	18.8	23.9	23.1	10.3	19.7	12.0

	回答者数	屋外作業（草刈、庭木の手入れ等）	ごみの分別や集積場まで出しに行くこと	部屋の掃除・大掃除や片付け	食事のしたく（調理、栄養バランス等）	衣服の洗濯や片付け	電化製品やスマートフォン・インターネットの操作	その他	特に困っていることはない	無回答
認定者／全体	1,019	19.6	18.3	31.9	25.8	17.1	22.3	6.1	11.6	9.8
１人暮らし	603	20.1	19.1	34.7	25.0	14.6	25.0	4.5	8.1	6.3
配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）	121	14.9	9.1	19.8	26.4	12.4	14.9	4.1	19.8	16.5
配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）	5	60.0	40.0	60.0	40.0	60.0	80.0	20.0	-	20.0
息子・娘との２世帯	148	24.3	22.3	37.2	31.1	29.1	22.3	6.8	16.2	10.1
その他	117	16.2	19.7	23.9	23.9	18.8	12.8	15.4	15.4	17.1

〈認定者調査：要介護度別（要支援１・２のみ）／日常生活で手助けをしてほしいこと〉

要介護度別（要支援１・２のみ）に見ると、「かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）」、「重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）」や「部屋の掃除・大掃除や片付け」は“要支援２”の方が“要支援１”よりも10ポイント以上高くなっています。

（%）

	回答者数	話し相手・相談相手がいない	日常の外出の移動手段（買い物・通院等）	遠い場所への外出	高いところの作業（天袋、電球の交換等）	簡単な修理	重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）	かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）	手先や腕を使う作業（蓋の開閉、ドアノブ等）	書類整理・事務手続き（役所関係、契約等）	文字が読みづらい（回覧板、新聞等）
認定者／全体	1,019	19.0	31.5	26.9	46.2	23.9	39.5	34.3	10.9	25.9	13.3
要支援１	312	14.7	24.4	29.2	55.8	24.7	42.6	34.3	9.3	18.9	10.3
要支援２	193	14.0	34.2	26.4	57.0	22.3	52.8	48.2	11.4	25.9	10.9

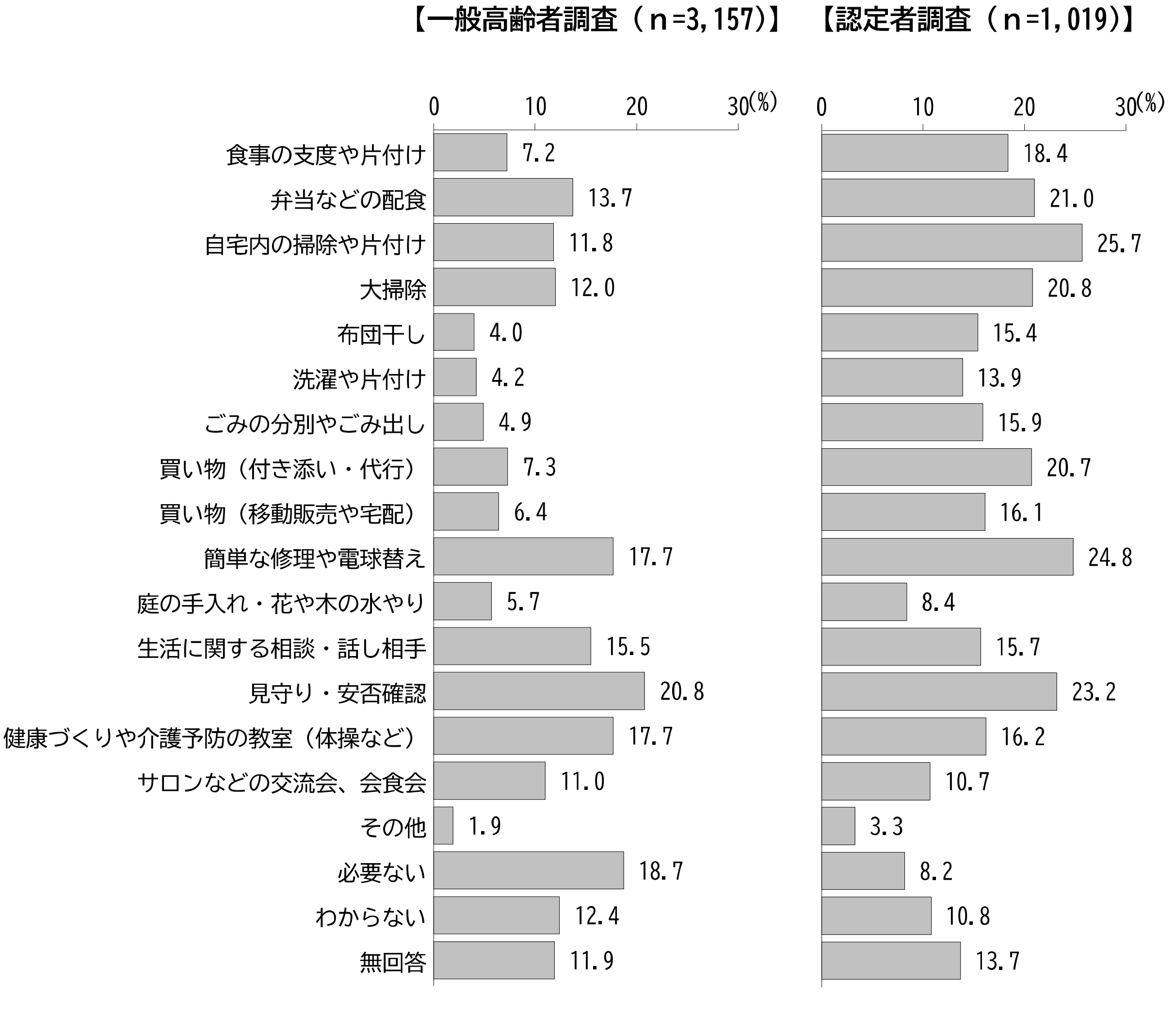
	回答者数	屋外作業（草刈、庭木の手入れ等）	ごみの分別や集積場まで出しに行くこと	部屋の掃除・大掃除や片付け	食事のしたく（調理、栄養バランス等）	衣服の洗濯や片付け	電化製品やスマートフォン・インターネットの操作	その他	特に困っていることはない	無回答
認定者／全体	1,019	19.6	18.3	31.9	25.8	17.1	22.3	6.1	11.6	9.8
要支援１	312	19.2	13.1	29.2	18.9	10.9	20.2	3.5	11.9	6.7
要支援２	193	23.3	19.7	39.9	21.8	15.0	24.9	3.6	5.7	5.7

（９）自立した生活を続けていくために必要なサービスや地域の支え合い

> 一Q13 認Q12. 地域の中で、自立した生活を続けていくために、どのようなサービスや地域の支え合いがあるとよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

一般高齢者調査では、「見守り・安否確認」が20.8％と最も多く、次いで「簡単な修理や電球替え」と「健康づくりや介護予防の教室（体操など）」が17.7％となっています。一方、「必要ない」は18.7％となっています。

認定者調査では、「自宅内の掃除や片付け」が25.7％と最も多く、次いで「簡単な修理や電球替え」（24.8％）、「見守り・安否確認」（23.2％）、「弁当などの配食」（21.0％）となっています。

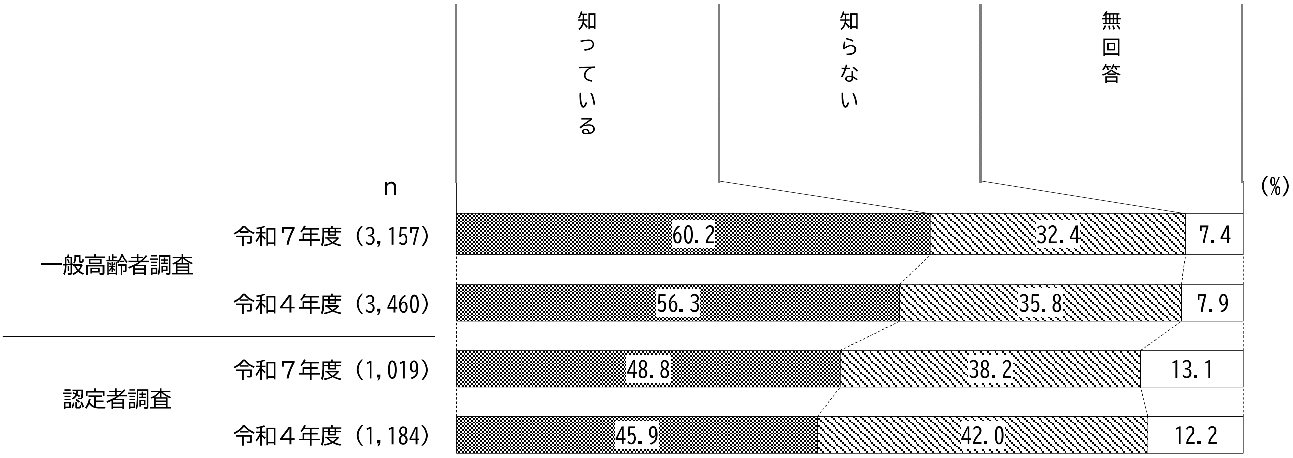


（10）成年後見制度の認知状況

一Q14認Q13年後見制度※ をご存じですか。（○は１つ）
※成年後見制度：認知症などで物事の判断が困難になった場合、本人に代わって財産管理や契約行為等を行う後見人を選定し、法律的に保護・支援する制度です。後見人には、家族や親族の他に弁護士・司法書士・社会福祉士などが選任されます。

「知っている」は、一般高齢者調査で60.2%、認定者調査で48.8%となっています。

令和４年度と比較すると、「知っている」は一般高齢者調査で3.9ポイント、認定者調査で2.9ポイント増加しています。

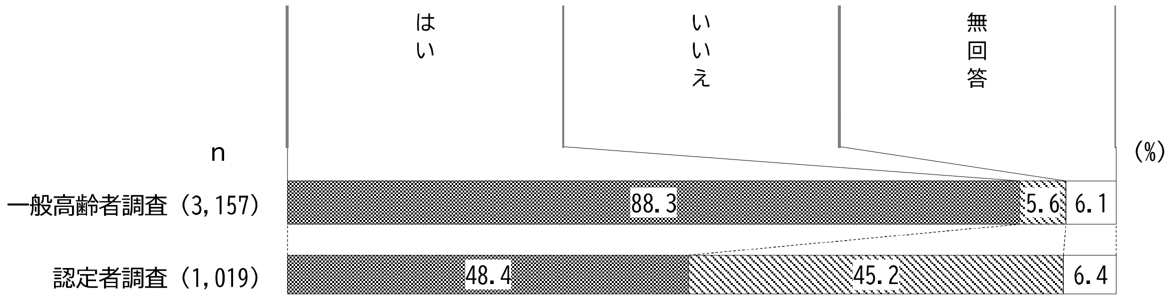


６．社会参加

（１）書類の記入

Ｑ１．年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。

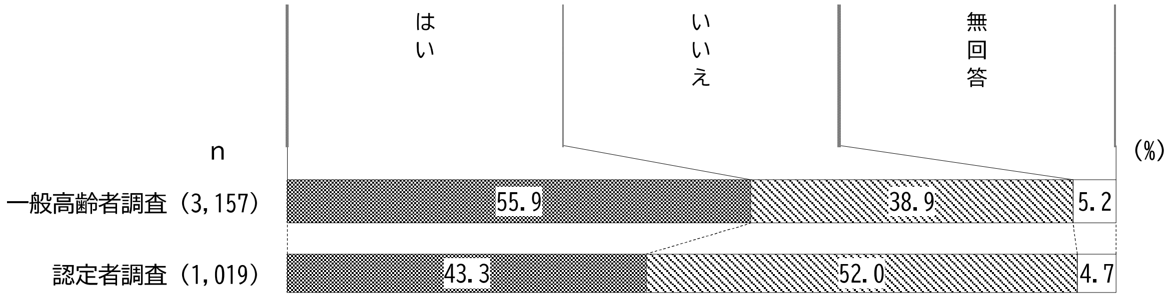
「はい」（書ける）は、一般高齢者調査で88.3％ですが、認定者調査では48.4％で、「いいえ」（書けない）の45.2％に近い数字となっています。



（２）新聞閲読

Ｑ２．新聞を読んでいますか。

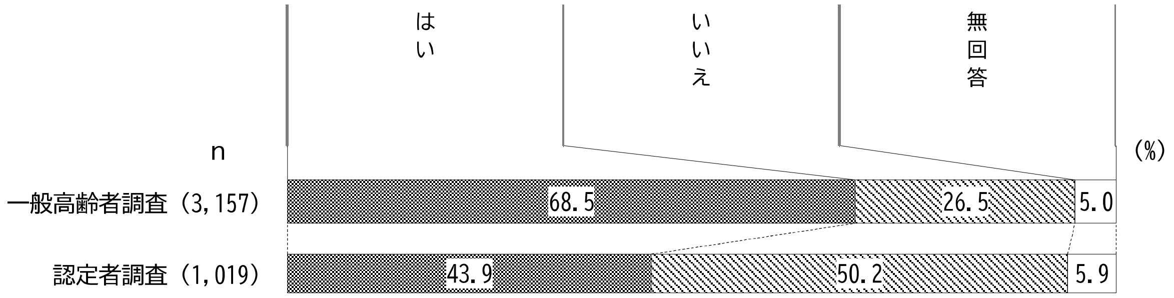
「はい」（読んでいる）は、一般高齢者調査で55.9％ですが、認定者調査では43.3％で、「いいえ」（読んでいない）よりも少なくなっています。



（３）本や雑誌の閲読

Ｑ３．本や雑誌を読んでいますか。

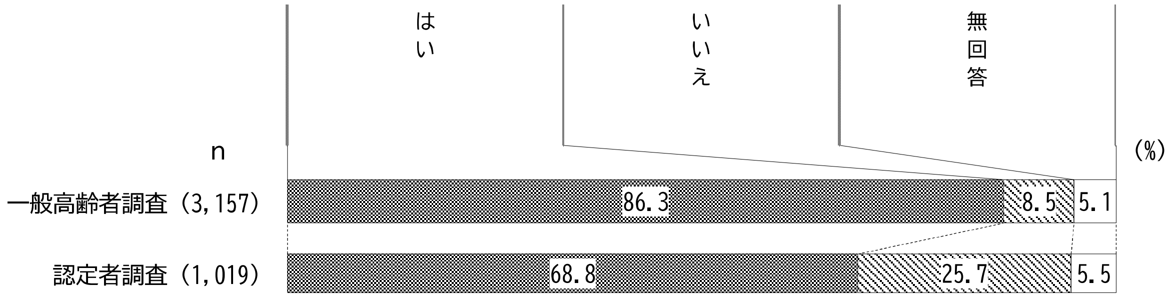
「はい」（読んでいる）は、一般高齢者調査で68.5%、認定者調査で43.9%となっています。



（４）健康記事、番組への関心

Ｑ４．健康についての記事や番組に関心がありますか。

「はい」（関心がある）は、一般高齢者調査で86.3%、認定者調査で68.8%となっています。



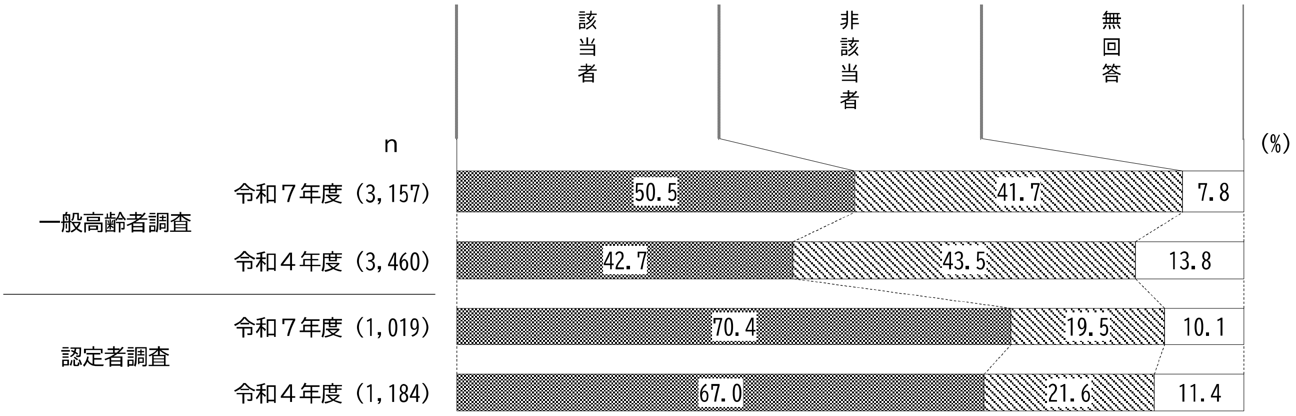
〈知的能動性の低下〉

下記の４項目中、１つでも「いいえ」（書けない、読んでいない、関心がない）に該当する場合は、本調査において『知的能動性の低下リスクがある高齢者』としました。
・書類の記入（Ｑ１）
・新聞閲読（Ｑ２）
・本や雑誌の閲読（Ｑ３）
・健康記事、番組への関心（Ｑ４）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和７年８月）

知的能動性の低下への「該当者」は、一般高齢者調査で50.5%、認定者調査で70.4%となっています。

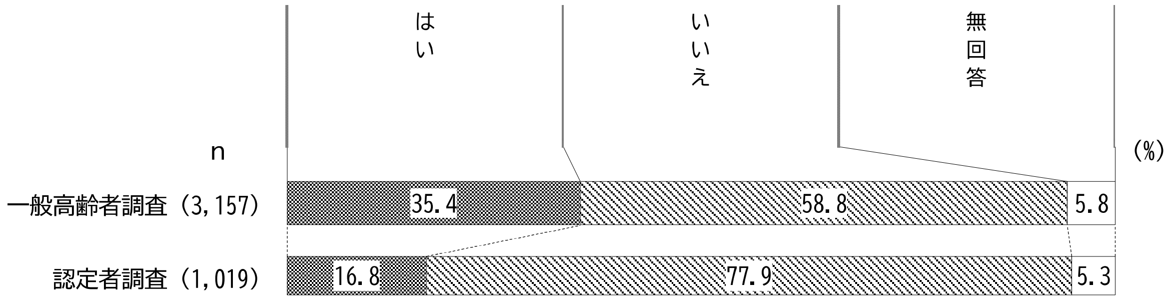
令和４年度と比較すると、「該当者」は一般高齢者調査で7.8ポイント、認定者調査で3.4ポイント増加しています。



（５）友人宅の訪問

Ｑ５．友人の家を訪ねていますか。

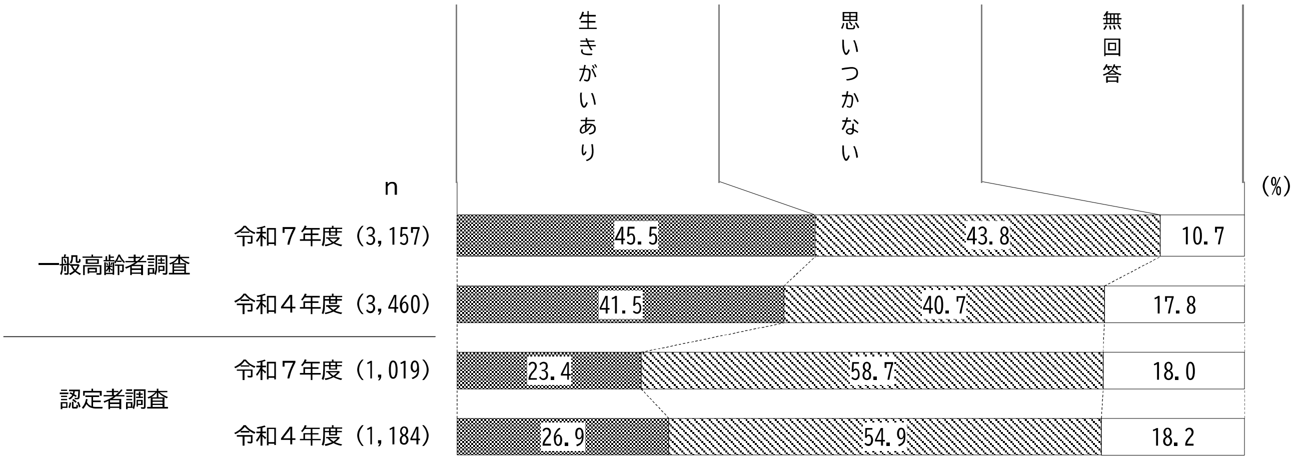
「はい」（訪ねている）は、一般高齢者調査で35.4％、認定者調査で16.8％となっています。



（６）生きがいの有無・内容

Q10. 生きがいはありますか。（〇は１つ）

一般高齢者調査では、「生きがいあり」（45.5％）と「思いつかない」（43.8％）がほぼ同率で、認定者調査では、「生きがいあり」が23.4％と、「思いつかない」（58.7％）を下回っています。



〈生きがいの内容／上位10項目〉

生きがいの内容について見ると、一般高齢者調査では、「趣味・レジャー」が455件と最も多く、次いで「孫との交流」が293件、「家族との交流」が216件、「仕事」が182件となっています。

認定者調査では、「趣味・レジャー」が67件と最も多く、次いで「孫との交流」が44件、「家族との交流」が32件、「友人などとの交流」が29件となっています。

一般高齢者

	項　目	件 数
1	趣味・レジャー	455
2	孫との交流	293
3	家族との交流	216
4	仕事	182
5	友人などとの交流	161
6	健康、元気	128
7	社会活動	77
8	楽しく穏やかな毎日	74
9	夢・目標にむかっての行動	53
10	ペット、動物	39

認定者調査

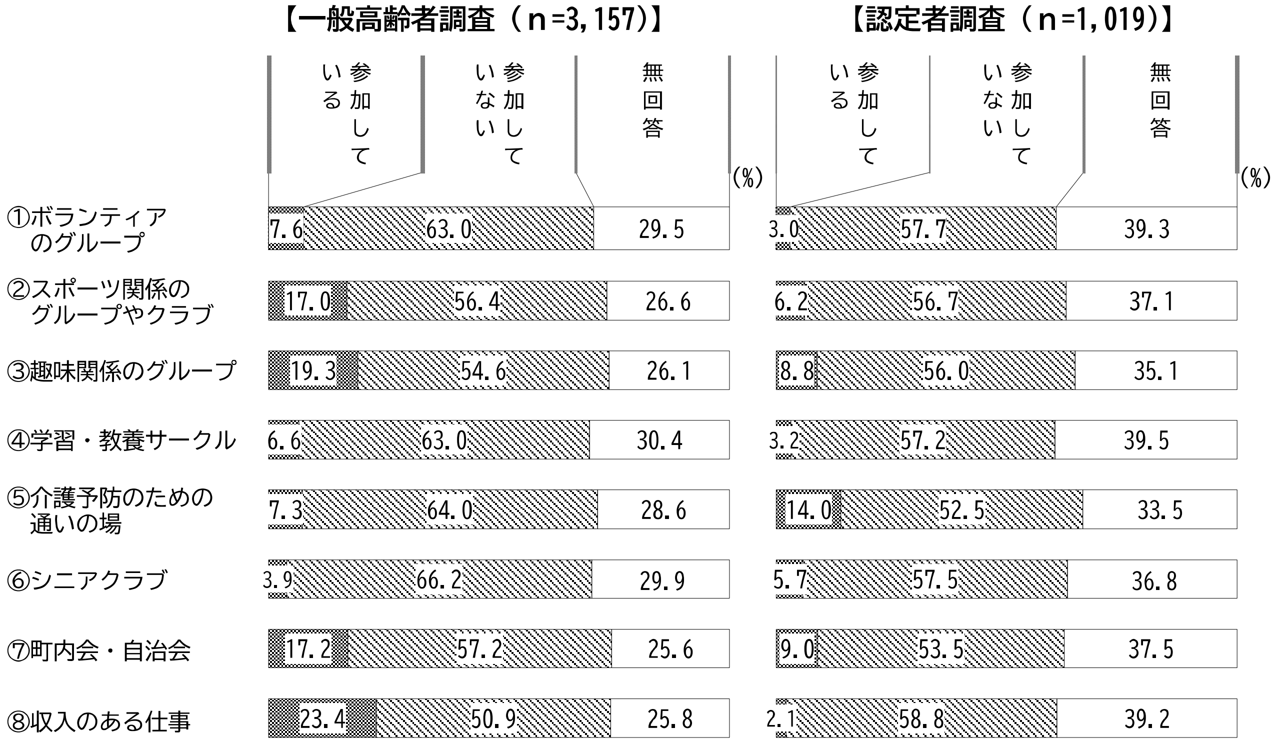
	項　目	件 数
1	趣味・レジャー	67
2	孫との交流	44
3	家族との交流	32
4	友人などとの交流	29
5	楽しく穏やかな毎日	12
6	健康、元気	7
6	夢・目標にむかっての行動	7
8	宗教・信教	6
9	社会活動	5
10	仕事	4
10	配偶者	4
10	投資、ギャンブル	4

（７）地域活動への参加頻度

> Q11. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。（それぞれ○は１つ）

一般高齢者調査では、“収入のある仕事”への参加は２割を超え、“趣味関係のグループ”で２割弱となっています。

認定者調査では、“介護予防のための通いの場”への参加が１割を超えています。



※下記表は、上記グラフ「参加している」の内訳（「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」）の割合を掲載したもの。

一般高齢者調査 (%)

	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.7	1.1	1.1	2.3	2.3	63.0	29.5
②スポーツ関係のグループやクラブ	3.0	5.3	4.0	3.0	1.7	56.4	26.6
③趣味関係のグループ	1.0	2.9	3.8	7.7	3.9	54.6	26.1
④学習・教養サークル	0.1	0.5	1.3	2.4	2.2	63.0	30.4
⑤介護予防のための通いの場	0.5	1.4	2.8	1.7	1.0	64.0	28.6
⑥シニアクラブ	0.1	0.5	1.0	1.3	1.0	66.2	29.9
⑦町内会・自治会	0.6	0.9	1.1	4.6	9.9	57.2	25.6
⑧収入のある仕事	13.9	6.0	0.8	1.5	1.3	50.9	25.8

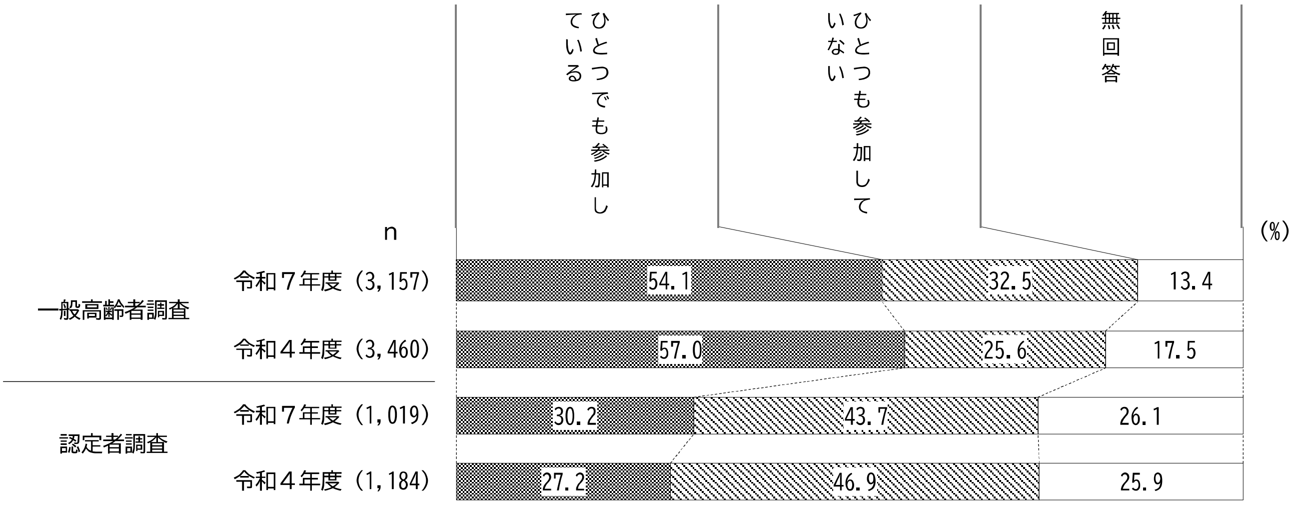
認定者調査 (%)

	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.3	0.3	0.7	1.2	0.6	57.7	39.3
②スポーツ関係のグループやクラブ	1.1	1.9	1.9	1.1	0.3	56.7	37.1
③趣味関係のグループ	0.6	1.6	2.6	2.9	1.2	56.0	35.1
④学習・教養サークル	0.2	0.1	0.9	0.8	1.3	57.2	39.5
⑤介護予防のための通いの場	1.1	4.8	4.9	1.9	1.4	52.5	33.5
⑥シニアクラブ	0.7	0.6	1.5	1.5	1.5	57.5	36.8
⑦町内会・自治会	0.8	0.4	0.8	1.6	5.5	53.5	37.5
⑧収入のある仕事	0.9	0.2	0.1	0.5	0.4	58.8	39.2

〈地域活動にひとつでも参加している方・経年比較〉

「ひとつでも参加している」は、一般高齢者調査で54.1％ですが、認定者調査では30.2％で「ひとつも参加していない」（43.7％）を大きく下回っています。

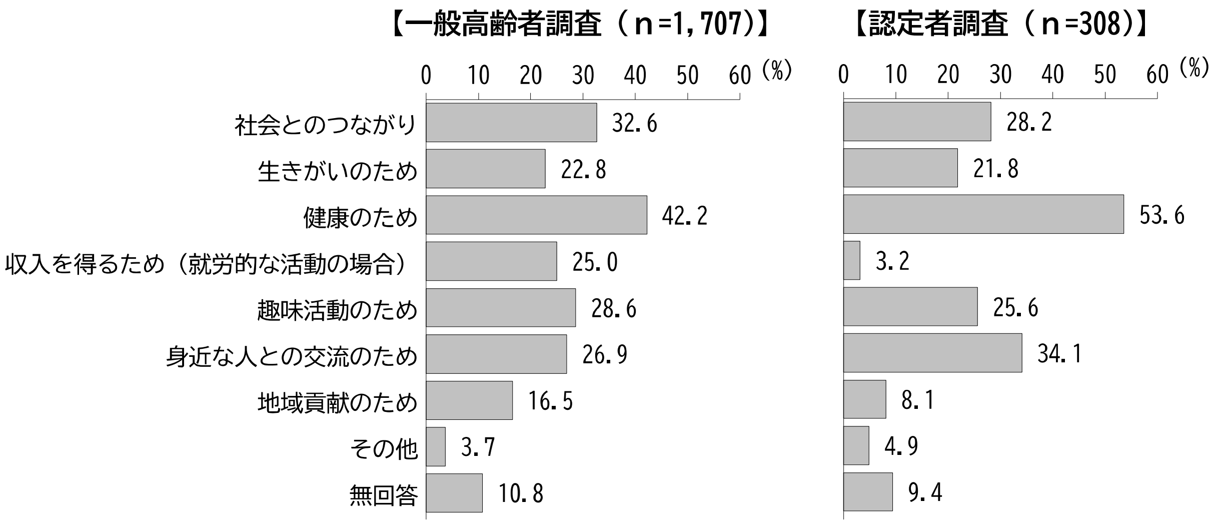
令和４年度と比較すると、「ひとつでも参加している」は認定者調査で3.0ポイント増加しています。



（８）地域活動に参加する理由

【Q11①～⑧で一つでも「１」～「５」に〇をつけた方に伺います】
Q13. 地域活動に参加されている理由は何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

いずれの調査も「健康のため」が最も多く、一般高齢者調査では「社会とのつながり」、「趣味活動のため」、認定者調査では「身近な人との交流のため」、「社会とのつながり」がこれに続いています。

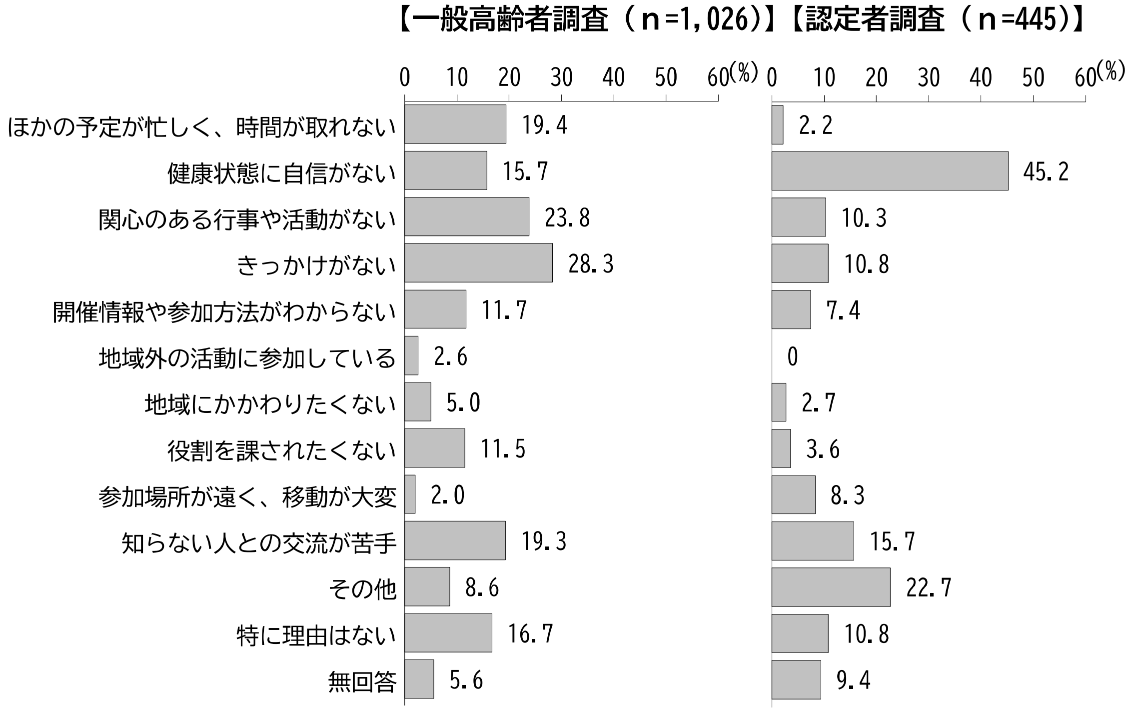


（９）地域活動に参加しない理由

【Q11①～⑧ですべて「６」に○をつけた方に伺います】
Q15. 地域活動に参加されていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

一般高齢者調査では「きっかけがない」が28.3％と最も多く、次いで「関心のある行事や活動がない」が23.8％、「ほかの予定が忙しく、時間が取れない」が19.4％、「知らない人との交流が苦手」が19.3％となっています。

認定者調査では「健康状態に自信がない」が45.2％と最も多く、次いで「その他」が22.7％、「知らない人との交流が苦手」が15.7％となっています。



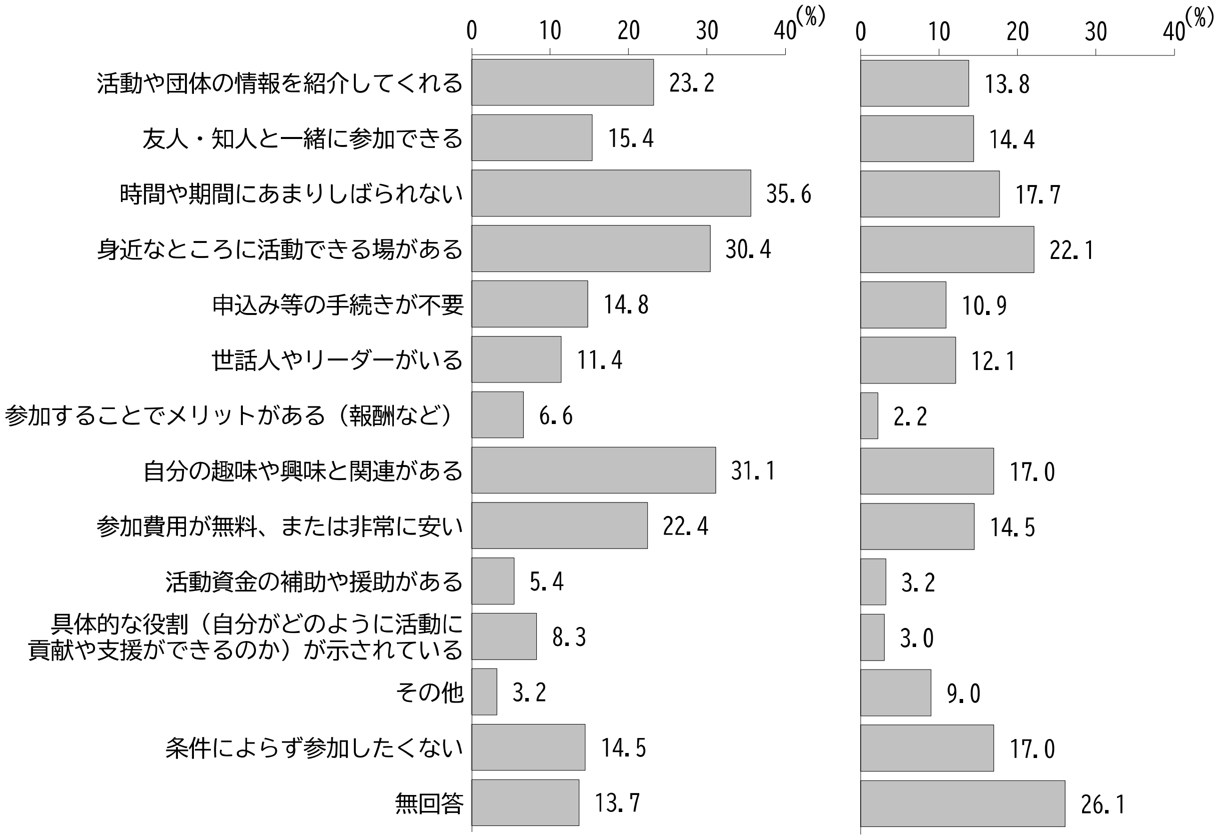
（10）地域活動に参加しやすくなるために必要な要素

【すべての人に伺います】
Q16. あなたが地域活動に参加しやすくなりためには、どんな要素があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

一般高齢者調査では「時間や期間にあまりしばられない」が35.6％と最も多く、次いで「自分の趣味や興味と関連がある」が31.1％、「身近なところに活動できる場がある」が30.4％となっています。一方、「条件によらず参加したくない」は14.5％となっています。

認定者調査では「身近なところに活動できる場がある」が22.1％と最も多く、次いで「時間や期間にあまりしばられない」が17.7％、「自分の趣味や興味と関連がある」が17.0％となっています。一方、「条件によらず参加したくない」は17.0％となっています。

【一般高齢者調査（n=3,157)】　【認定者調査（n=1,019)】



〈認定者調査：性別×介護度別（要支援１・２のみ）／地域活動に参加しやすくなるために必要な要素〉

性別×介護度別（要支援１・２のみ）に見ると、“男性／要支援１”では「条件によらず参加したくない」、“男性／要支援２”では「時間や期間にあまりしばられない」、“女性／要支援１”と“女性／要支援２”では「身近なところに活動できる場がある」が最も多くなっています。

（%）

	回答者数	活動や団体の情報を紹介してくれる	友人・知人と一緒に参加できる	時間や期間にあまりしばられない	身近なところに活動できる場がある	申込み等の手続きが不要	世話人やリーダーがいる	参加することでメリットがある（報酬など）
認定者／全体	1,019	13.8	14.4	17.7	22.1	10.9	12.1	2.2
男性／要支援１	82	18.3	13.4	20.7	18.3	6.1	9.8	2.4
男性／要支援２	54	14.8	3.7	25.9	18.5	16.7	11.1	3.7
女性／要支援１	225	14.7	19.1	20.9	28.0	9.3	9.8	1.3
女性／要支援２	138	18.1	16.7	18.8	25.4	10.9	18.1	2.2

	回答者数	自分の趣味や興味と関連がある	参加費用が無料、または非常に安い	活動資金の補助や援助がある	具体的な役割（自分がどのように活動に貢献や支援ができるのか）が示されている	その他	条件によらず参加したくない	無回答
認定者／全体	1,019	17.0	14.5	3.2	3.0	9.0	17.0	26.1
男性／要支援１	82	17.1	17.1	3.7	4.9	7.3	28.0	17.1
男性／要支援２	54	20.4	11.1	7.4	1.9	7.4	13.0	25.9
女性／要支援１	225	18.7	15.1	3.6	3.1	6.2	11.1	28.4
女性／要支援２	138	16.7	18.8	2.9	4.3	6.5	15.9	28.3

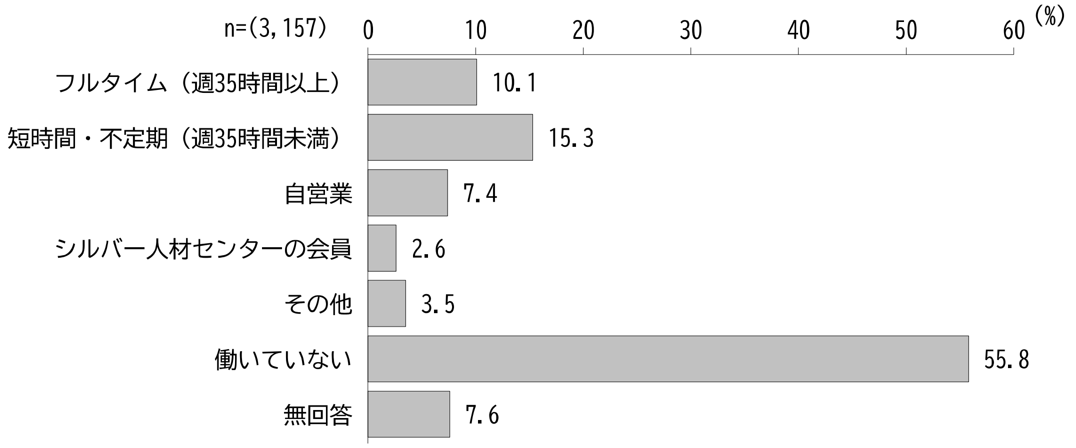
７．仕事

（１）就労状況

―Ｑ１．あなたは現在働いていますか。働いている方は勤務形態についてもお答えください。（あてはまるものすべてに○）

全体から「働いていない」（55.8％）と無回答（7.6％）を除いた36.6％が何らかの仕事をしていると回答しています。

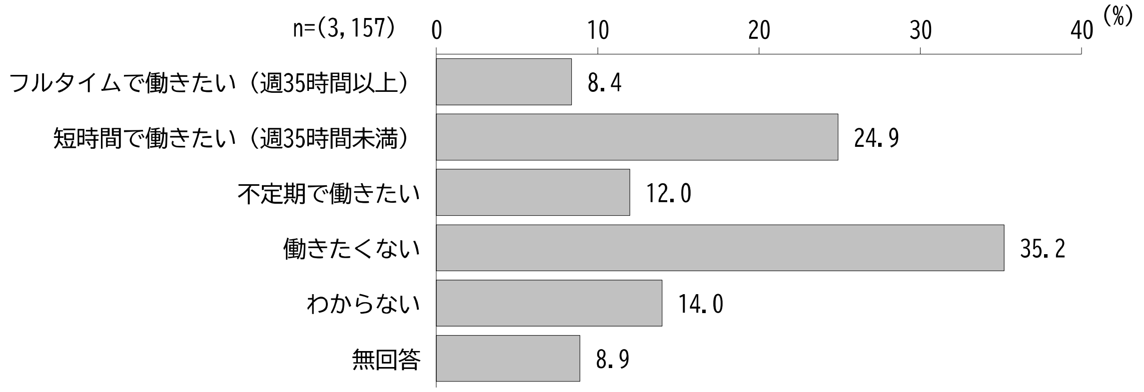
「短時間・不定期（週35時間未満）」が15.3％で最も多く、以下、「フルタイム（週35時間以上）」（10.1％）、「自営業」（7.4％）と続いています。



（２）今後の就労意向

―Ｑ２．あなたは今後、働きたいと思いますか。現在働いている方も、今後どのように働きたいかをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

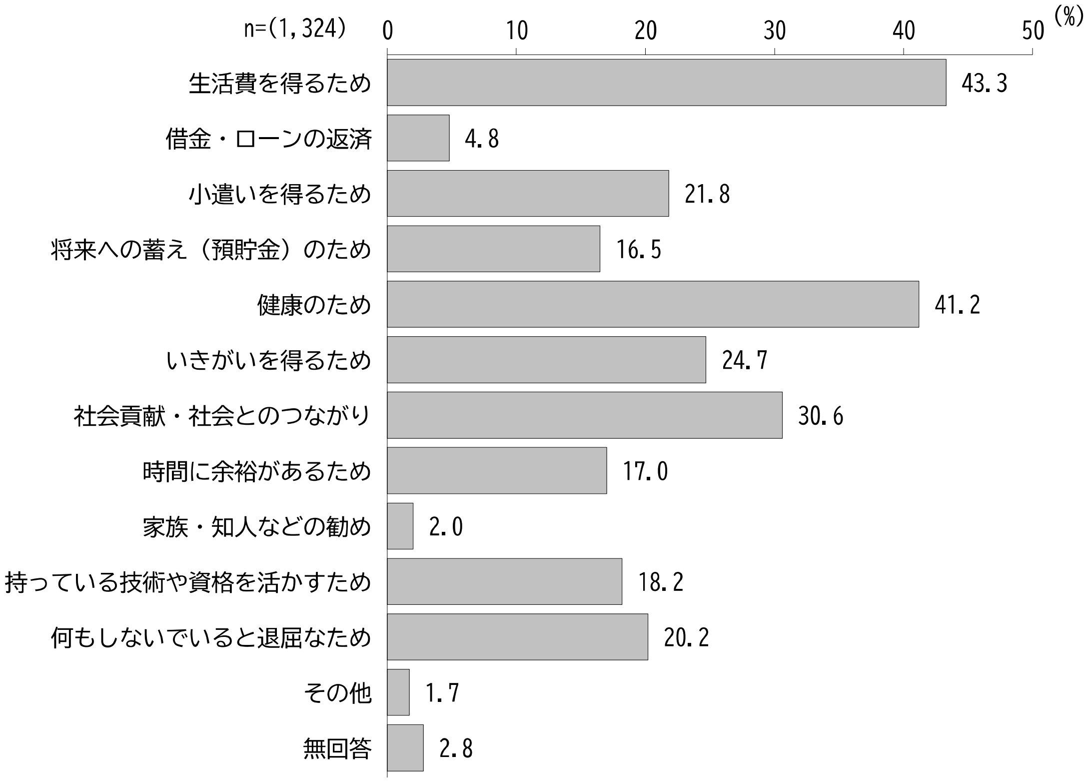
「働きたくない」が35.2％と最も多く、「短時間で働きたい（週35時間未満）」（24.9％）、「不定期で働きたい」（12.0％）と続き、「フルタイムで働きたい（週35時間以上）」は8.4％となっています。



（３）就労希望理由

【一Ｑ２で「１．フルタイムで働きたい（週35時間以上）」「２．短時間で働きたい」「３．不定期で働きたい」と答えた方に伺います】
一Ｑ３．働きたいのは、どのような理由からですか。（○は３つまで）

「生活費を得るため」（43.3％）と「健康のため」（41.2％）が４割を超えて特に多く、「社会貢献・社会とのつながり」（30.6％）が３割台、「いきがいを得るため」（24.7％）、「小遣いを得る るため」（21.8％）、「何もしないでいると退屈なため」（20.2％）が２割台となっています。



８．たすけあい

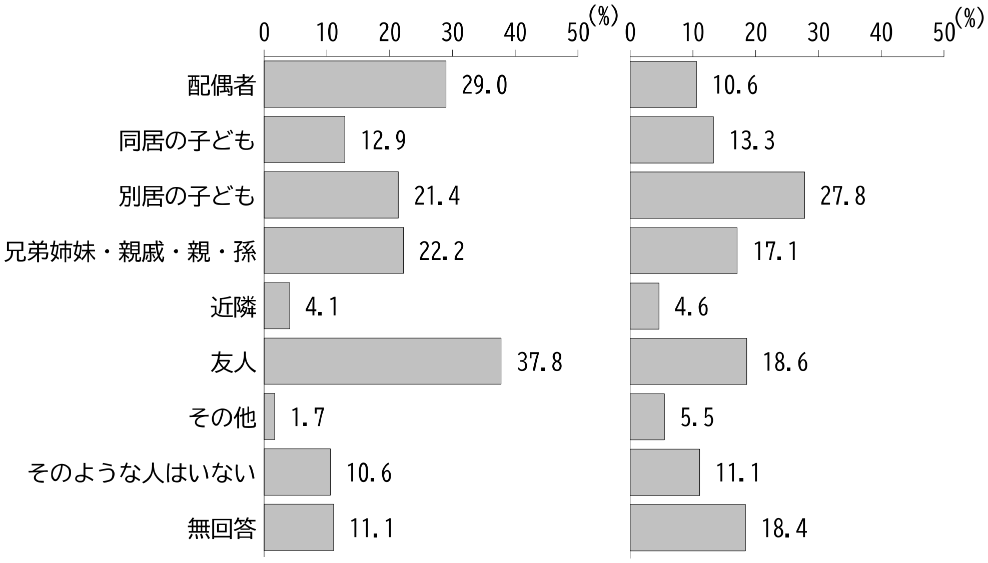
（１）たすけあえる人

Ｑ１．あなたと周りの人の「たすけあい」についておうかがいします。それぞれあてはまるものに○をつけてください。あてはまる人がいない場合は「８．そのような人はいない」に○をつけてください。（それぞれあてはまるものすべてに○）

①　あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

一般高齢者調査では、「友人」（37.8％）、「配偶者」（29.0％）の順で多く、認定者調査では、「別居の子ども」が27.8％で最も多くなっています。また、「そのような人はいない」はいずれの調査でも１割ほどとなっています。

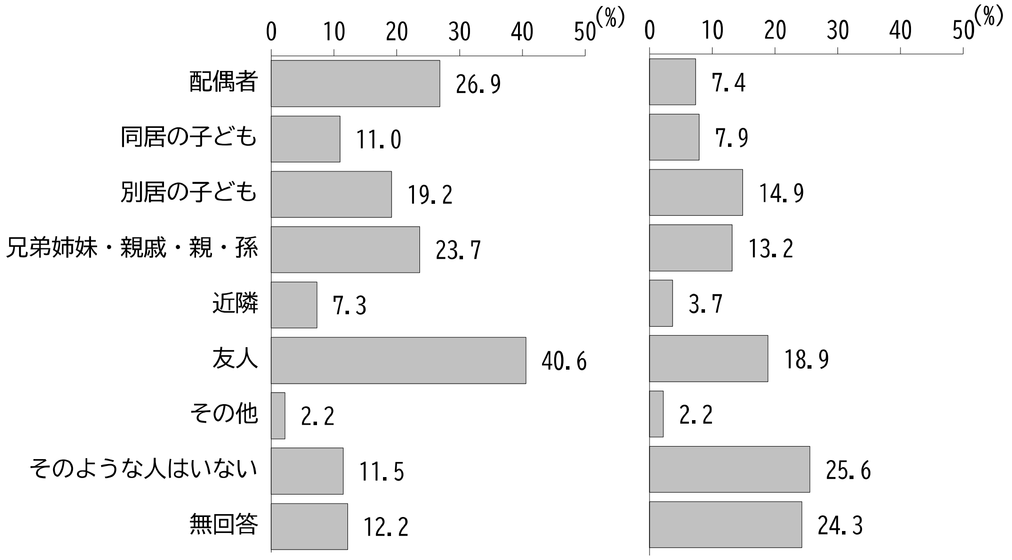
【一般高齢者調査（ｎ=3,157）】【認定者調査（ｎ=1,019）】



② 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

一般高齢者調査では、「友人」（40.6％）、「配偶者」（26.9％）の順で多く、認定者調査では、「そのような人はいない」を除くと「友人」が18.9％で最も多くなっています。また、「そのような人はいない」は一般高齢者調査で11.5％ですが、認定者調査では25.6％と多くなっています。

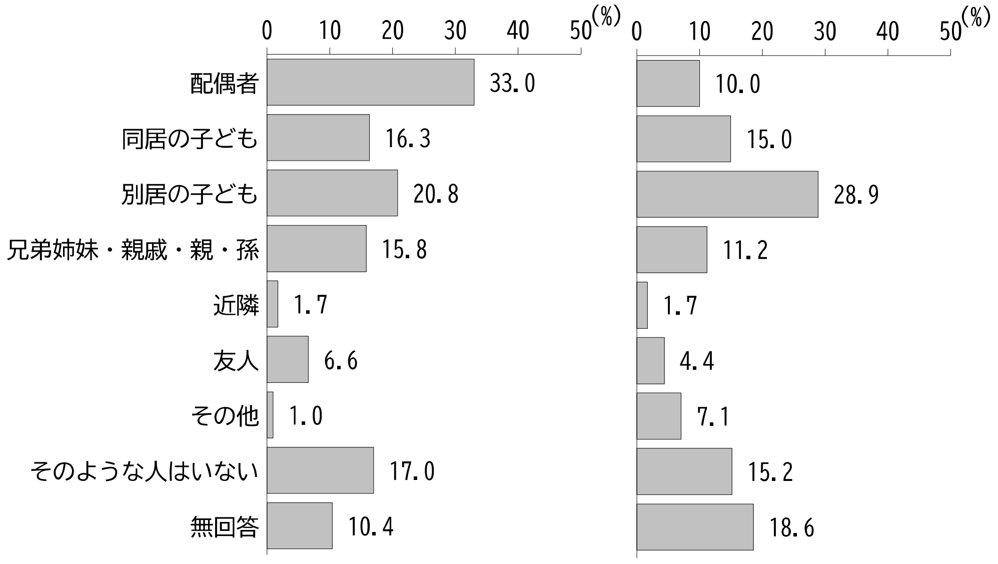
【一般高齢者調査（n=3,157)】【認定者調査（n=1,019)】



③ あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

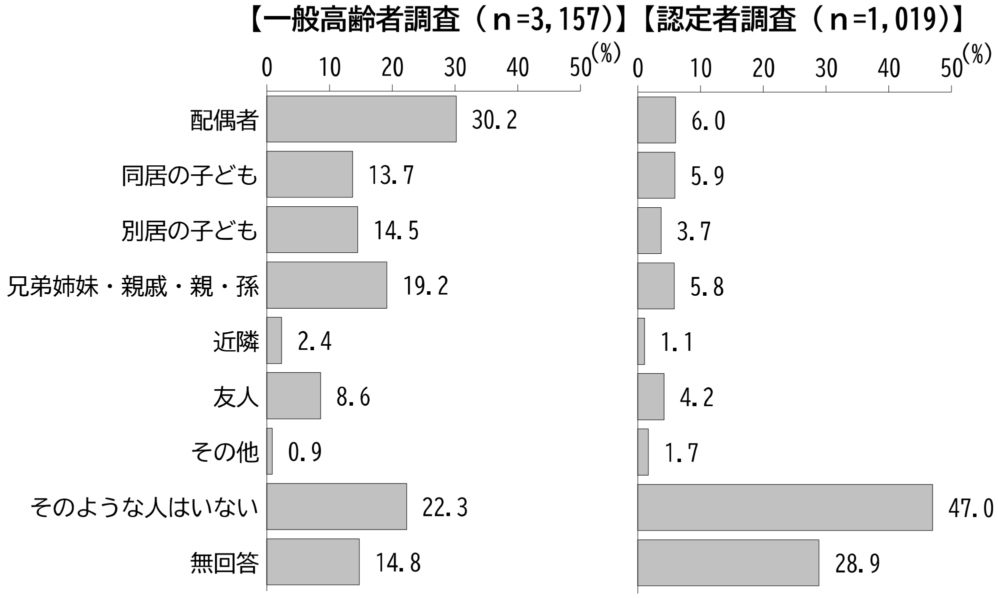
一般高齢者調査では、「配偶者」（33.0％）、「別居の子ども」（20.8％）、「同居の子ども」（16.3％）の順で多く、認定者調査では、「別居の子ども」（28.9％）、「同居の子ども」（15.0％）、「兄弟姉妹・親戚・孫」（11.2％）の順になっています。

【一般高齢者調査（n=3,157)】【認定者調査（n=1,019)】



④ 反対に、看病や世話をしてあげる人

一般高齢者調査では、「配偶者」（30.2％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（19.2％）の順で多く、認定者調査では、いずれも１割未満で「そのような人はいない」が47.0％と多くなっています。



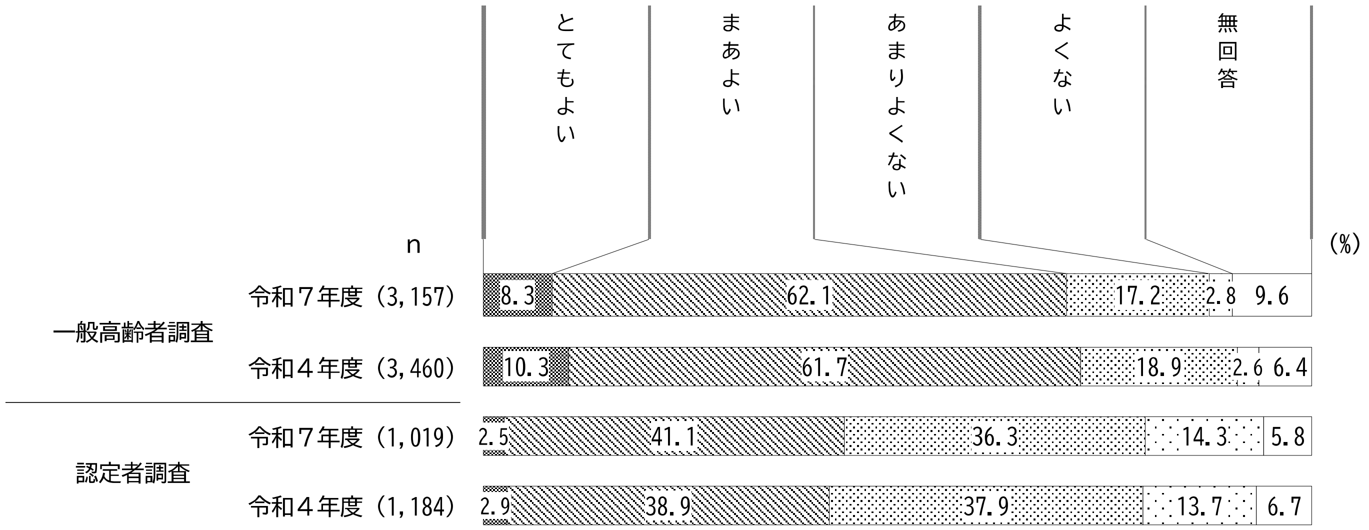
９．健康

（１）健康状態

Ｑ１．現在のあなたの健康状態はいかがですか。（○は１つ）

いずれの調査も、「まあよい」が最も多くなっています。「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』は一般高齢者調査で70.4％、認定者調査で43.6％となっています。

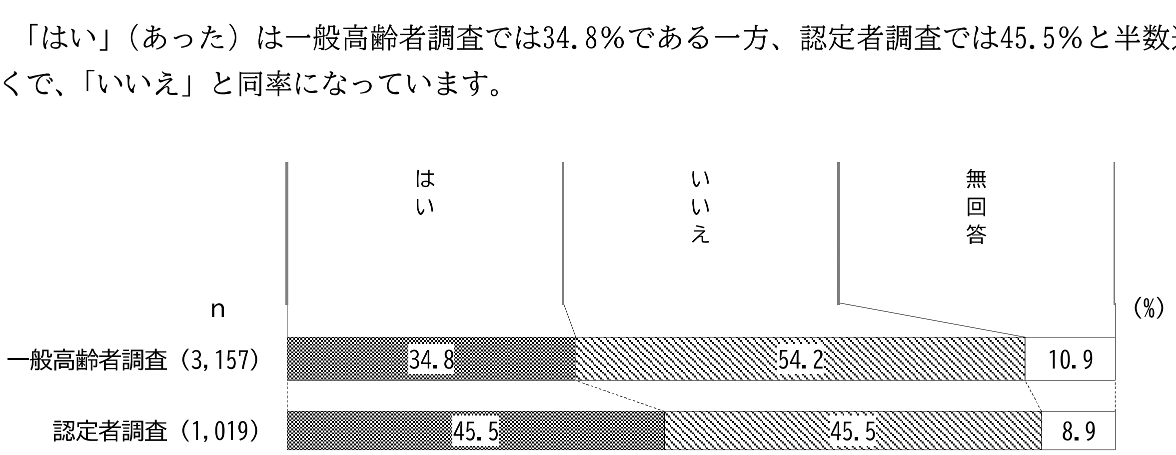
令和４年度と比較すると、一般高齢者調査、認定者調査共に大きな違いは見られません。



（２）この１か月のゆううつ感

一Ｑ３認Ｑ６．この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

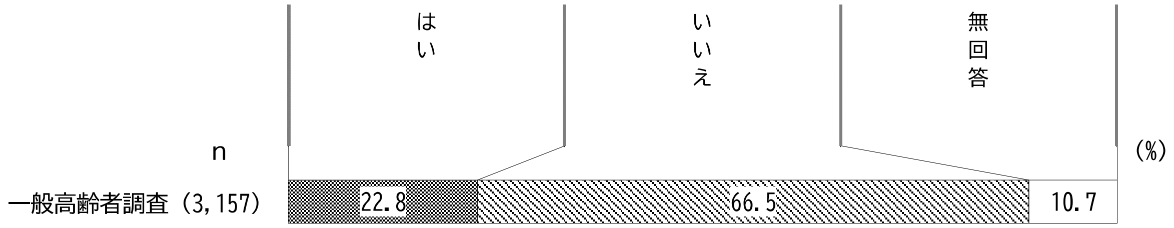
「はい」（あった）は一般高齢者調査では34.8％である一方、認定者調査では45.5％と半数近くで、「いいえ」と同率になっています。



（３）この１か月の無気力感

一Ｑ４．この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

「はい」（あった）は22.8％となっています。

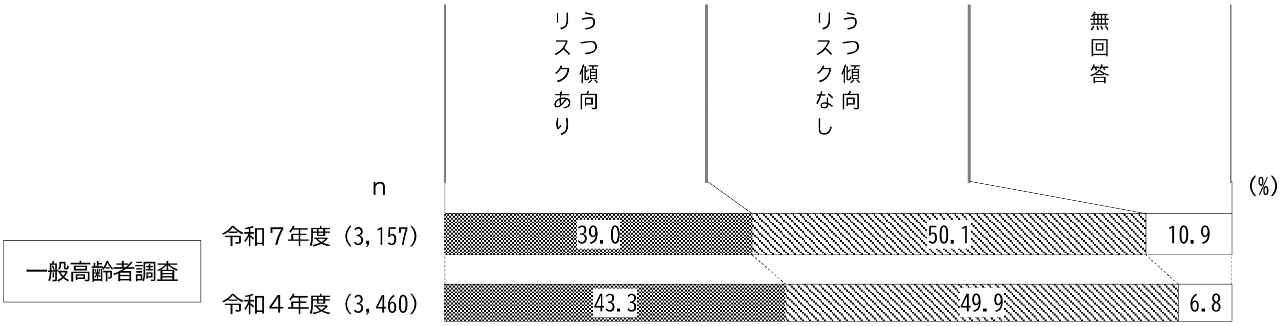


〈うつ傾向リスク〉

下記の２項目中、どちらかにでも該当する場合、『うつ傾向のリスクがある高齢者』としています。
・この１か月間に、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりしたことがある（Ｑ３）
・この１か月間に、どうしても物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあった（Ｑ４）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和７年８月）

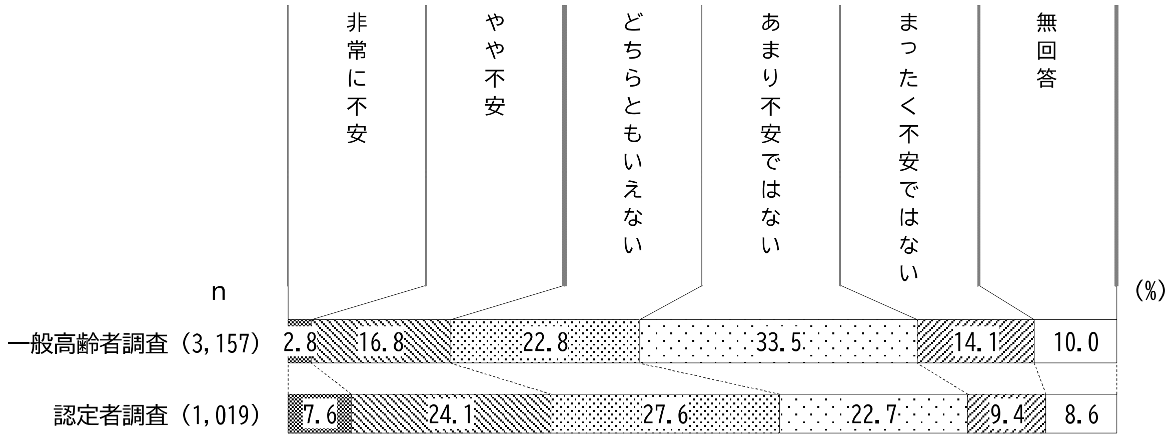
「うつ傾向リスクあり」は39.0％となっています。
令和４年度と比較すると、「うつ傾向リスクあり」は4.3ポイント減少しています。



（４）孤独感の把握

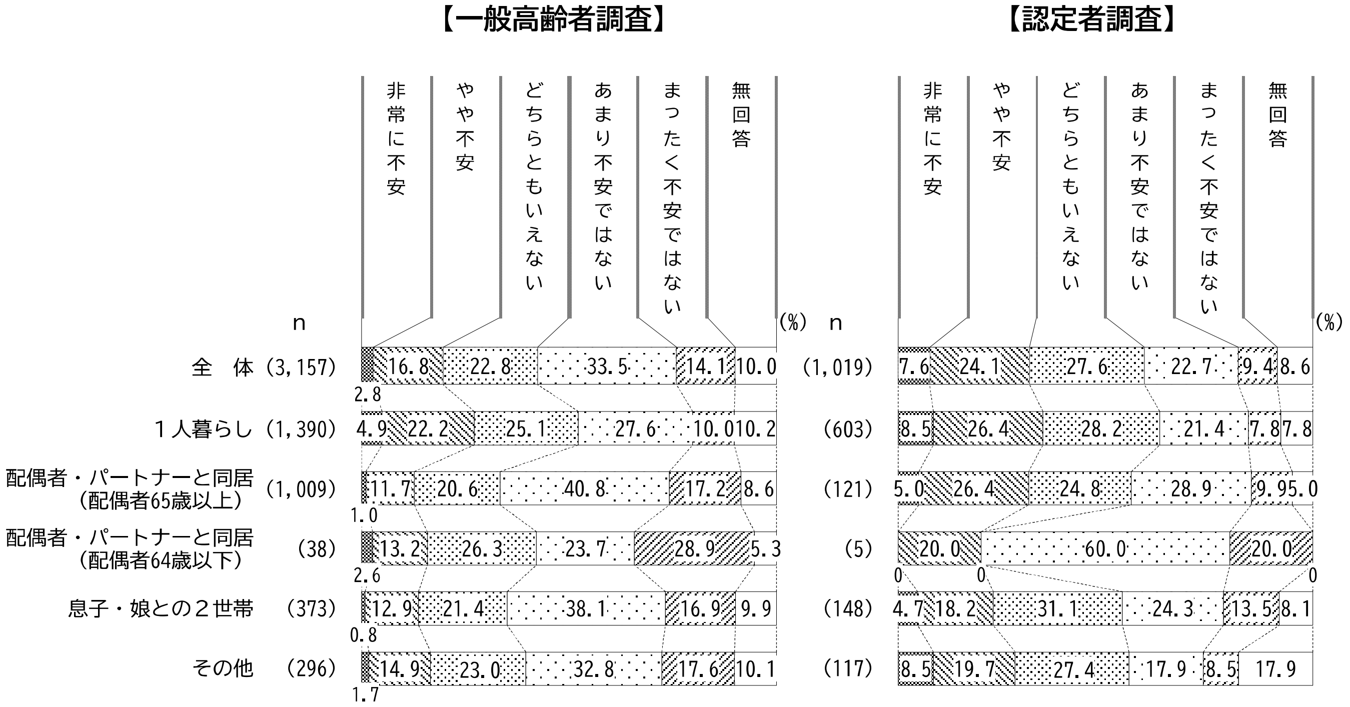
一Ｑ５認Ｑ７．生活様式や人付き合いの変化から、孤独や孤立への不安を感じていますか。（○は１つ）

「非常に不安」と「やや不安」を合わせた『不安』は、一般高齢者調査で19.6%、認定者調査では31.7%となっています。



〈家族構成別／孤独感の把握〉

家族構成別に見ると、『不安』の割合は、いずれの調査も“１人暮らし”で多く、一般高齢者調査では27.1％、認定者調査では34.9％となっています。認定者調査では“配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上)”でも『不安』が３割を超えています。

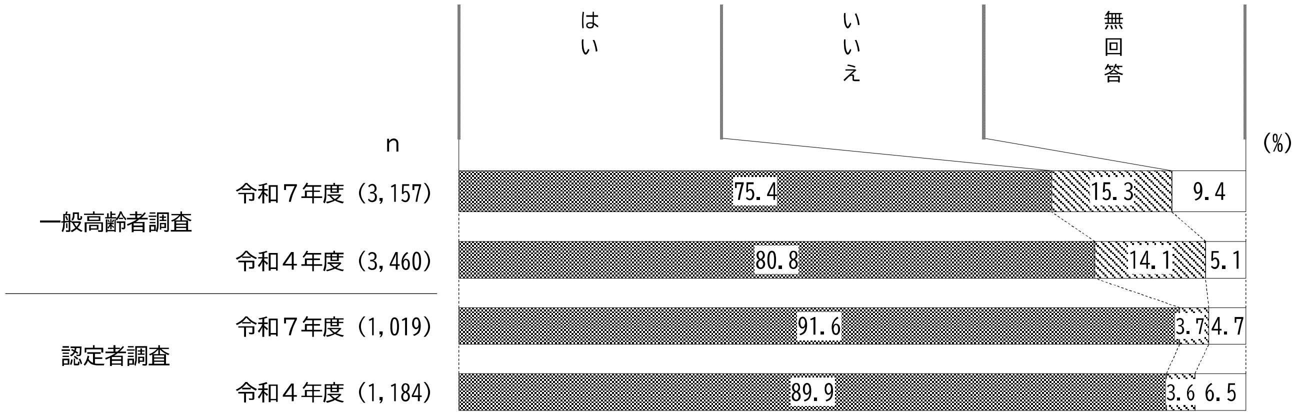


（５）かかりつけ医の有無

一Ｑ８認Ｑ３．あなたは、かかりつけ医がいますか。

「はい」（いる）は、一般高齢者調査で75.4%、認定者調査で91.6%となっています。

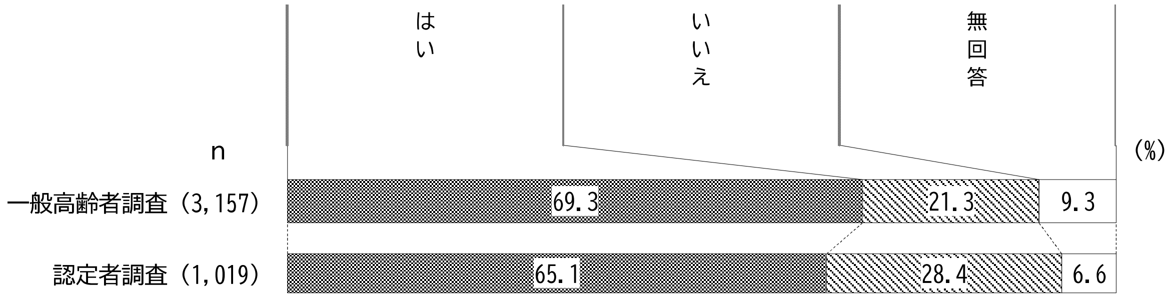
令和４年度と比較すると、認定者調査では大きな違いは見られないものの、一般高齢者調査では5.4ポイント減少しています。



（６）かかりつけ歯科医の有無

一Ｑ９認Ｑ４．あなたは、かかりつけ歯科医がいますか。

「はい」（いる）は、一般高齢者調査で69.3%、認定者調査で65.1%となっています。

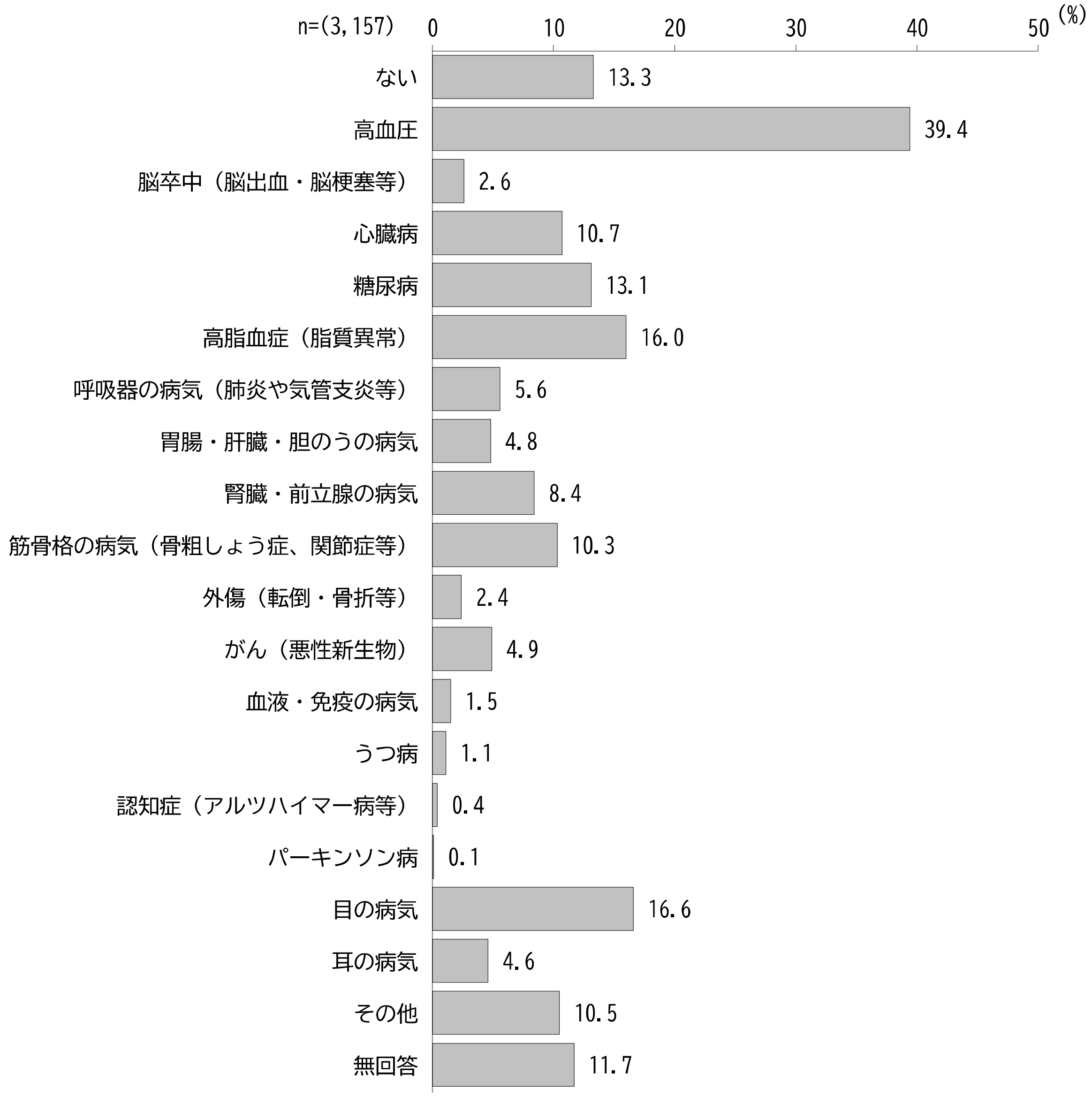


（７）治療中や後遺症のある病気

Q11. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（あてはまるものすべてに○）

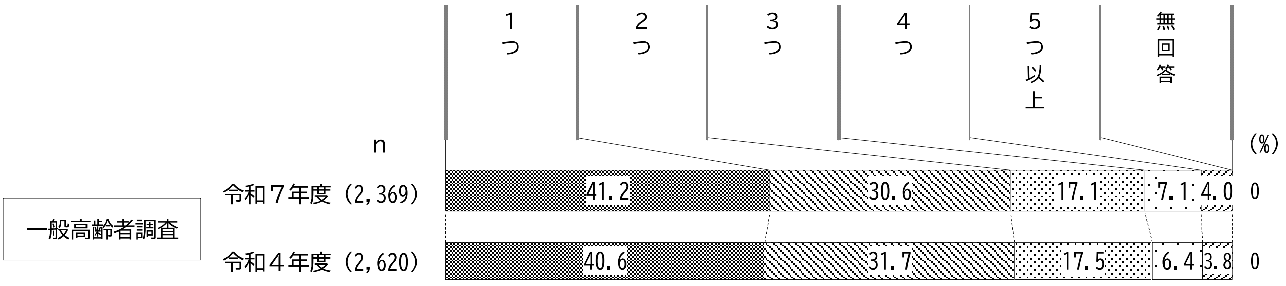
全体から「ない」（13.3%）と無回答（11.7%）を除いた75.0%が何らかの病気があると回答しています。

「高血圧」が39.4%と最も多く、次いで「目の病気」（16.6%）、「高脂血症（脂質異常）」（16.0%）、「糖尿病」（13.1%）となっています。



〈治療中や後遺症のある病気の数〉

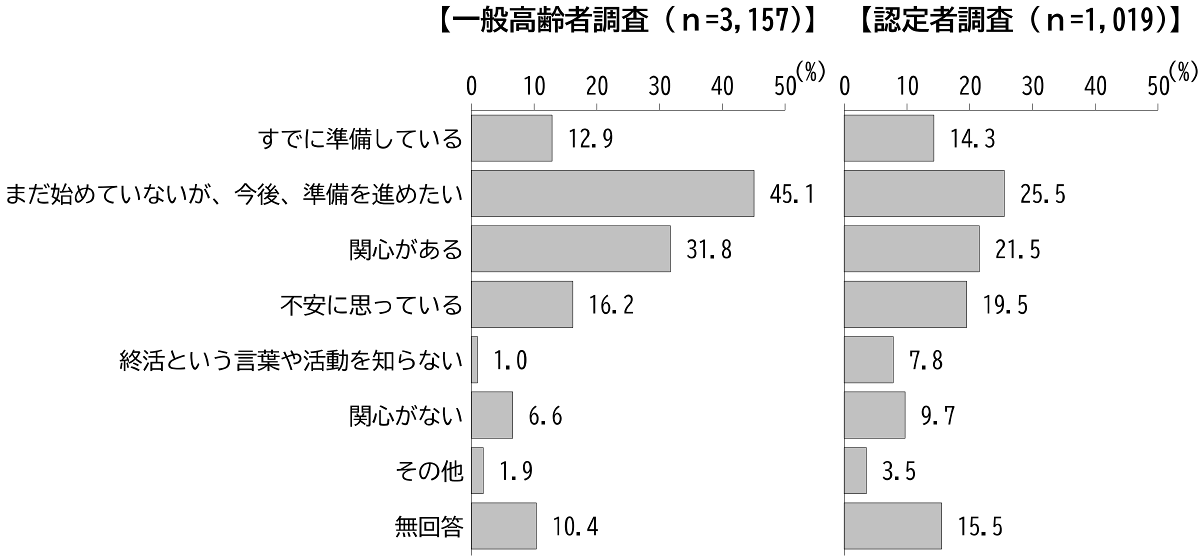
病気がある人のうち、複数の病気があるのは、合わせて58.8％となっています。
令和４年度と比較すると、大きな違いは見られません。



（８）終活についての考え

一Q13認Q10. 終活についてどのように考えていますか。（あてはまるものすべてに○）

いずれの調査でも「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」が最も多く、次いで「関心がある」、「不安に思っている」、「すでに準備している」の順になっています。



〈性別／終活についての考え〉

性別に見ると、いずれの調査も「関心がない」は男性の方が女性より多くなっています。また、一般高齢者調査では「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」は女性の方が男性より多くなっています。

【一般高齢者調査】

（%）

	回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
一般／全体	3,157	12.9	45.1	31.8	16.2	1.0	6.6	1.9	10.4
男性	1,534	10.7	42.6	29.5	15.3	1.0	10.2	1.9	9.5
女性	1,586	15.3	47.9	34.2	17.2	1.0	3.0	1.9	10.9

【認定者調査】

（%）

	回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
認定者／全体	1,019	14.3	25.5	21.5	19.5	7.8	9.7	3.5	15.5
男性	268	12.7	27.6	18.7	20.9	7.1	15.3	1.9	12.7
女性	728	14.8	24.9	22.8	19.4	7.8	7.7	4.3	16.3

〈年齢別／終活についての考え〉

年齢別に見ると、いずれの調査も低年齢層ほど「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」の割合が多く、高年齢層ほど「すでに準備している」の割合が多くなっています。認定者調査では高年齢層ほど「終活という言葉や活動を知らない」の割合が多く、90歳以上で１割を超えています。

【一般高齢者調査】

（%）

	回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
一般／全体	3,157	12.9	45.1	31.8	16.2	1.0	6.6	1.9	10.4
65～69歳	729	9.1	48.3	35.4	18.5	0.5	6.6	1.8	6.3
70～74歳	695	8.2	50.6	33.2	15.3	1.3	7.3	1.6	9.8
75～79歳	853	14.4	45.6	30.0	15.2	0.9	7.2	1.6	10.6
80～84歳	527	18.8	40.8	30.4	17.6	0.4	4.9	1.7	12.1
85～89歳	227	18.5	34.8	29.1	16.3	3.1	4.8	2.6	13.7
90歳以上	88	20.5	30.7	30.7	10.2	2.3	8.0	4.5	19.3

【認定者調査】

（%）

	回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
認定者／全体	1,019	14.3	25.5	21.5	19.5	7.8	9.7	3.5	15.5
65～69歳	33	3.0	42.4	21.2	42.4	－	9.1	3.0	3.0
70～74歳	63	11.1	30.2	28.6	15.9	1.6	12.7	3.2	14.3
75～79歳	135	10.4	31.9	23.7	23.7	3.0	9.6	3.0	14.1
80～84歳	192	9.9	28.1	24.0	21.4	6.8	8.3	2.6	20.3
85～89歳	263	14.4	24.7	25.9	17.5	7.2	8.7	4.9	14.4
90歳以上	320	20.6	19.1	15.0	17.2	12.8	10.6	3.4	15.0

〈家族構成別／終活についての考え〉

家族構成別に見ると、いずれの調査も「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」は“配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）”で多く、「不安に思っている」は“１人暮らし”で多くなっています。また、ほとんどの家族構成で「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」が最も多いですが、一般高齢者調査の“配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）”では「関心がある」が最も多くなっています。

【一般高齢者調査】

（%）

	回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
一般／全 体	3157	12.9	45.1	31.8	16.2	1.0	6.6	1.9	10.4
１人暮らし	1390	13.5	43.9	30.2	19.4	1.1	7.1	2.1	10.2
配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）	1009	11.6	47.9	34.7	13.9	1.0	6.4	1.1	9.0
配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）	38	18.4	26.3	39.5	13.2	2.6	7.9	-	10.5
息子・娘との２世帯	373	12.9	46.6	32.2	13.1	0.5	4.6	2.1	11.8
その他	296	15.2	44.6	30.1	15.2	1.0	6.1	3.7	10.1

【認定者調査】

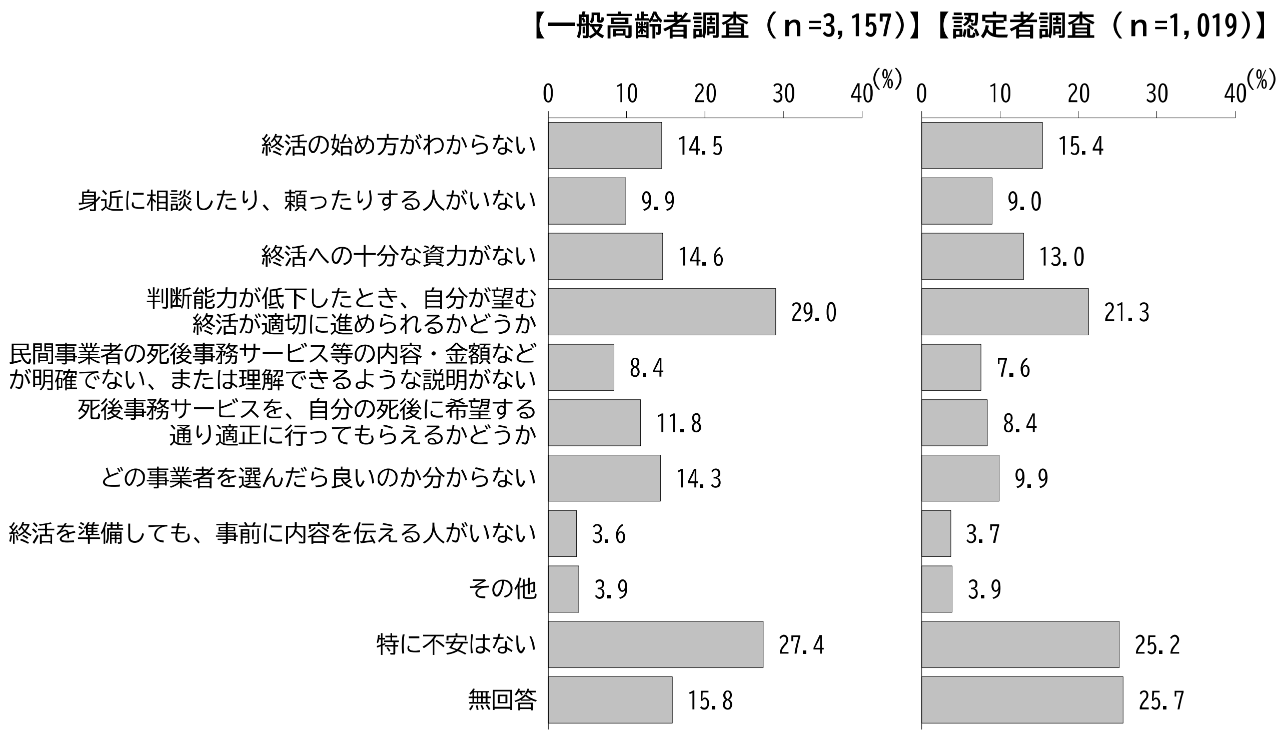
（%）

	回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
認定者／全体	1019	14.3	25.5	21.5	19.5	7.8	9.7	3.5	15.5
１人暮らし	603	14.1	26.9	24.7	22.4	6.0	8.6	4.0	13.6
配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）	121	11.6	36.4	24.8	17.4	4.1	12.4	0.8	11.6
配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）	5	20.0	60.0	-	-	20.0	-	-	-
息子・娘との２世帯	148	16.2	24.3	14.2	11.5	11.5	12.2	4.1	15.5
その他	117	17.9	10.3	14.5	18.8	15.4	9.4	3.4	23.9

（９）終活の準備にあたり不安なこと

|一|Q14|認|Q11．終活の準備にあたって、不安に思っていることを教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

「特に不安はない」を除くと、いずれの調査も「判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか」が最も多く、次いで一般高齢者調査では「終活への十分な資力がない」、認定者調査では「終活の始め方がわからない」となっています。



〈性別／終活の準備にあたり不安なこと〉

性別に見ると、一般高齢者調査では「終活の始め方がわからない」は男性の方が女性よりやや多く、認定者調査では「終活への十分な資力がない」は男性の方が女性より多くなっています。

【一般高齢者調査】

(%)

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
一般／全体	3,157	14.5	9.9	14.6	29.0	8.4	11.8	14.3	3.6	3.9	27.4	15.8
男性	1,534	16.8	11.7	15.4	28.2	8.4	11.9	12.8	3.8	3.2	27.6	13.7
女性	1,586	12.3	8.1	13.5	29.9	8.4	11.9	15.9	3.3	4.5	27.5	17.5

【認定者調査】

(%)

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
認定者／全体	1,019	15.4	9.0	13.0	21.3	7.6	8.4	9.9	3.7	3.9	25.2	25.7
男性	268	18.7	9.7	19.8	19.0	10.4	9.0	11.9	7.1	3.4	28.0	19.4
女性	728	14.6	8.7	10.6	22.3	6.6	8.1	9.3	2.3	4.3	24.2	27.6

〈年齢別／終活の準備にあたり不安なこと〉

年齢別に見ると、いずれの調査も高年齢層ほど「特に不安はない」の割合が多くなっています。一般高齢者調査では、ほとんどの項目で低年齢層ほど割合がおおむね多く、認定者調査でも「将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか」、「どの事業者を選んだら良いのか分からない」、「死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか」は低年齢層ほど割合が多くなっています。

【一般高齢者調査】

（%）

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
一般／全体	3,157	14.5	9.9	14.6	29.0	8.4	11.8	14.3	3.6	3.9	27.4	15.8
65～69歳	729	15.9	12.3	19.3	33.3	11.7	14.7	17.0	4.7	3.3	26.3	8.1
70～74歳	695	16.0	11.7	15.4	30.6	6.5	13.5	15.4	4.0	3.3	26.8	13.4
75～79歳	853	14.3	9.4	12.2	29.9	8.9	11.6	14.0	3.5	4.1	29.4	16.3
80～84歳	527	14.0	6.5	13.3	26.0	7.4	8.7	13.3	1.9	3.6	25.6	21.8
85～89歳	227	9.3	8.8	11.9	22.9	7.0	9.7	9.3	4.0	5.3	27.3	23.8
90歳以上	88	11.4	4.5	5.7	12.5	3.4	4.5	10.2	－	6.8	35.2	29.5

【認定者調査】

（%）

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
認定者／全体	1,019	15.4	9.0	13.0	21.3	7.6	8.4	9.9	3.7	3.9	25.2	25.7
65～69歳	33	18.2	15.2	21.2	33.3	12.1	18.2	15.2	9.1	6.1	21.2	3.0
70～74歳	63	9.5	11.1	25.4	25.4	11.1	12.7	14.3	9.5	－	19.0	22.2
75～79歳	135	16.3	15.6	11.1	24.4	13.3	13.3	17.0	6.7	3.0	16.3	23.7
80～84歳	192	17.7	9.9	14.1	23.4	5.7	8.3	12.0	2.6	3.6	19.8	29.7
85～89歳	263	16.0	6.1	14.1	20.2	6.8	6.5	6.8	2.7	5.7	28.1	24.0
90歳以上	320	14.4	7.5	9.1	17.2	5.6	6.6	6.6	2.2	3.8	31.6	28.1

〈家族構成別／終活の準備にあたり不安なこと〉

家族構成別に見ると、いずれの調査も「身近に相談したり、頼ったりする人がいない」は“１人暮らし”で多くなっています。また、「特に不安はない」はいずれの調査も“１人暮らし”で少なく、認定者調査では“配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）”でも少なくなっています。

【一般高齢者調査】

（%）

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
一般／全 体	3,157	14.5	9.9	14.6	29.0	8.4	11.8	14.3	3.6	3.9	27.4	15.8
１人暮らし	1,390	14.1	14.0	16.0	30.4	10.1	14.5	16.3	6.2	4.3	24.3	16.5
配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）	1,009	16.7	6.7	12.1	29.2	7.4	10.6	13.3	1.9	3.4	29.4	13.1
配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）	38	15.8	5.3	18.4	31.6	7.9	10.5	15.8	2.6	2.6	31.6	18.4
息子・娘との２世帯	373	13.1	6.4	14.2	24.7	6.2	6.4	10.5	0.8	1.9	33.8	16.9
その他	296	10.5	6.8	16.2	28.4	7.8	11.5	14.5	1.0	6.1	28.4	16.2

【認定者調査】

（%）

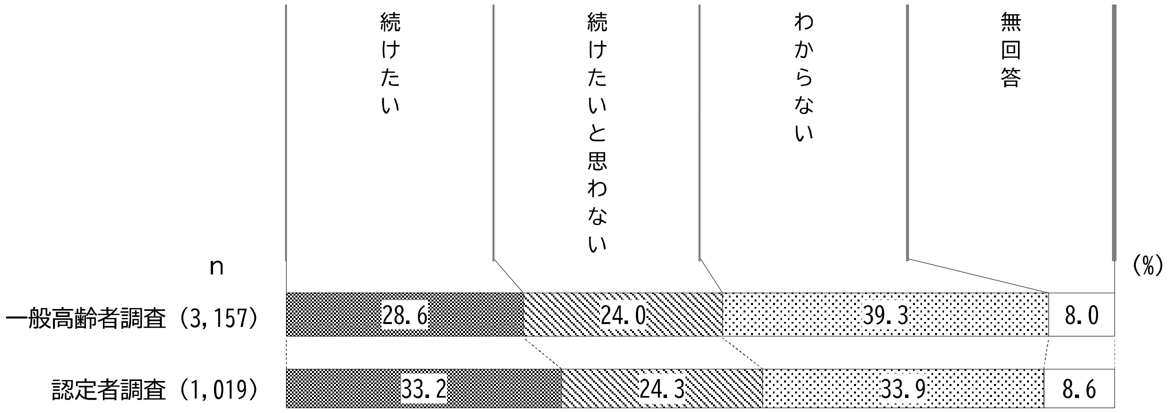
	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
認定者／全体	1019	15.4	9.0	13.0	21.3	7.6	8.4	9.9	3.7	3.9	25.2	25.7
１人暮らし	603	15.3	10.8	13.9	22.6	7.8	10.0	10.1	4.5	4.5	22.6	24.2
配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）	121	21.5	8.3	12.4	23.1	7.4	7.4	15.7	4.1	2.5	24.0	24.8
配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）	5	20.0	-	20.0	40.0	-	-	-	-	-	60.0	-
息子・娘との２世帯	148	14.9	7.4	11.5	20.3	4.7	4.7	5.4	1.4	1.4	35.1	23.0
その他	117	11.1	4.3	9.4	14.5	11.1	6.8	10.3	2.6	6.8	29.1	33.3

10. 在宅療養

（１）在宅療養の継続希望

一Ｑ２認問５Ｑ15. あなたが、もしがんや脳梗塞などにより長期の療養が必要となった場合、理想として自宅での療養を続けたいと考えていますか。（○は１つ）

「続けたい」は、認定者調査で33.2％と一般高齢者調査の28.6％を上回っています。



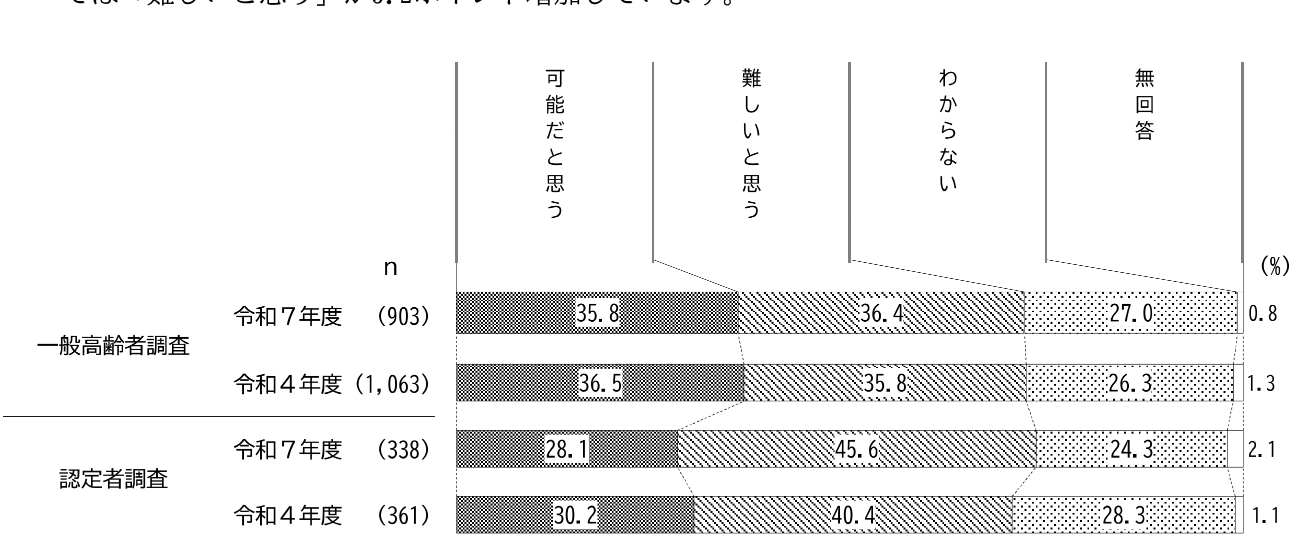
（２）在宅療養の実現可能性

【一Ｑ２認問５Ｑ15で「１．続けたい」と答えた方に伺います】
一Ｑ３認問５Ｑ16. 実際に自宅での療養は実現可能だと思いますか。（○は１つ）

「可能だと思う」は一般高齢者調査で35.8％と、認定者調査の28.1％を上回っています。

「難しいと思う」は逆に、認定者調査の45.6％が一般高齢者調査の36.4％を上回っています。

令和４年度と比較すると、一般高齢者調査では大きな違いは見られないものの、認定者調査では「難しいと思う」が5.2ポイント増加しています。

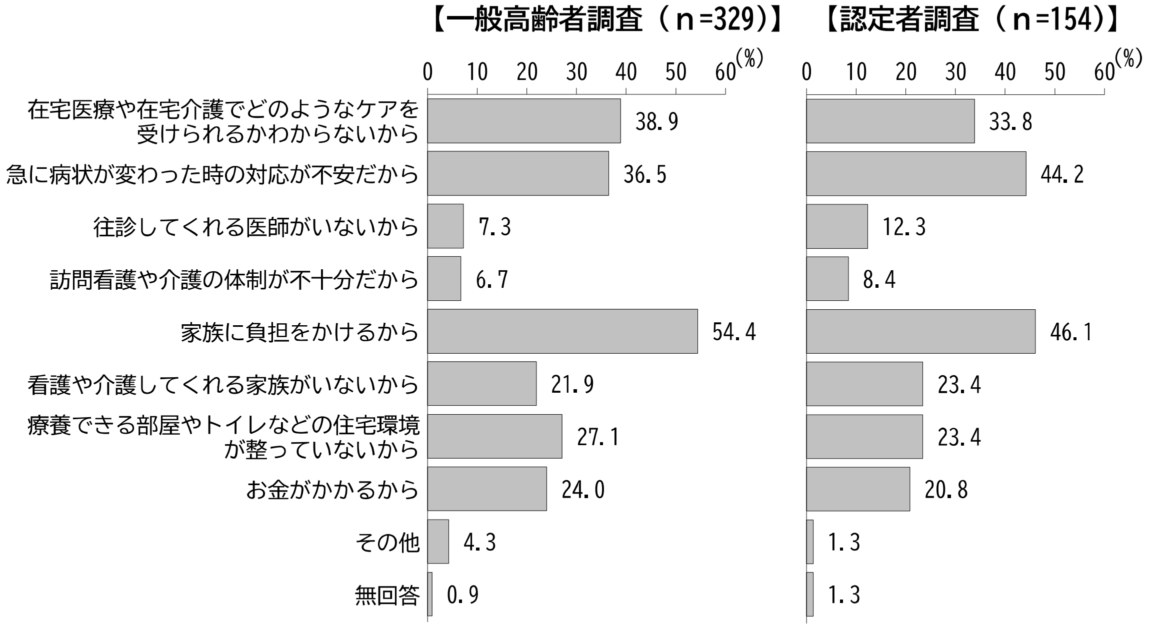


（３）在宅療養が難しいと思う理由

【一Q３認Q16で「２．難しいと思う」と答えた方に伺います】
一Q４認問５Q17．自宅での療養が難しいと思う理由は何ですか。（○は３つまで）

いずれの調査も「家族に負担をかけるから」が最も多くなっています。

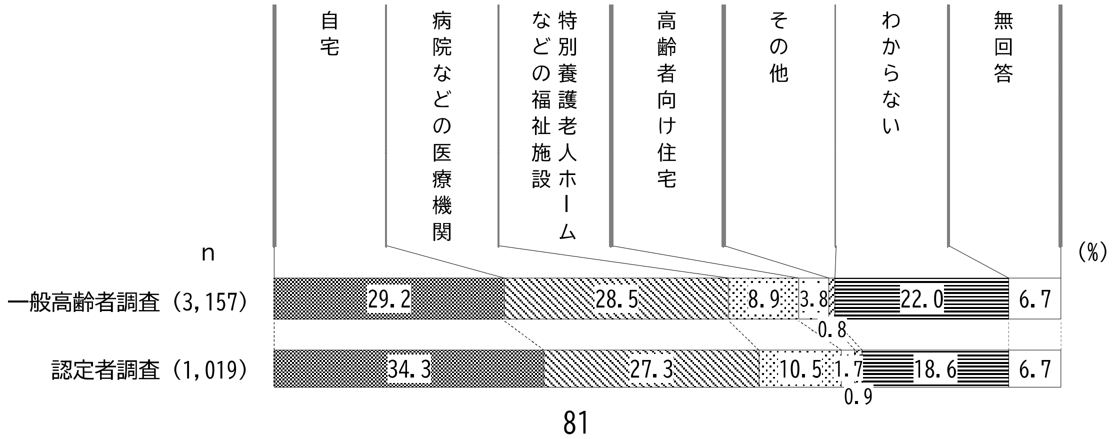
以下、一般高齢者調査では、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」（38.9％）、「急に病状が変わった時の対応が不安だから」（36.5％）と続き、認定者調査では、「急に病状が変わった時の対応が不安だから」（44.2％）、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」（33.8％）の順になっています。



（４）最期を迎えたい場所

一Q５認問５Q18．あなたが病気などで人生の最期を迎える時が来た場合、どこで過ごしたいと思いますか。（○は１つ）

いずれの調査も「自宅」が最も多く、「病院などの医療機関」がこれに次いでいます。



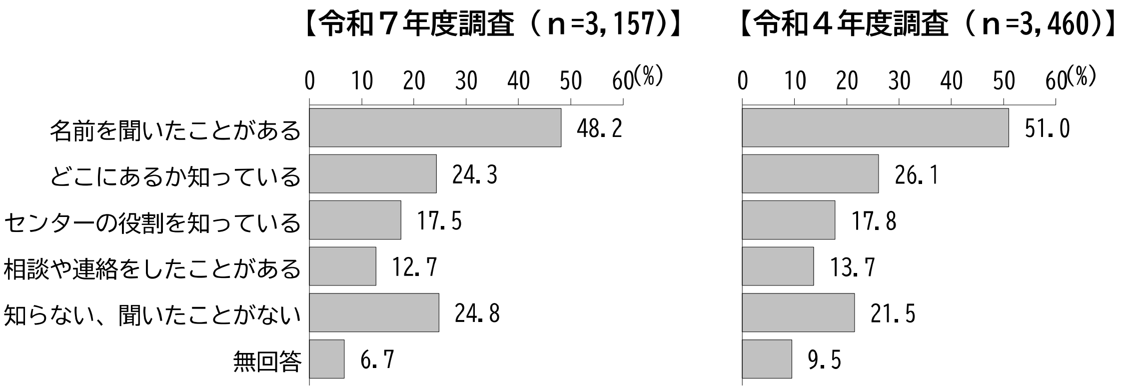
11. 介護の状況など

（１）「高齢者あんしんセンター」の認知度

□Ｑ１．あなたは、高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）について、どの程度ご存知ですか。（あてはまるものすべてに○）

「名前を聞いたことがある」が48.2％と最も多く、次いで「知らない、聞いたことがない」（24.8％）、「どこにあるか知っている」（24.3％）となっています。

令和４年度と比較すると、「知らない、聞いたことがない」は全体で３位から２位に順位が上がっており、割合も3.3ポイント増加しています。



〈居住地区別／「高齢者あんしんセンター」の認知度〉

居住地区別に見ると、『知っている』(「知らない、聞いたことがない」と無回答を除く）の割合は、赤羽（74.8%）で最も多く、浮間（73.9%）、田端（73.3%）と続きます。一方、「知らない、聞いたことがない」の割合は、昭和町（40.5%）で最も多く、西ヶ原東（37.5%）、十条台（34.3%）と続きます。

（%）

	回答者数	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答
一般／全体	3,157	48.2	24.3	17.5	12.7	24.8	6.7
十条台	102	45.1	19.6	10.8	6.9	34.3	3.9
王子	292	52.4	20.2	18.8	8.2	21.2	9.6
豊島	148	46.6	19.6	17.6	8.8	27.0	8.1
十条	80	35.0	25.0	23.8	15.0	30.0	5.0
神谷	210	50.0	25.2	15.7	13.3	22.9	9.0
赤羽西	99	43.4	25.3	17.2	13.1	31.3	4.0
志茂	104	51.9	22.1	16.3	12.5	26.0	1.9
赤羽	182	42.9	29.1	22.0	19.2	20.3	4.9
赤羽北	192	48.4	28.6	19.3	16.1	21.9	5.2
滝野川西	267	50.6	19.5	13.1	11.6	25.1	8.2
滝野川東	282	47.5	23.4	20.9	13.5	25.2	8.5
西ヶ原東	80	45.0	15.0	10.0	11.3	37.5	11.3
昭和町	42	33.3	16.7	19.0	19.0	40.5	4.8
浮間	238	52.5	34.0	20.2	11.3	22.3	3.8
桐ケ丘	317	48.3	26.5	16.4	13.2	22.7	7.9
田端	146	47.3	26.0	21.9	15.8	22.6	4.1
東十条	165	46.7	26.7	13.9	13.9	27.3	6.1
堀船	127	50.4	21.3	15.0	15.0	23.6	6.3
東田端	83	53.0	22.9	15.7	7.2	24.1	7.2

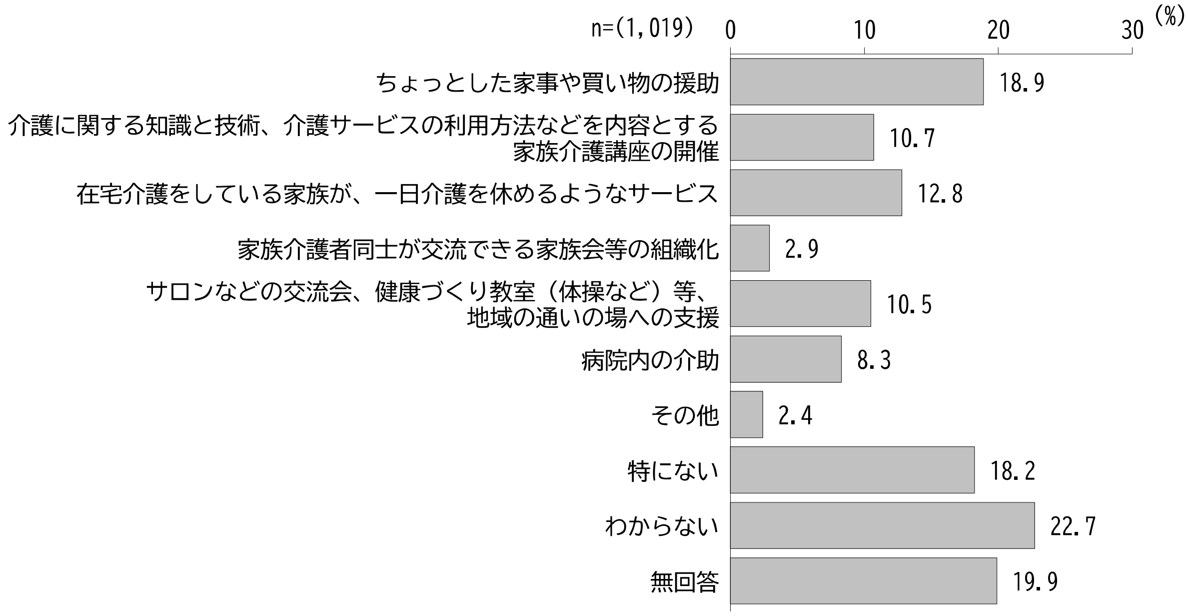
12. 介護保険サービス

（１）今後増やしてほしい福祉サービス

認Ｑ６．今後増やしてもらいたいと思う福祉サービス（介護保険サービス以外）はどれですか。下の中からお選びください。（あてはまるものすべてに○）

全体から「特にない」（18.2％）、「わからない」（22.7％）と無回答（19.9％）を除いた39.2％が、具体的なサービスを挙げています。

「ちょっとした家事や買い物の援助」が18.9％と最も多く、次いで「在宅介護をしている家族が、一日介護を休めるようなサービス」（12.8％）、「介護に関する知識と技術、介護サービスの利用方法などを内容とする家族介護講座の開催」（10.7％）、「サロンなどの交流会、健康づくり教室（体操など）等、地域の通いの場への支援」（10.5％）となっています。



〈介護度別（要支援１・２のみ）／今後増やしてほしい福祉サービス〉

介護度別（要支援１・２のみ）に見ると、「ちょっとした家事や買い物の援助」は“要支援２”で25.9％と“要支援１”の18.3％より多くなっています。一方、「特にない」は“要支援１”で19.6％と“要支援２”の14.0％より多くなっています。

（％）

	回答者数	ちょっとした家事や買い物の援助	介護に関する知識と技術、介護サービスの利用方法などを内容とする家族介護講座の開催	在宅介護をしている家族が、一日介護を休めるようなサービス	家族介護者同士が交流できる家族会等の組織化	サロンなどの交流会、健康づくり教室（体操など）等、地域の通いの場への支援	病院内の介助	その他	特にない	わからない	無回答
認定者／全体	1,019	18.9	10.7	12.8	2.9	10.5	8.3	2.4	18.2	22.7	19.9
要支援１	312	18.3	11.2	8.0	1.9	11.9	6.1	1.3	19.6	24.0	19.2
要支援２	193	25.9	12.4	9.3	2.6	14.5	7.3	2.1	14.0	21.2	22.8

■自由記述

これからの高齢者施策や地域づくりのあり方等についてのご意見・ご提案があれば、ご自由に記入してください。

（１）一般高齢者調査

458件の回答があり、内容別では「高齢福祉・地域福祉」についての意見が104件と最も多く、次いで「区や国への意見・要望」が94件、「医療・健康」が44件、「入所施設」が34件となっています。

項　目		件 数
1	高齢福祉・地域福祉	104
2	区や国への意見・要望	94
3	医療・健康	44
4	入所施設	34
5	アンケートについて	33
6	経済事情・経済的負担	32
7	介護保険制度・介護サービス	25
8	在宅介護・介護者	14
9	仕事	10
10	その他	68
回答総数		458

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回ります。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①高齢福祉・地域福祉

買い物の途中疲れて歩くのが辛い。ベンチ、イスなど、町中にあると助かる。
現在は自分の生活をなんとかしておりますが、過去に両親は北区役所福祉課のお世話でいろいろ介護の方法を頂き、助かりました。それも、人様に教えて頂かなければ、解りませんでした。安心して相談出来るよう、声を大にして頂ければ皆様助かると思います。
「施設中心」から「地域全体で支える」へ、施設は「閉じた場所」ではなく、人が集い、交わる“開かれた場所”になることが重要です。地域づくりのありかた：支援される側をつくらない。これからの高齢者施設、地域づくりは、「老後を預かる場所」ではなく、「誰もが最期まで役割とつながりを持って生きられる社会の基盤」です。

②区や国への意見・要望

色々な所で災害がおきているので、地域での具体的避難のあり方を検討していただきたい（特に水害）。日中は若い人が仕事でいないので不安である（雨の中）。
家族はいますが、車がないので、買い物、病院へ行くにはタクシーなどを頼るしかありません。交通の面なども、もっと充実していただければと思います。
両親の介護をして、いろいろと感じました。とにかく介護は大変なので、子にはあまり負担をかけたくないと思いました。初めての場合はわかりにくいことがいろいろとあったので、介護のノウハウのわかりやすい冊子（現在はあるかもしれませんが）があり、区役所、地域包括支援センター他、いろいろなところで受けられれば良いと思います。

③医療・健康

「あんしんセンター」なるものがある事も知りませんでした。アンケートのように、もし自分が病気になったり、介護が必要になったりした時の手順というか、まず『どうしたらよいか』『自分の進めていく順は』とかを具体的に知っておきたいです。
滝野川１～２丁目地区はかかりつけ医になって下さる病院がほとんどありません。大きな病院は様々な科に分れていて、高度な医療を提供してくれますが、人全体を見てくれません。是非話をかわすことのできるお医者様がいて下さると安心できます。
人生100年時代と言われていますが、なかなか難しい現実です。私は今のところ健康で元気ですが、いつ何があるかと不安があってもあたり前の年齢になりました。物事をアクティブにとらえて自分の好きな事を探し継続していくことが“健康”元気につながると思っております。身体を動かして程々の汗をかいてスッキリする！また、おしゃべり女性同志の最高の楽しみです。

④入所施設

高齢施設がこれから入れるか心配です。なかなか入れなくなると家族に負担をかける事になると思うと不安です。認知症とわかったら自分で施設に入るつもりですが入れるか心配な所もあります。
子供達には期待出来ない時代になっている（独自に居を持ちローンを組んで生活している為）。私たち夫婦が一緒にお世話になれる施設があると良い（誰にも負担を掛けずに済む為）。
特養は入所要件が厳しく、入所倍率も高い。民間の介護付き老人ホームは利用料も高額なので、利用できる方は多くない。身近に世話をしてくれる人がいない方は訪問介護に頼るしかない現状であるが、低所得者でも入所できる介護付施設が増えるとよい。

⑤アンケートについて

色々なアンケート調査に対して今後も継続してほしい。
私共年配者には大変ハードなアンケートでした。ですが自己を見つめるよい機会になりました。御礼申します。老人家庭では公的場所が頼りです。大変とは思いますが出来る限り寄り添って下さることお願い申します。元気でいたいですね。老いは平等です。
今回のアンケートを通じて、高齢者自身のあり方、そして今後に対して考えておかねばならぬことを痛感しました。都や区の広報で何となく知っておかねばならぬこと、やっておかねばならぬことの自覚はありましたが、アンケートはその意を強くしてくれます。家族全員で考えるといったものは、もっと充実性が期待できるかと思います。ありがとうございました。

⑥経済事情・経済的負担

年金生活が苦しい。もう少しでいいので高齢者誰しもが豊かに暮らせたらと思います。高齢者がよりよい環境で生活ができればと常々思います。
年金生活で母の介護にも全てお金がかかる。自分の老後の金を使い介護している状況。もっとお金がかからない介護をしたい。
年金で生活ができるようにしてほしいと思います。生活が苦しいです。

⑦介護保険制度・介護サービス

介護認定を受ける時期の基準はありますか。具合が悪くなってからだと時間がかかると聞いてるので。私は現在必要ないのですが、どう考えておけばよいのでしょうか。
昭和51年の頃は介護保険制度がなくて大変でした。今は地域包括支援もあり大変良い制度ですが、申請してからおりるまで３ケ月位かかるとのこと。もう少し早くできるようになれば助かるのに。手続きした時～３ケ月が一番大変なのにね。よろしくお願いします。
申請をしないと受けられない制度。介護関係者ではなく知人に教えてもらいました。もっと分かりやすく！

⑧在宅介護・介護者

10年前、がんの配偶者を自宅で看取った時はあんしんセンターと病院の迅速な連携で満足できる介護を受けました。自分の最後も病気の種にかかわらずあのような手厚い支援を受けられたら、自宅で療養したいと望んでいます。そして最後も自宅で迎えたいと願っています。そして北区に住んでいることを有難いと思います。
現在67歳です。妻の介護をしております。今後体力が落ちてくるときの事を考えると不安を感じる時もあります。
介護や在宅療養の問題は、身近な問題ではあるが、自分自身のこととなると、考えたことがない。家族のためにも、自分が健康なうちに、今から話し合うことが必要だと思うが、なかなかできないのが現実です。

⑨仕事

私の場合シルバー人材センターの児童交通指導員を11年していて、多くの友人、教え子たちと仲良くなれました。自分が社会の中で必要とされていることが一番大切だと思います。健康に留意して今の仕事を続け「隅を照らす」人であり続けたいと思う。
若い頃遊びすぎて、将来の事を考えなかった。自分が悪い、この年でも働かなければ食べてゆけない。体が動く間働きます。
長年国民年金を支払っても少額の年金で生活している高齢者、無理なく仕事して生活を豊にしたい。高齢者にもできる仕事を勉強する機会を作ってほしいです。

⑩その他

私は85歳です。自分の意志で考え、自分の足で行動出来る今が、人生で一番幸せな時と思います。後何年、いや何日続くかわかりませんが、この幸せな期間を楽しく生きたいと思います。
相談できる人がいることが大切。人生、生活、病気、金銭などなど解決できるあるいは手がかりをつかめる人がほしい。
現在78歳ではありますが妻に任せていることが多いため、良く知らないことが多い。もっと勉強します。

（２）認定者調査

212件の回答があり、内容別では「介護保険制度・介護サービス」についての意見が41件と最も多く、次いで「高齢福祉・地域福祉」が30件、「区や国への意見・要望」が29件となっています。

項　目		件 数
1	介護保険制度・介護サービス	41
2	高齢福祉・地域福祉	30
3	区や国への意見・要望	29
4	在宅介護・介護者	22
5	医療・健康	19
6	入所施設	15
7	アンケートについて	13
8	経済事情・経済的負担	11
9	将来の不安	10
10	その他	22
回答総数		212

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回ります。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①介護保険制度・介護サービス

介護認定その他、大変時間がかかる。もっと効率的にスピーディにできるはずだ。見直しを望みます。
査定をする人により差があり、何故要介護を受けているか疑問に思う事がある。誰もが見たり聞いたり、納得の出来るよう、また平等な考え方が望ましい。
要支援１の為デイサービスは週１回しか利用できません。一人暮しの人はせめて週２回利用できるようにしてもらえないでしょうか。知人もあまりおらず、家族は遠方にいる為１人でいる事が多いです。

②高齢福祉・地域福祉

バリアフリーの充実。特に感じる事は雨天時の滑りやすい歩道（タイル）、怖い思いをした事がある。また左右に傾斜のある歩道など。
保育園と老人のふれあいの場が出来たら良いと思います。
リハビリ等に関する施設の強化、内容の充実化を希望します。

③区や国への意見・要望

身寄り無い独り暮らしの高齢者で（預金有り）だんだん衰弱していくので、終活していく上で適切な方法を教えて下さい。
デジタルに弱い人達にも可能な情報連絡方法を具体化して下さい（すぐにスマホ・パソコンに依存）。
現在も様々な取り組みやサービス等がありますが、その情報の周知に力を入れてほしいと思います。

④在宅介護・介護者

本人はできる限り今の住居で生活することを望んでいて、それに添ってケアマネさんを始め、ヘルパーさんやデイサービスの職員の皆さんがサポートしてくれていて、おかげ様で自宅に戻ってからとても元気になっています。お世話になって感謝しています。ありがとうございます。
（娘が同じような親を介護している者同士）介護者同士の情報交換や不満を聞いてもらえる環境が身近にあると助かる。

⑤医療・健康

かかりつけの医者が常に診ているので今のところは心配ありません。長いつき合いなので先生にお願いしています。
要介護３の夫は時々体調を崩し入院します。退院時は体力が低下して歩くこともままなりません。１ヶ月でも２ヶ月でもリハビリをすれば、体力が回復して帰宅できます。ぜひ老健のようなリハビリ専門施設を増やしていただきたいと思います。

⑥入所施設

特別養護施設の入居が順番待ちな現状です。今の介護状況で働く事が難しいです。至急改善してほしいです。
入居施設の金額が高い。もっと利用できる料金に下げ、年金で低くても入れる設定にして欲しい。特養だけでなく、民間も入りやすい金額にしてほしい。自宅では限界があり、区や国で対応してほしい。

⑦アンケートについて

アンケートの問題が多いと思います。

⑧経済事情・経済的負担

地元の“わくわく配食サービス”より１食500円の和食の配食を続けています。物価高の状況で、このまま継続できるのか、“食はまさに命綱です”ので、不安がつのります。区としても万が一の援助をしてほしいものです。
資金的に余裕がないので心配です。

⑨将来の不安

体力、健康が不安です。この先特養等公立の施設に入所出来るのか等々不安に思っています。よろしく御配慮お願いします。常日頃、頭からはなれません。
私は一人暮しで体調が良くなく、万が一孤独死した場合、都営に住んでいるのでご近所にご迷惑をかけたりするのが心配です。

⑩その他

要介護（支援）認定を受けるまでが、本人の中でなかなか決心がつかない。
ありがとうございます。要支援１を受けながら、明るく楽しく前向きにをモットーに過ごしています。感謝です。

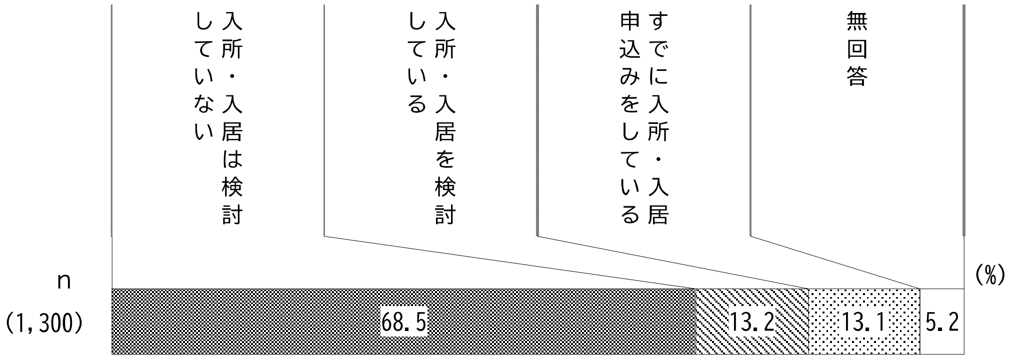
第３章　在宅介護実態調査の結果

１．調査対象者について

（１）施設等への入所・入居の検討状況

Ｑ６．現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。
（○は１つ）
※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

「入所・入居は検討していない」が68.5％を占め、「入所・入居を検討している」が13.2％、「すでに入所・入居申し込みをしている」が13.1％となっています。

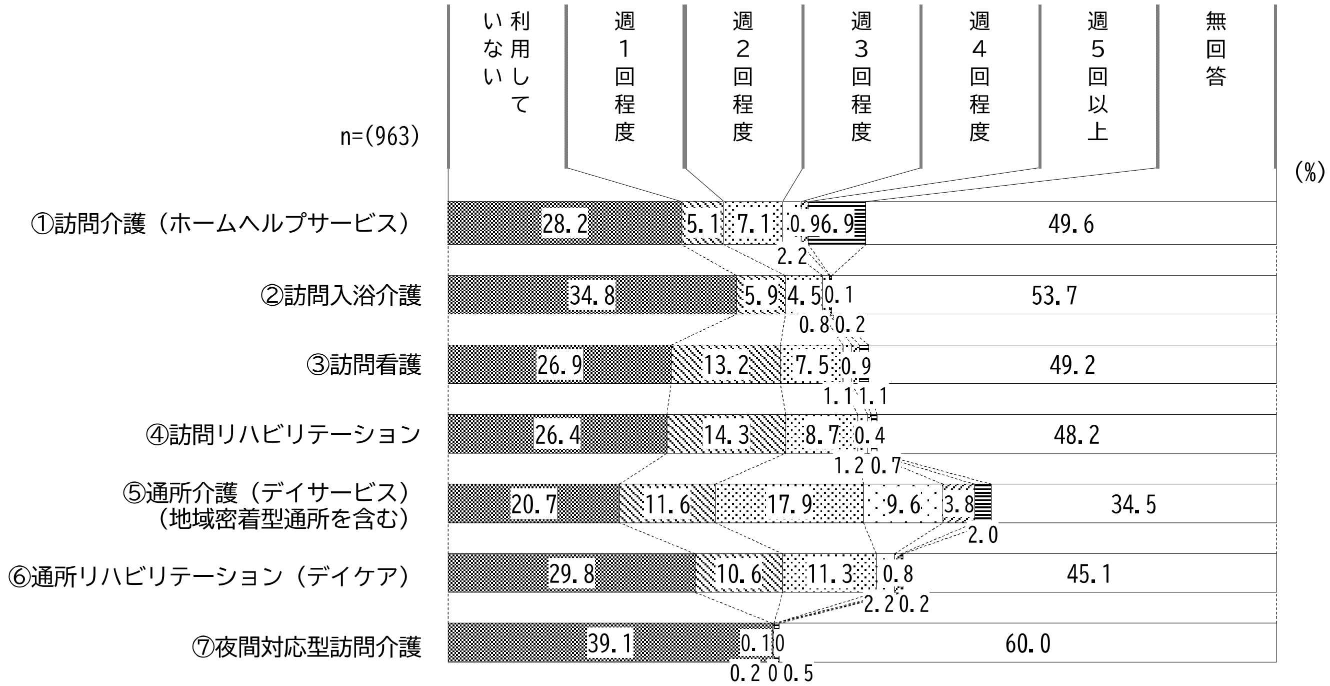


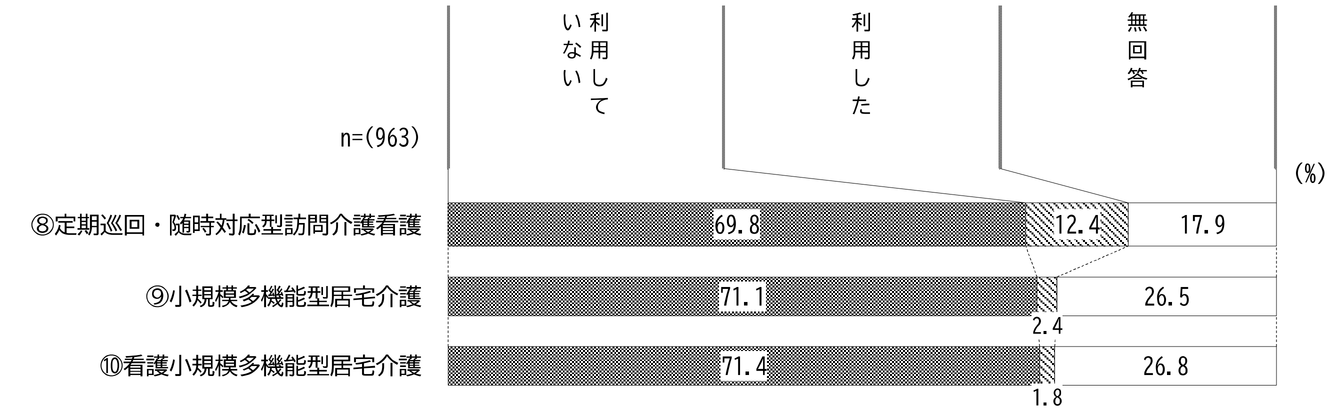
（２）介護保険サービスの利用状況

【Ｑ８で「１．利用している」と回答した方にお伺いします。】
Ｑ９．以下の介護保険サービスについて、利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「０回」または「１．利用していない」を選択してください。（それぞれ１つに○）

〈①～⑩介護保険サービスの利用状況〉

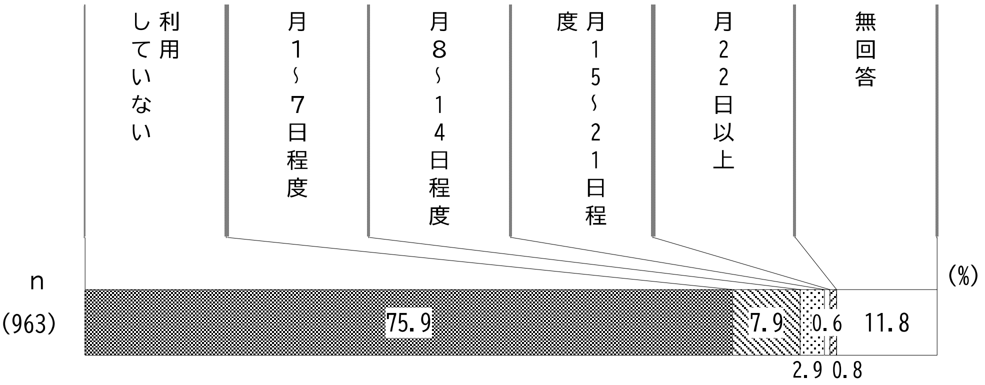
①から⑦は全体から「利用していない」と無回答を除いた『利用した』割合、⑧から⑩は『利用した』割合を見ると、「通所介護（デイサービス）」が44.9％で最も多く、以下、「訪問リハビリテーション」（25.3％）、「通所リハビリテーション（デイケア）」（25.1％）、「訪問看護」（23.8％）、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」（22.2％）、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（12.4％）、「訪問入浴介護」（11.5％）、「小規模多機能型居宅介護」（2.4％）、「看護小規模多機能型居宅介護」（1.8％）、「夜間対応型訪問介護」（0.8％）となっています。





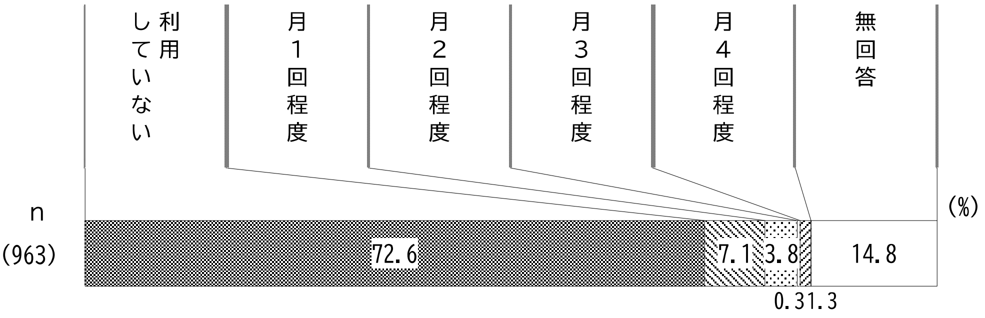
〈⑪「ショートステイ」の利用状況〉

全体から「利用していない」と無回答を除いた『利用した』は12.2％で、そのうちの7.9％が「月１～７日程度」となっています。



〈⑫「居宅療養管理指導」の利用状況〉

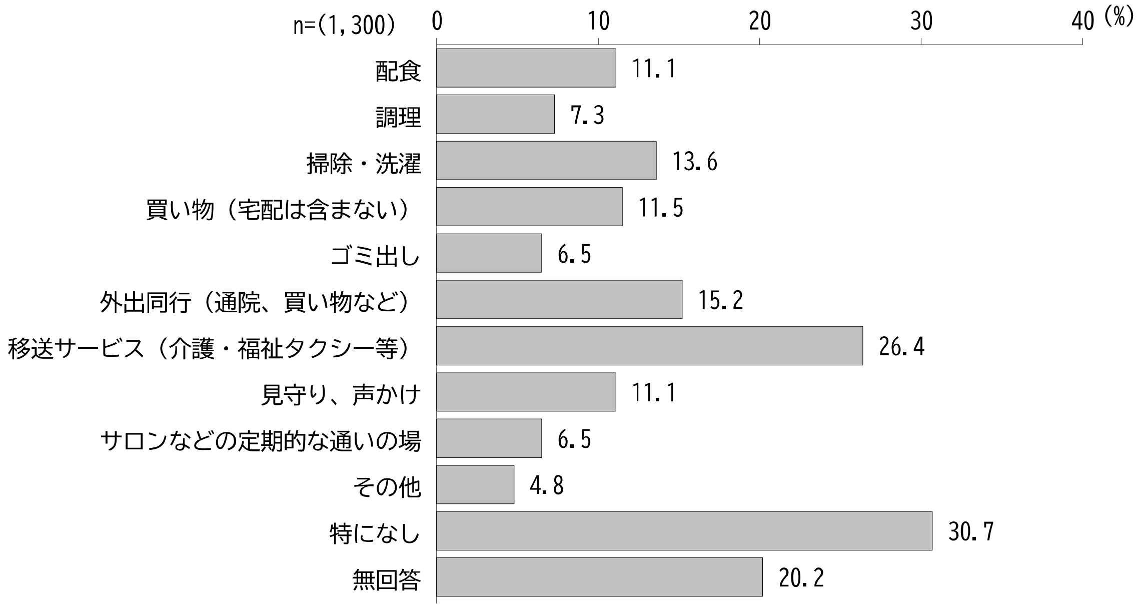
全体から「利用していない」と無回答を除いた『利用した』は12.5％で、そのうちの7.1％が「月１回程度」となっています。



（３）在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

Q12. 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。
（あてはまるものすべてに○）

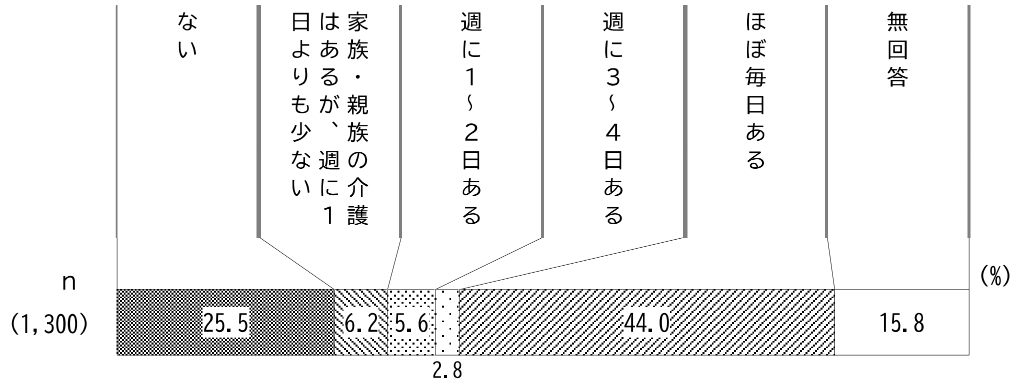
全体から「特になし」（30.7％）と無回答（20.2％）を除いた49.1％が、具体的な支援・サービスを挙げています。
「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.4％と最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（15.2％）、「掃除・洗濯」（13.6％）、「買い物（宅配は含まない）」（11.5％）、「配食」および「見守り、声かけ」（11.1％）と続いています。



（４）家族・親族からの介護の頻度

Q14. ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。（〇は１つ）

「ほぼ毎日ある」が44.0％と半数近く、次いで「ない」（25.5％）、「家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない」（6.2％）、「週に１～２日ある」（5.6％）となっています。

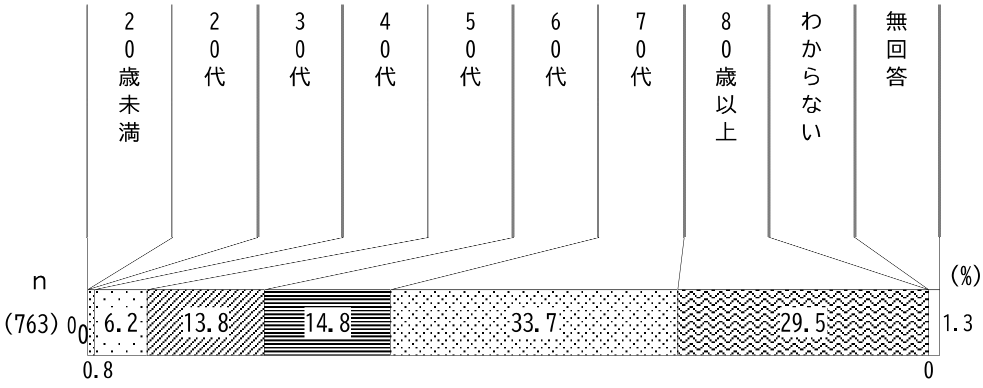


２．主な介護者について

（１）主な介護者の年齢

Q4. 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（○は１つ）

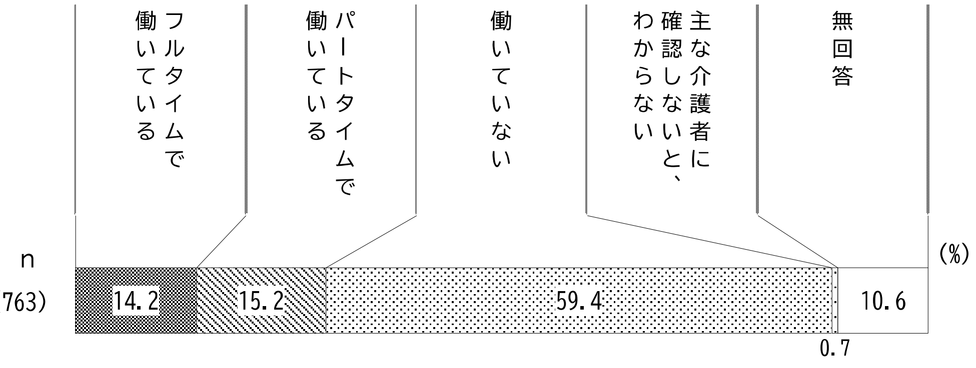
「70代」が33.7％と最も多く、以下、「80歳以上」が29.5％、「60代」が14.8％、「50代」が13.8％となっており、50歳以上が全体の91.8％を占めています。



（２）主な介護者の勤務形態

Q７．主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（○は１つ）
※パートタイム：１週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方

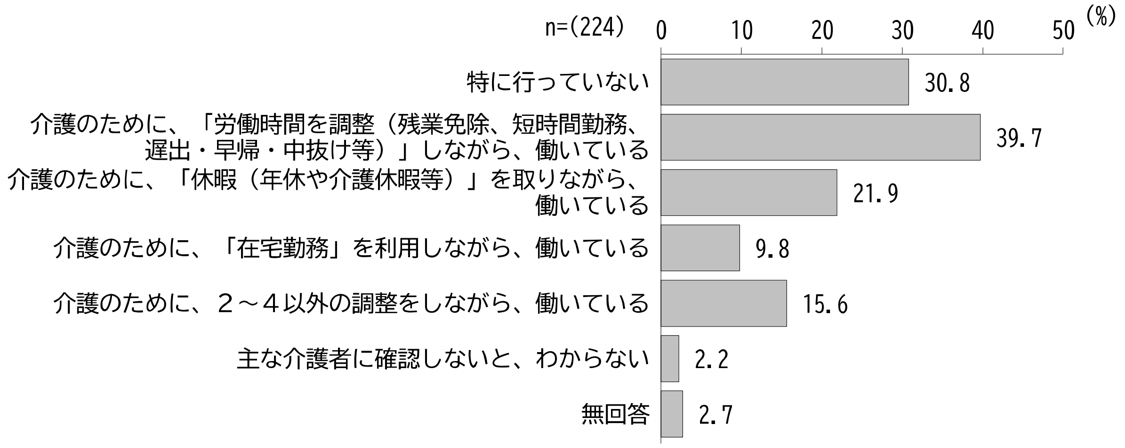
「働いていない」が59.4％と約６割で、「パートタイムで働いている」が15.2％、「フルタイムで働いている」が14.2％となっています。



（３）働き方の調整の有無

【Ｑ７で「１.」「２.」と回答した方（働いている方）に伺いします。】
Ｑ８．主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が39.7％と最も多くなっています。一方、「特に行っていない」が30.8％となっています。

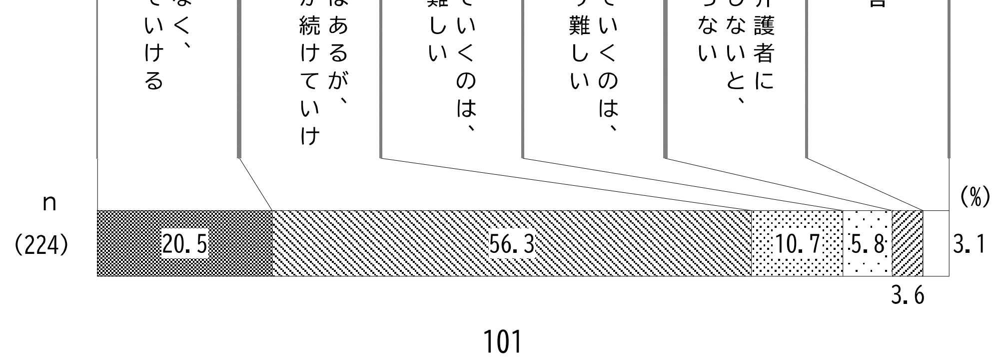


※２～４以外：選択肢２「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等」しながら、働いている」
選択肢３「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」
選択肢４「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」

（４）両立の見通し

【Ｑ７で「１.」「２.」と回答した方（働いている方）にお伺いします。】
Q10．主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（○は１つ）

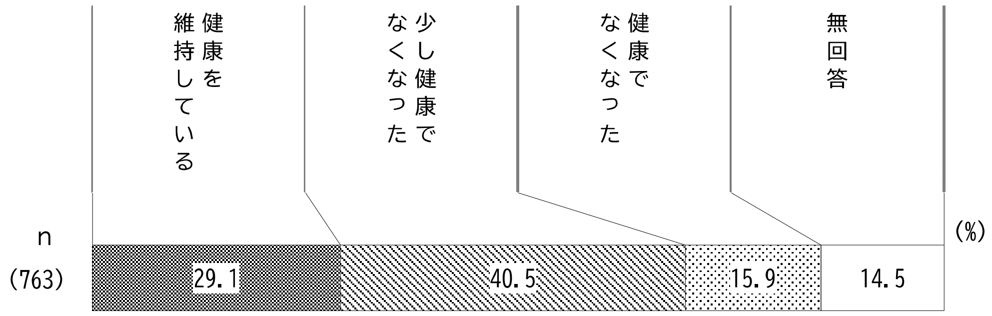
「問題はあるが、何とか続けていける」が56.3％と最も多く、次いで、「問題なく、続けていける」が20.5％、「続けていくのは、やや難しい」が10.7％、「続けていくのは、かなり難しい」が5.8％となっている。



（５）介護を始める前との体調比較

Q11. 主な介護者の方の体調は、介護を始める前と比べて変わりましたか。（○は１つ）

「少し健康でなくなった」が40.5%で「健康を維持している」（29.1%）を上回っています。



■自由記述

これからの高齢者施策や介護のあり方についてのご意見・ご提案があれば、ご自由に記入してください。

473件の回答があり、内容別では「介護保険制度・介護サービス」についての意見が141件と最も多く、次いで「在宅介護・介護者」が74件、「高齢福祉・地域福祉」が60件、「経済事情・経済的負担」が54件となっています。

項　目		件 数
1	介護保険制度・介護サービス	141
2	在宅介護・介護者	74
3	高齢福祉・地域福祉	60
4	経済事情・経済的負担	54
5	将来の不安	40
6	区や国への意見・要望	22
7	医療・健康	22
8	入所施設	20
9	アンケートについて	18
10	その他	22
回答総数		473

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回ります。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①介護保険制度・介護サービス

介護保険サービス以外の支援サービスを介護保険で適用して欲しい。介護者の身体的・精神的負担軽減の一助となる。
通所施設でリハビリデイの数を増やして頂けたらと思います。最近は、人数が増えてしまいケアが満足していない方が出てきている様です。フレイルを進ませない為に、リハビリは必要です。
急な用事ができた時などに「延長デイサービス」の制度があるとありがたい。

②在宅介護・介護者

高齢の家族介護を行う中で、健康で会社勤務をしている自分が担うことは当たり前のことではあるが、同時に複数の介護を行うことは、精神的、金銭的、体力的な負担がある。自身も高齢になるにつれ、介護と医療、施設、人材等の横軸での展開が進むと良いと思う。
介護が家族の一部に集中しないよう、必要なときに利用しやすい施設や支援体制の充実を希望します。困った時に気軽に相談できる窓口の周知もさらに必要だと思う。
介護はゴールが見えないのでつらい。介護を楽しく・手抜きが出来るアドバイスがほしい。

③高齢福祉・地域福祉

住んでいる場所が駅から遠く買い物に、そして病院に行くのも不便です。バスもバス停は遠く、行きのみで帰りに使えるバスが通っていません。急な坂も多く地域を細かく巡る巡回バスが本当に必要だと思います。この現状だと数年先、急な坂を登って病院を往復できず、タクシー利用の費用もかさんで通院もできなくなります。
地域包括センターでの、スマートフォン教室とか運動（軽め）支援（体操教室）を行ってほしい。日常生活の事を気軽に相談できる場所がほしいです。

④経済事情・経済的負担

介護者への支援がなさすぎ（特に金銭面）。育児は医療費の無料や子供一人に対して金銭支援等沢山ある。親がほしいと思って子供を産み育てているので支援の必要性を感じない。むしろ高齢者や介護者の方が大変。
介護者にも手厚い保障があると良い。少ない年金でももっと充実できる内容をサービスして欲しい。年金が少なすぎてサービスを受けづらい。
介護者への経済的支援が欲しい。身内だとしても全く無償ではやりがいも無いと思われる。

⑤将来の不安

介護者が健康なうちは良いのですが、歳をとって支援しづらくなったときが心配です。
まだ介護を受けていないが、いずれお願いする事があると思うが、高齢のヘルパーさんが多くなっているようですね。年金で生活する者にとって、利用料の支払いが負担になっている話を聞き不安になります。

⑥区や国への意見・要望

高齢世帯（両親）が高い家賃を払って賃貸住宅に住んでおり、経済的負担が大きいため、安心して住み続けられるような施策をして欲しい。（都営に何度も申し込みしていますが当たらない）
介護や福祉にかかわる人の給料が安すぎ。人手不足になっていると思います。子供に対するものは十分だと思うが年寄にももう少し優しくそして福祉医療関係者に手厚い給料を出して日本の未来を守ってほしい。

⑦医療・健康

認知症の若い時の生活改善についての徹底。夫が認知症になり悲しいことや驚くことが沢山あります。人生において、このややこしい病気（特に若年性）にかからない為の努力工夫が周知されていれば、ありがたいと思います。
医療施設への通う方法が段々難しくなる。

⑧入所施設

高齢者施設に入りやすくして欲しいです。広告等では高額な施設が多いです。
高齢者施設を増やし、要介護者の入所のハードルを下げてほしい。
老々介護について。夫婦で高齢になり、主人の介護が出来なくなった場合にすぐ入所出来る施設があるか不安。

⑨アンケートについて

今後とも、この様なアンケートをお願いします。時々内容が変わりますと思います。よろしくお願いします。

⑩その他

笑顔が増えますように。長生きしたいと思える社会となりますように。
現金で支払う事のみ出来ますが、タッチパネル等を押しての支払いが難しい様なので、買い物をあまりしなくなりました。行けるお店が限られてしまうのはかわいそうだと思う。介護をしていない人は、している人の気持ちが分からない人がまだまだ多く残念。

第４章　55歳以上64歳以下調査の結果

１．仕事に対する考え方

（１）就労状況

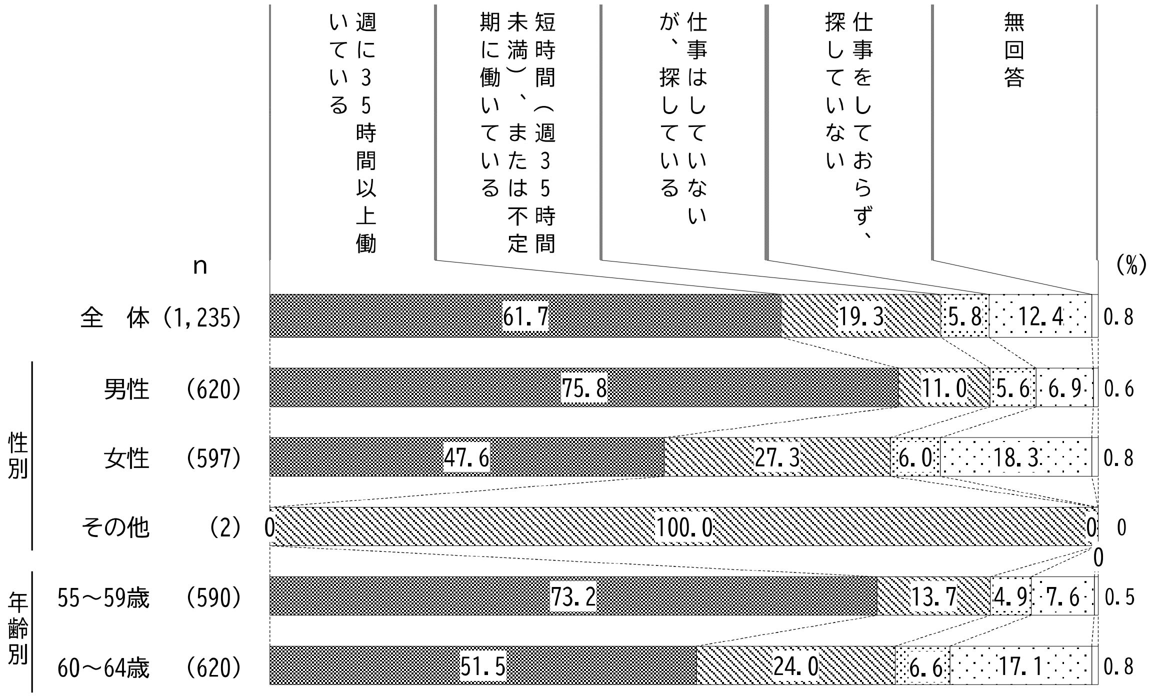
Ｑ１．あなたは現在、収入を伴う仕事（パート・アルバイト、家業の手伝い等を含む）をしていますか。（○は１つ）

「週に35時間以上働いている」が61.7％、次いで「短時間（週35時間未満）、または不定期に働いている」（19.3％）、「仕事をしておらず、探していない」（12.4％）、「仕事はしていないが探している」（5.8％）となっています。

〈性別、年齢別／就労状況〉

性別に見ると、男性では「週に35時間以上働いている」が75.8％を占め、女性（47.6％）を上回っています。一方、女性は「短時間（週35時間未満）、または不定期に働いている」（27.3％）や、「仕事をしておらず、探していない」（18.3％）が男性より多くなっています。

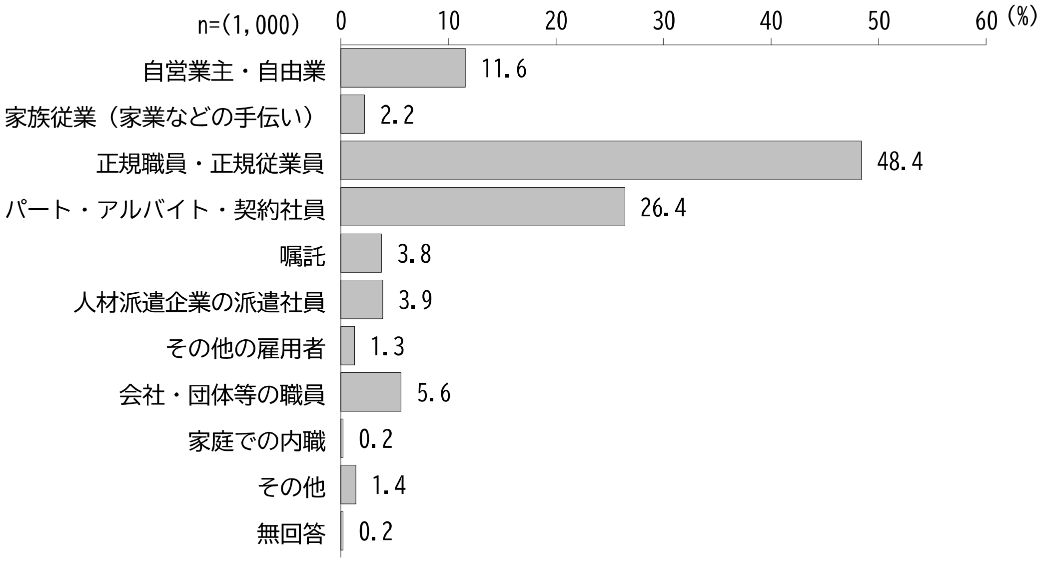
年齢別に見ると、55～59歳は男性、60～64歳は女性に近い分布となっています。



（２）就労形態

【Ｑ１で「１」「２」と答えた方にうかがいます】
Ｑ２．あなたの現在の雇用状況は、次のどれにあたりますか。（あてはまるものすべてに○）

「正規職員・正規従業員」が48.4％と最も多く、以下、「パート・アルバイト・契約社員」（26.4％）、「自営業主・自由業」（11.6％）、「会社・団体等の職員」（5.6％）と続いています。



〈性別、年齢別／就労形態〉

性別に見ると、男性では「正規職員・正規従業員」（56.5%）や「パート・アルバイト・契約社員」および「自営業主・自由業」（15.1%）が多く、女性では「正規職員・正規従業員」および「パート・アルバイト・契約社員」（39.4%）が同率で多くなっています。

年齢別に見ると、55～59歳、60～64歳ともに「正規職員・正規従業員」が最も多くなっています。また、60～64歳では「パート・アルバイト・契約社員」（33.3%）も多くなっています。

（%）

		回答者数	自営業主・自由業	家族従業（家業などの手伝い）	正規職員・正規従業員	パート・アルバイト・契約社員	嘱託	人材派遣企業の派遣社員
全体		1,000	11.6	2.2	48.4	26.4	3.8	3.9
性別	男性	538	15.1	0.9	56.5	15.1	4.8	1.9
	女性	447	7.6	3.6	39.4	39.4	2.7	5.8
	その他	2	-	-	-	50.0	-	-
年齢別	55～59歳	513	9.7	2.1	60.6	19.5	0.8	4.5
	60～64歳	468	13.7	2.1	35.7	33.3	7.3	2.8

		回答者数	その他の雇用者	会社・団体等の職員	家庭での内職	その他	無回答
全体		1,000	1.3	5.6	0.2	1.4	0.2
性別	男性	538	1.7	6.7	-	1.1	0.4
	女性	447	0.9	4.3	0.4	1.3	-
	その他	2	-	50.0	-	-	-
年齢別	55～59歳	513	0.6	4.9	0.2	1.0	-
	60～64歳	468	2.1	6.4	0.2	1.5	0.4

（３）65歳以降の就労意欲

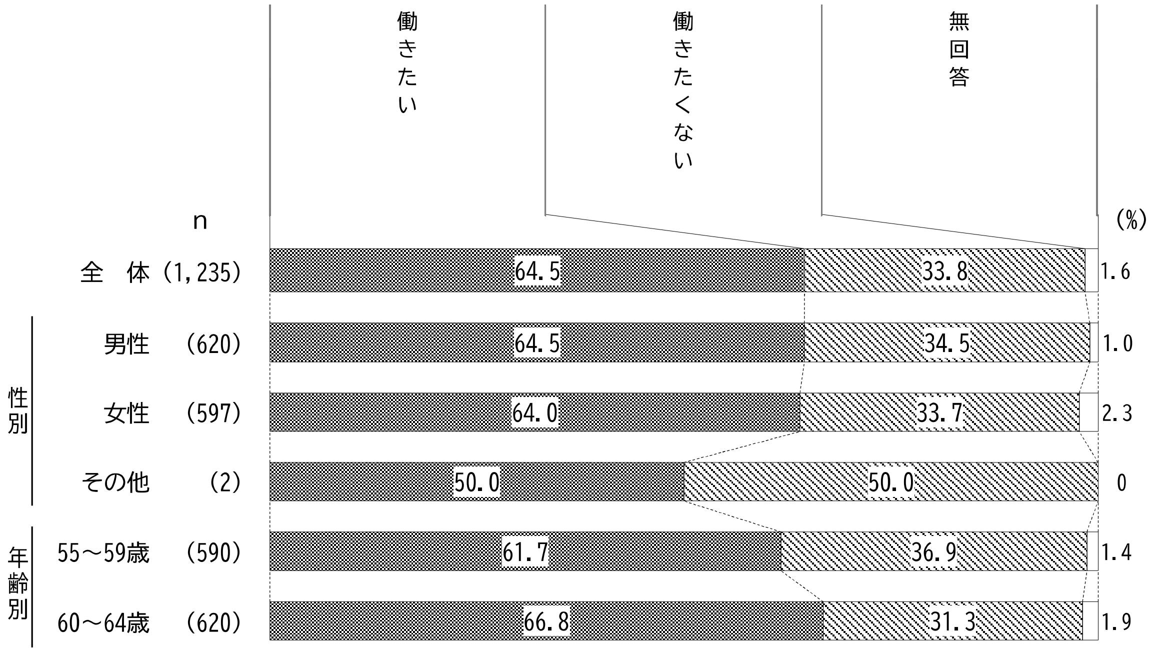
Ｑ３．あなたは65歳以降も働きたいですか。（〇は１つ）

「働きたい」が64.5％、「働きたくない」が33.8％となっています。

〈性別、年齢別／65歳以降の就労意欲〉

性別に見ると、大きな違いは見られません。

年齢別に見ると、「働きたい」は60～64歳で66.8％と55～59歳（61.7％）を上回っています。



（４）希望する就労年齢

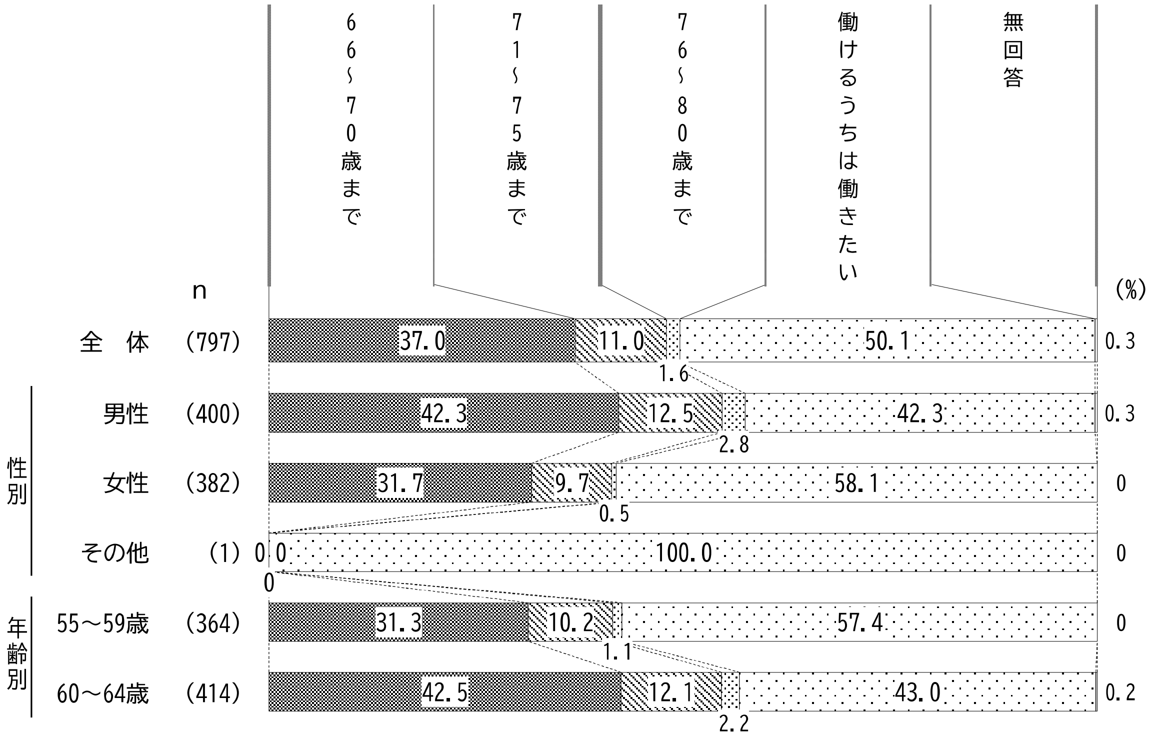
【Ｑ３で「１．働きたい」と答えた方に伺います】
Ｑ４．あなたは何歳まで働きたいですか。（フルタイムだけではなく、１日２時間や週１～２日など、短時間勤務や勤務日数が少ない仕事も含みます。）（○は１つ）

「働けるうちは働きたい」が50.1％と半数で、「66～70歳まで」が37.0％、「71～75歳まで」が11.0％、「76～80歳まで」が1.6％となっています。

〈性別、年齢別／希望する就労年齢〉

性別に見ると、具体的な年齢による回答はいずれも男性が多く、女性は「働けるうちは働きたい」が58.1％と多くなっています。

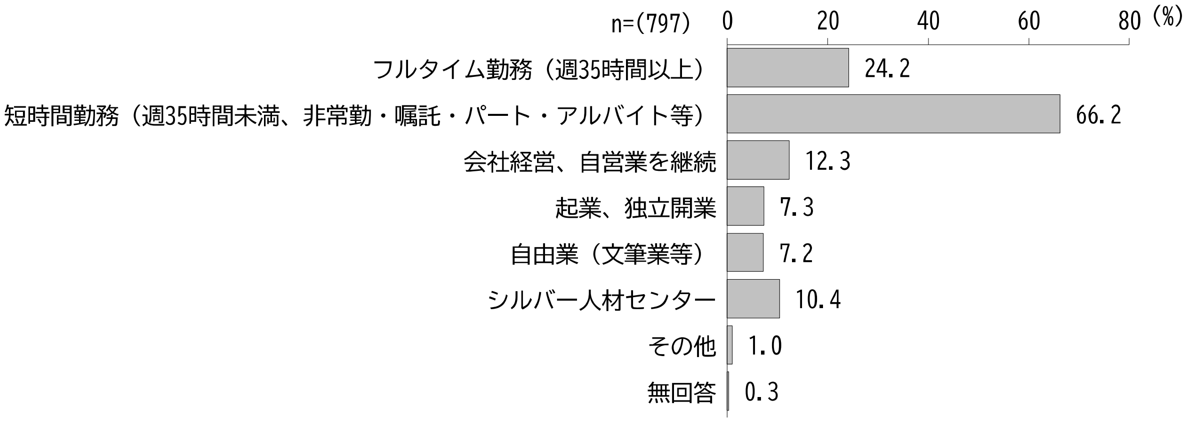
年齢別に見ると、55～59歳は女性、60～64歳は男性に近い分布となっています。



（５）希望する働き方

【Ｑ３で「１．働きたい」と答えた方にうかがいます】
Ｑ５．どのような働き方をしたいですか。（あてはまるものすべてに○）

「短時間勤務（週35時間未満、非常勤・嘱託・パート・アルバイト等）」が66.2％で、以下、「フルタイム勤務（週に35時間以上）」（24.2％）、「会社経営、自営業を継続」（12.3％）、「シルバー人材センター」（10.4％）と続いています。



〈性別、年齢別／希望する働き方〉

性別に見ると、男性では「フルタイム勤務（週に35時間以上）」（29.3％）や「会社経営、自営業を継続」（18.5％）が多く、女性では「短時間勤務（週35時間未満、非常勤・嘱託・パート・アルバイト等）」（78.0％）が多くなっています。

年齢別に見ると、「起業、独立開業」は55～59歳で10.7％と60～64歳（3.6％）より多くなっています。

(%)

		回答者数	フルタイム勤務（週35時間以上）	短時間勤務（週35時間未満、非常勤・嘱託・パート・アルバイト等）	会社経営、自営業を継続	起業、独立開業	自由業（文筆業等）	シルバー人材センター	その他	無回答
全体		797	24.2	66.2	12.3	7.3	7.2	10.4	1.0	0.3
性別	男性	400	29.3	54.5	18.5	7.5	6.3	8.5	1.0	0.5
	女性	382	18.6	78.0	6.3	6.8	7.6	11.8	1.0	-
	その他	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-
年齢別	55～59歳	364	25.3	66.2	11.0	10.7	7.1	11.0	0.8	0.3
	60～64歳	414	23.2	65.9	14.0	3.6	6.5	9.7	1.2	0.2

２．地域とのつながり、社会参加

（１）65歳以降の近所との関わり意向

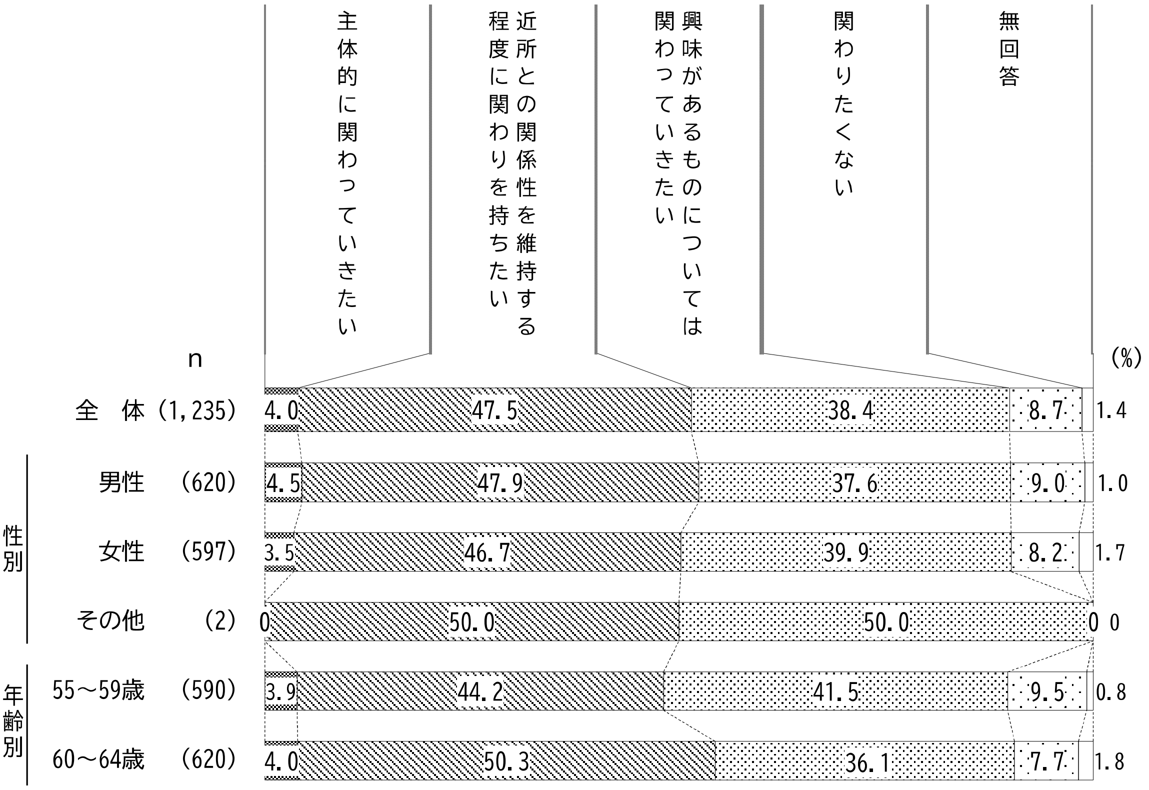
Ｑ９．あなたは65歳以降、あなたの住んでいる地域との関わりをどの程度持ちたいですか。
（○は１つ）

「近所との関係性を維持する程度に関わりを持ちたい」が47.5%、「興味があるものについては関わっていきたい」が38.4%、「関わりたくない」が8.7%となっています。

〈性別、年齢別／65歳以降の近所との関わり意向〉

性別に見ると、大きな違いは見られません。

年齢別に見ると、「近所との関係性を維持する程度に関わりを持ちたい」は60～64歳で50.3%と55～59歳（44.2%）より多く、「興味があるものについては関わっていきたい」は55～59歳で41.5%と60～64歳（36.1%）より多くなっています。

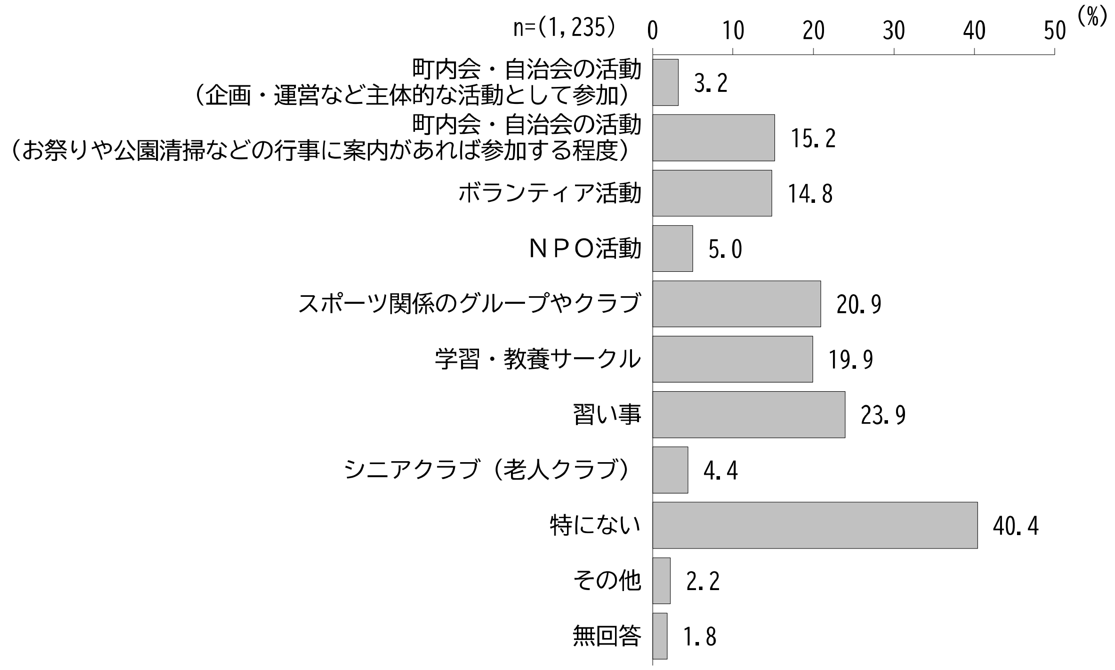


（２）65歳以降にやってみたい活動

Q10. あなたは、65歳以後あなたの住んでいる地域における活動でやってみたいことはありますか。（○は３つまで）

全体から「特にない」（40.4％）と無回答（1.8％）を除いた57.8％が、何らかの活動を選んでいます。

「習い事」が23.9％で最も多く、以下、「スポーツ関係のグループやクラブ」（20.9％）、「学習・教養サークル」（19.9％）、「町内会・自治会の活動（お祭りや公園清掃などの行事に案内があれば参加する程度）」（15.2％）、「ボランティア活動」（14.8％）と続いています。



〈性別、年齢別／65歳以降にやってみたい活動〉

性別に見ると、男性では「町内会・自治会の活動（お祭りや公園清掃などの行事に案内があれば参加する程度)」（17.7%）や「特にない」（47.1%）が女性より多く、女性では「習い事」（33.0%）や「学習・教養サークル」（23.6%）が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、大きな違いは見られません。

(%)

		回答者数	町内会・自治会の活動（企画・運営など主体的な活動として参加）	町内会・自治会の活動（お祭りや公園清掃などの行事に案内があれば参加する程度）	ボランティア活動	NPO活動	スポーツ関係のグループやクラブ	学習・教養サークル
全体		1,235	3.2	15.2	14.8	5.0	20.9	19.9
性別	男性	620	4.4	17.7	13.4	4.8	22.1	16.5
	女性	597	2.2	12.4	16.4	5.2	19.3	23.6
	その他	2	－	－	50.0	－	100.0	100.0
年齢別	55～59歳	590	3.6	14.4	16.1	5.8	19.0	18.8
	60～64歳	620	2.9	15.8	13.7	4.2	22.7	21.3

		回答者数	習い事	シニアクラブ（老人クラブ）	特にない	その他	無回答
全体		1,235	23.9	4.4	40.4	2.2	1.8
性別	男性	620	14.5	2.7	47.1	1.5	1.8
	女性	597	33.0	5.9	34.2	2.8	1.5
	その他	2	50.0	－	－	－	－
年齢別	55～59歳	590	23.1	3.4	40.7	1.7	0.8
	60～64歳	620	23.9	5.2	40.8	2.6	2.4

（３）自身が認知症になったことを知られてもよいか

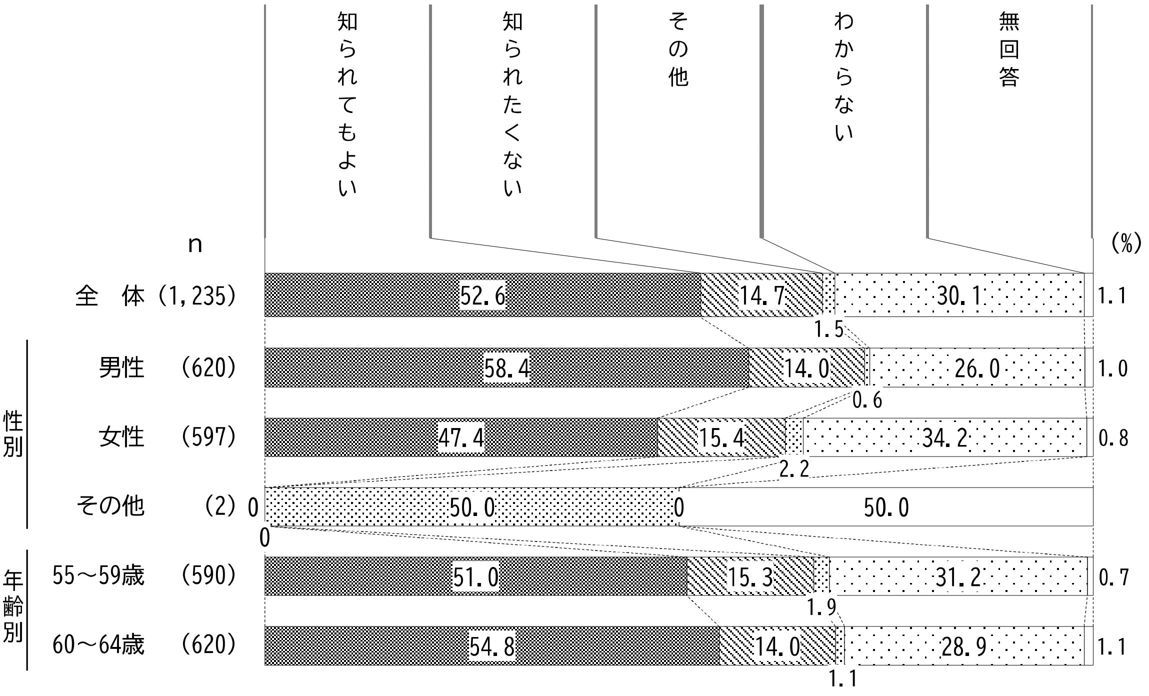
Q14. あなた自身が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。（○は１つ）

「知られてもよい」が52.6％で最も多く、次いで「わからない」が30.1％、「知られたくない」が14.7％となっています。

〈性別、年齢別／自身が認知症になったことを知られてもよいか〉

性別に見ると、「知られてもよい」は男性で58.4％と女性（47.4％）より多くなっています。

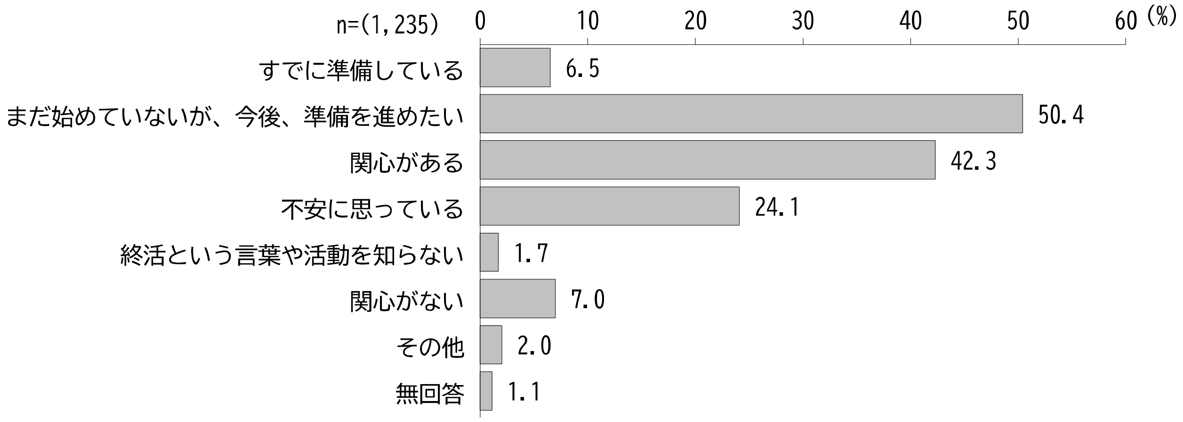
年齢別に見ると、「知られてもよい」は60～64歳で54.8％と55～59歳（51.0％）よりやや多くなっています。



（４）終活についての考え方

Q17. 終活についてどのように考えていますか。（あてはまるものすべてに○）
※終活とは、人生の最期を自分らしく豊かに過ごし、後を託す家族の負担を軽減するための活動のことをいいます。

「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」が50.4％で最も多く、以下、「関心がある」（42.3％）、「不安に思っている」（24.1％）、「関心がない」（7.0％）と続いています。



〈性別、年齢別／終活についての考え方〉

性別に見ると、男性では「関心がない」（10.0％）が女性より多く、女性では「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」（55.1％）、「関心がある」（45.7％）が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」は60～64歳で55.0％と55～59歳（46.6％）より多くなっています。

(%)

		回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
全体		1,235	6.5	50.4	42.3	24.1	1.7	7.0	2.0	1.1
性別	男性	620	5.0	46.9	40.0	22.6	1.9	10.0	1.9	0.2
	女性	597	7.9	55.1	45.7	26.5	1.3	4.0	1.8	0.3
	その他	2	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-
年齢別	55～59歳	590	5.9	46.6	44.1	23.7	1.4	8.1	1.9	-
	60～64歳	620	6.9	55.0	41.6	25.2	1.8	6.1	2.1	0.5

〈家族構成別／終活についての考え方〉

家族構成別に見ると、「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」は“一人暮らし”と“配偶者・パートナーと同居”で５割を超えて多くなっています。また、「不安に思っている」は“一人暮らし”で多くなっています。

(%)

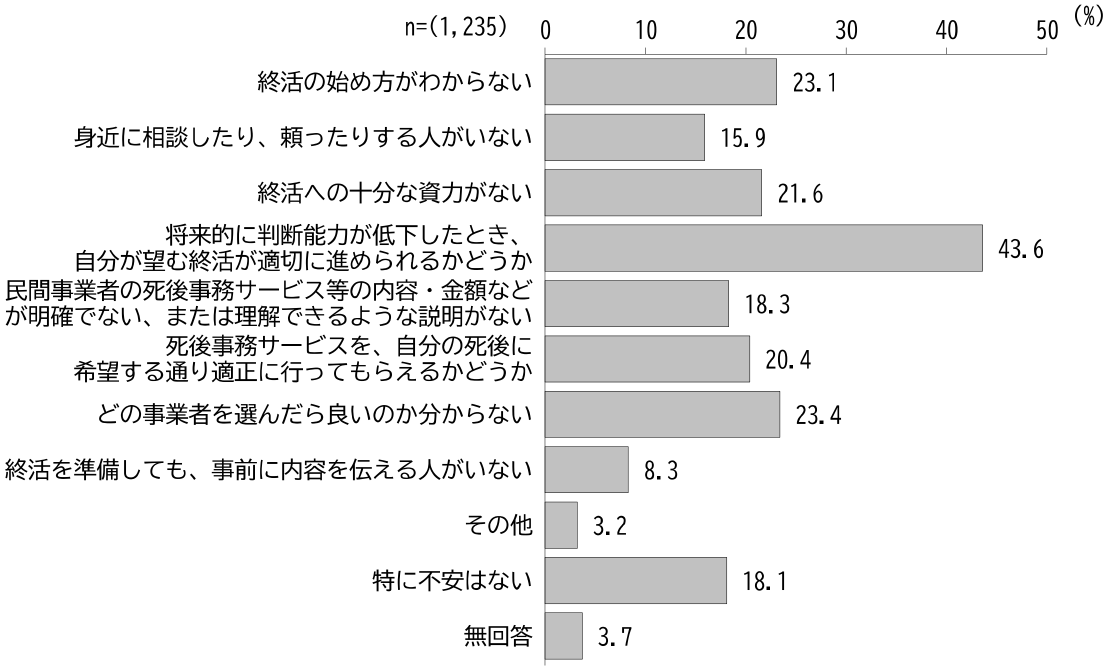
	回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
全体	1,235	6.5	50.4	42.3	24.1	1.7	7.0	2.0	1.1
一人暮らし	354	8.2	52.5	39.5	27.1	1.4	7.6	2.3	1.1
配偶者・パートナーと同居	306	5.6	52.3	46.1	20.9	1.6	6.2	1.6	1.3
息子・娘との２世帯	321	6.5	47.4	43.0	20.6	1.6	6.9	2.2	1.6
その他	233	4.7	48.5	41.6	27.9	1.7	7.3	1.3	0.4

※家族構成別については、問４Ｑ４同居家族の回答パターンで、「一人暮らし（一緒に住んでいる人はいない）」のみ回答の人は「一人暮らし」として、「配偶者・パートナー」のみ回答の人は「配偶者・パートナーと同居」として、「息子」「娘」「子の配偶者（婿、嫁）・パートナー」に回答した人（配偶者・パートナーと同居」のみを除く）は「息子・娘との２世帯」として、いずれも該当しない人は「その他」として、集計軸を設定しました（以降同様）。

（５）終活の準備にあたって、不安に思っていること

Q18. 終活の準備にあたって、不安に思っていることを教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

「将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか」が43.6％で最も多く、以下、「どの事業者を選んだら良いのか分からない」（23.4％）、「終活の始め方がわからない」（23.1％）、「終活への十分な資力がない」（21.6％）と続いています。



〈性別、年齢別／終活の準備にあたって、不安に思っていること〉

性別に見ると、男性では「終活の始め方がわからない」（26.0％）、「身近に相談したり、頼ったりする人がいない」（18.9％）が女性より多く、女性では「民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない」（21.9％）、「どの事業者を選んだら良いのか分からない」（26.3％）が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、「将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか」は60～64歳で46.6％と55～59歳（41.4％）より多くなっています。

（％）

		回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
全体		1,235	23.1	15.9	21.6	43.6	18.3	20.4	23.4	8.3	3.2	18.1	3.7
性別	男性	620	26.0	18.9	22.1	42.1	15.2	19.2	21.1	7.3	2.4	19.4	2.7
	女性	597	20.6	13.2	21.6	46.1	21.9	22.3	26.3	9.5	3.5	17.3	2.8
	その他	2	－	－	－	－	－	－	－	－	50.0	－	50.0
年齢別	55～59歳	590	24.6	16.4	22.4	41.4	19.8	20.3	22.2	8.6	3.2	19.8	0.8
	60～64歳	620	21.9	16.0	21.6	46.6	17.4	21.1	25.2	8.2	2.7	16.8	4.5

家族構成別／終活の準備にあたって、不安に思っていること〉

家族構成別に見ると、「身近に相談したり、頼ったりする人がいない」、「終活への十分な資力がない」、「死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか」は“一人暮らし”で多くなっています。また、「特に不安はない」は“配偶者・パートナーと同居”で多くなっています。

（％）

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
全体	1,235	23.1	15.9	21.6	43.6	18.3	20.4	23.4	8.3	3.2	18.1	3.7
一人暮らし	354	24.3	26.8	26.0	43.2	22.9	25.7	27.7	16.4	3.7	12.1	4.0
配偶者・パートナーと同居	306	19.9	12.7	17.6	45.1	19.0	20.9	25.5	5.2	2.0	24.2	4.6
息子・娘との２世帯	321	21.2	9.0	20.9	41.1	11.2	12.8	17.4	1.2	3.1	19.6	3.4
その他	233	27.5	13.3	20.2	44.6	20.6	22.3	22.3	9.0	3.4	17.6	3.0

３．高齢者あんしんセンター

（１）高齢者あんしんセンターの認知度

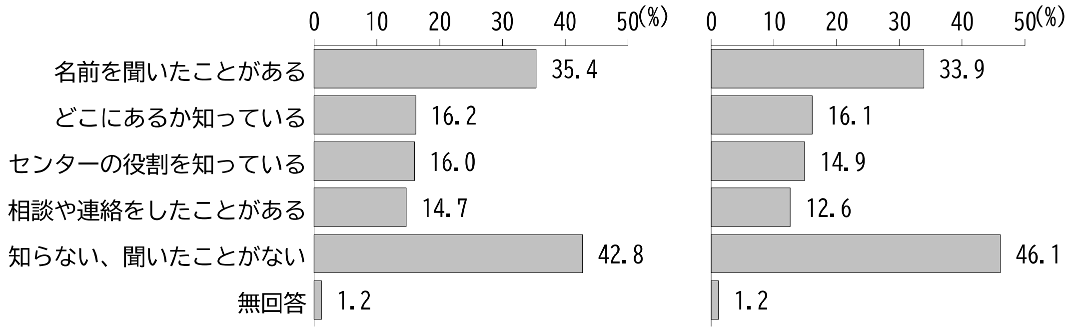
Ｑ１．あなたは高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）を知っていますか。
（あてはまるものすべてに○）

全体から「知らない、聞いたことがない」（42.8％）と無回答（1.2％）を除いた56.0％が、何らかの形でセンターを知っています。

「名前を聞いたことがある」が35.4％、「どこにあるか知っている」が16.2％、「センターの役割を知っている」が16.0％となっています。

令和４年度と比較すると、「名前を聞いたことがある」、「センターの役割を知っている」や「相談や連絡をしたことがある」がわずかに増加しており、「知らない、聞いたことがない」は3.3ポイント減少しています。

【令和７年度調査（ｎ=1,235)】　【令和４年度調査（ｎ=1,319)】



〈居住地区別／「高齢者あんしんセンター」の認知度〉

何らかの形でセンターを知っている割合は、西ケ原東（76.6%）、志茂（73.0%）、十条台（66.2%）の順で多く、逆に、「知らない、聞いたことがない」が多いのは、赤羽北（53.2%）や田端（52.7%）、赤羽西（52.6%）、滝野川西（52.5%）となっています。

(%)

	回答者数	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答
全体	1,235	35.4	16.2	16.0	14.7	42.8	1.2
十条台	65	44.6	23.1	20.0	13.8	33.8	-
王子	93	35.5	19.4	21.5	9.7	39.8	-
豊島	99	27.3	16.2	20.2	17.2	43.4	-
十条	62	35.5	16.1	9.7	16.1	41.9	-
神谷	38	31.6	21.1	13.2	10.5	50.0	-
赤羽西	57	31.6	14.0	14.0	12.3	52.6	-
志茂	63	44.4	23.8	23.8	25.4	25.4	1.6
赤羽	68	33.8	17.6	14.7	17.6	50.0	-
赤羽北	79	24.1	12.7	13.9	13.9	53.2	-
滝野川西	61	36.1	13.1	8.2	6.6	52.5	1.6
滝野川東	86	36.0	11.6	12.8	14.0	43.0	1.2
西ケ原東	47	46.8	14.9	27.7	21.3	23.4	-
昭和町	81	32.1	24.7	21.0	24.7	42.0	1.2
浮間	70	37.1	17.1	12.9	12.9	41.4	-
桐ケ丘	51	35.3	9.8	15.7	9.8	49.0	-
田端	55	30.9	9.1	10.9	14.5	52.7	-
東十条	36	38.9	8.3	13.9	5.6	50.0	-
堀船	28	42.9	10.7	14.3	3.6	50.0	-
東田端	36	47.2	13.9	22.2	16.7	36.1	-

■自由記述

これからの健康福祉施策や地域づくりのあり方等についてのご意見・ご提案があれば、ご自由に記入してください。

220件の回答があり、内容別では「区や国への意見・要望」についての意見が83件と最も多く、次いで「高齢者福祉・地域福祉」が56件となっています。

項　目		件 数
1	区や国への意見・要望	83
2	高齢福祉・地域福祉	56
3	医療・健康	15
4	将来の不安	9
5	アンケートについて	9
6	経済事情・経済的負担	9
7	介護保険制度・介護サービス	6
8	入所施設	5
9	在宅介護・介護者	5
10	その他	23
回答総数		220

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回ります。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①区や国への意見・要望

高齢者が参加できるような活動を区報へ掲載していただきたいです。それもわかりやすくフォントを大きくしたり、太字にするなど、また枠で囲うなど他の誌面と差別化をしていただくとわかりやすいかと思います。よろしくお願いします。
民間事業所のようなサービスを区でやってほしい。または安心して任せられる民間事業所を紹介してほしい。住民税や介護保険などたくさん支払って来たので、それが適切に使われるような施策を示してほしい。
今回のアンケートで「高齢者あんしんセンター」を知りました。未来に漠然とした不安がありましたが、少し安心できました。こういったセンターやサービスがあることをもっと知られるようにした方が良いと思います。

②高齢者福祉・地域福祉

高齢者あんしんセンターをもっと充実させて欲しい。身近にあるすぐに相談出来る場所をもっと周知させることが益々求められている。例えばボランティアや、パートでのあんしんセンターの補助的な仕事を募集して、相談しやすく充実度を計れるように。
高齢者の習い事の情報が欲しいです。来年時間が出来るので、何かサークル活動等に時間を費やしたいと思っています。サークル等の情報はどこで得ることが出来るのでしょうか。
高齢者が気軽に相談できる所があれば、安心できると思います。今後、地域社会とつながりを持っていけたらと考えています。

③医療・健康

北区による健康診断の開催回数を増やして欲しいです。（現在５年置きのものを３年置きにする等）
認知症や生活習慣病などを予防するための具体的な施策（塩分摂取量のアドバイスやフレイル予防体操など）を実施し、近所でそれを習慣的に行えるなど、身近で気軽に参加できるようにしていただくなど。

④将来の不安

これからどうなっていくのでしょうか。高齢者は増える。両親の介護が終わった頃、自分が動けなくなっているのでしょうね。誰にも迷惑をかけないで静かに終わりたいです。
ペーパーレス化、電子化が進んでいるが、年を取りいつまでスマホやPC入力ができるか不安である。印刷物の文字も小さすぎると、もらっても見る気がしなくなりゴミになるだけ。年金等、もらえるものは手続きしなくてももらえるようにすべき。

⑤アンケートについて

今回の様なアンケートは始めてだが、声を拾うのはよいことだと思う。年を重ねてからは、家族だけの力ではどうにもならない事がでてくると思うので情報開示、提供されるといいと思われます。
高齢者あんしんセンターがあるのは、分かりましたが、どこにあるのか、連絡先（電話番号）はどこなのか、パンフレット（リーフレット）を同封しておいた方がよかったと思いました。今後、アンケートを行う際の参考としてください。

⑥経済事情・経済的負担

地域づくりよりも税金を少なくして、個人の使えるお金を増やした方がいいと思う。
健康福祉は大切ですが、まず現在収入が少なく、そして物価も上がり、今の生活の方が不安でなりません。給付金があるのか無いのかすら分かりません。外国人に仕事をあたえるよりも先に日本人で低収入の人の事を考えてほしい。格差があっては、福祉も意味が分からなくなる。
今の物価高がこれからの全区民にかなり影響してるので、もっと色々と、お金がかからず安心して生活できる様にしてほしい。お金がなくて施設に入らない人、老老介護の声をよく聞きます。不安です。

⑦介護保険制度・介護サービス

病院への送迎サービス。以前、高齢の家族のかかりつけの病院がバス停の移動により、遠くなってしまい歩くのに苦労した。タクシー券や送迎バスサービスの補助などあると、将来足が不自由になっても安心だと思う。
産まれてから現在まで何十年も北区に住んで納税をしております。特養に入る条件で介護３以上が入居条件はわかりますが、せめて北区居住年数や北区納税履歴なども考慮して欲しいです。北区に生まれて良かったと最後は言いたいです。

⑧入所施設

マンションばかり建てられていますが、今後人口減少により空室だらけになった場合、それを高齢者施設などに利用できたらいいなと思います。
仕事柄高齢者と会う機会が多いが、特に単身者が多いと感じている。皆不安を持って暮らしている。介護がまだ必要でない高齢者のためのシェアハウスを希望している50代～80代の声をよく聞きます。民間の若者ハウスではなく元気な高齢者のためのシェアハウスが北区で設置できたらいい。

⑨在宅介護・介護者

介護する側の事も考えてほしい。
介護者がまだ現役のうちは、もう少し代行のようなサービスがあるとよいと思う。先日、マイナンバーカードの申請に代理として行ったが、訪問して手続きができるようにするとか、○○歳以上の本人確認は簡易にしていただくなど、国の制度とはいえ現役世代には負担がかかる。だから仕事を辞めないといけない（できない）不安にもなる。介護をする側の負担軽減になるような施策を望みます。

⑩その他

介護美容に興味があり、高齢になっても美容に係るケア等が受けられて、生き生きと前向きに過ごしたい。
現在は、仕事で時間がないのですが、（休日は疲れてしまいます…そのような日が多いです。）これから関心をもっていきたいです。できるだけ楽しく（健康で）年齢を重ねていきたいと思っております。

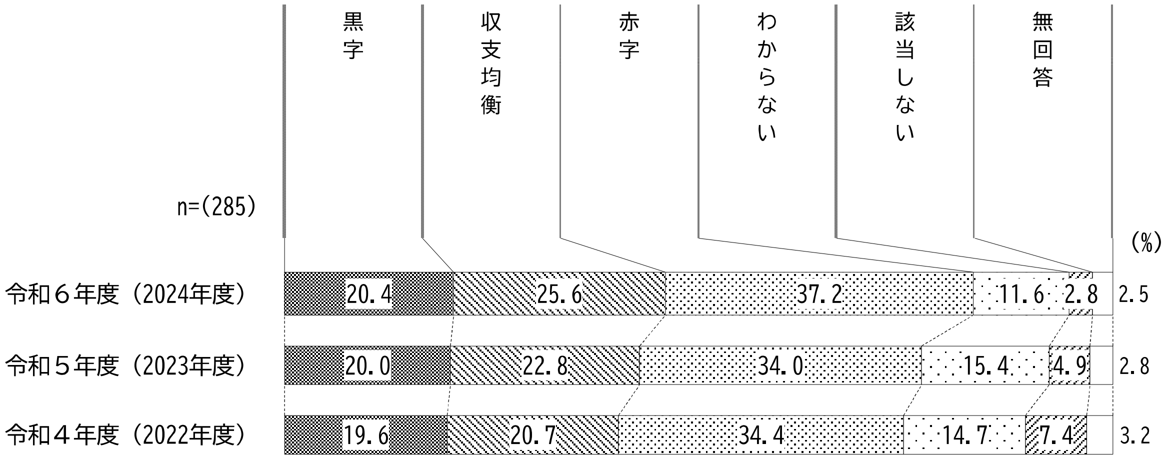
第５章　介護サービス事業者調査の結果

１．事業所について

（１）事業所の採算状況

Ｑ２．貴事業所の、過去３年間（令和４年度～令和６年度）の事業採算について教えてください。（各年度、○は１つ）

過去３年間のいずれの年度においても、「赤字」が３割台で最も多く、「収支均衡」がこれに続いています。「黒字」はいずれの年度も２割前後となっています。

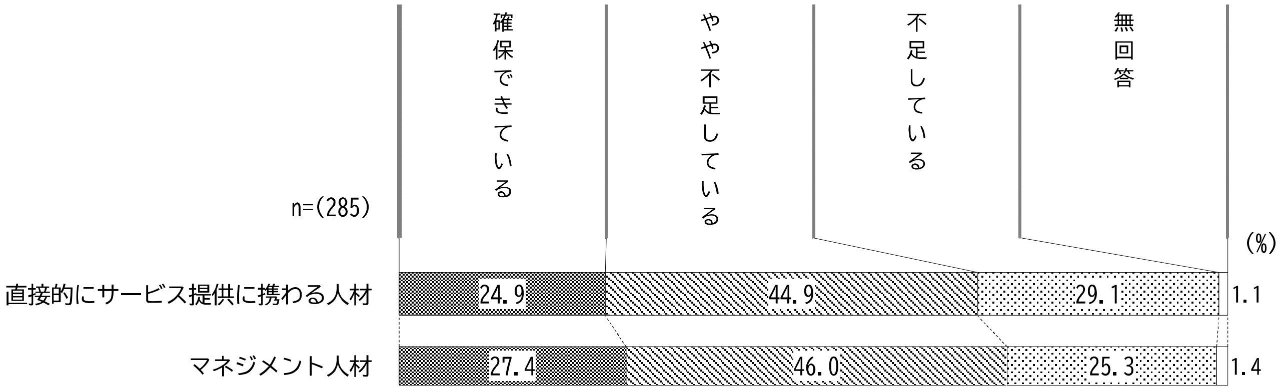


２．人材の確保・育成

（１）事業所が求める質を十分に満たす人材の確保状況

Ｑ１．現在、貴事業所が求める質（資格・経験・スキル・役割遂行能力、介護に対する理念等）を十分に満たす人材を確保できていますか。（それぞれ、あてはまるもの１つに○）

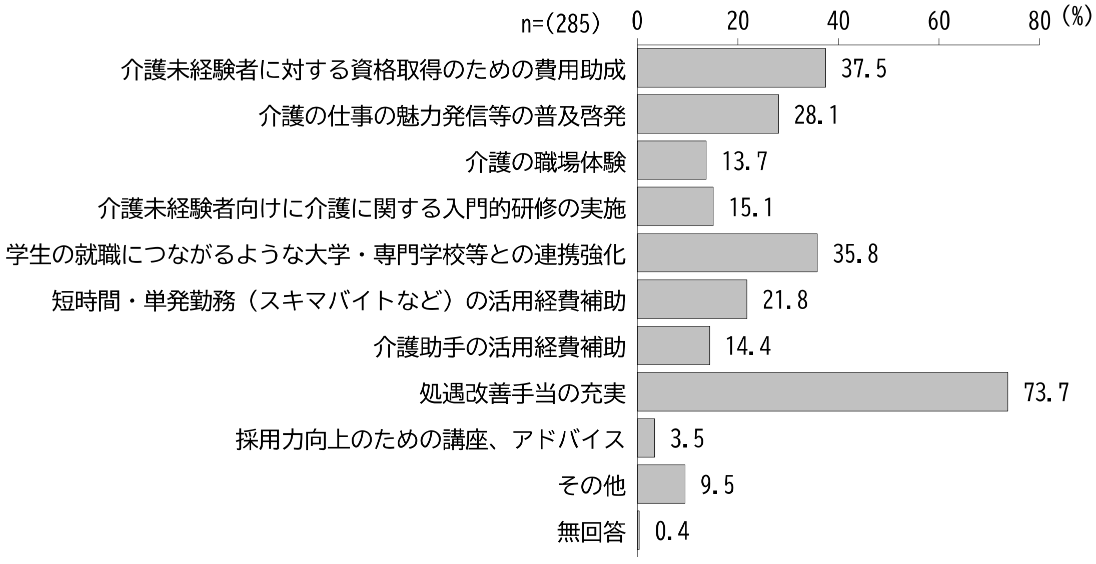
「確保できている」は“直接的にサービス提供に携わる人”“マネジメント人材”ともに２割台となっています。一方、「不足している」と「やや不足している」を合わせた『不足』は“直接的にサービス提供に携わる人”で74.0%、“マネジメント人材”で71.3%といずれも７割以上を占めています。



（２）人材確保に向けてあるとよい公的支援

Ｑ４．人材の確保に向けて、どのような公的支援があればよいと思いますか。（○は３つまで）

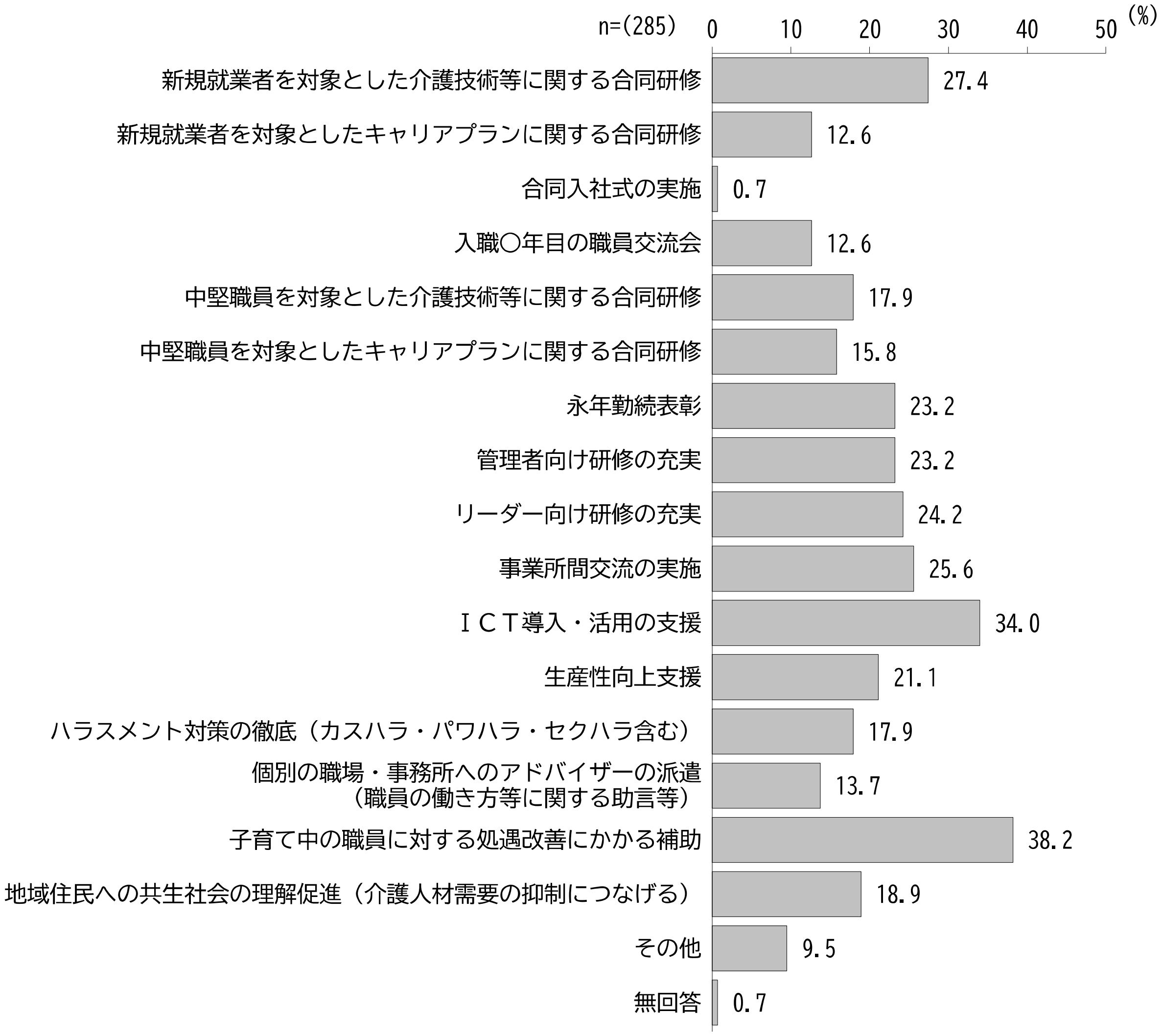
「処遇改善手当の充実」が73.7%と特に多く、以下、「介護未経験者に対する資格取得のための費用助成」（37.5%）、「学生の就職につながるような大学・専門学校等との連携強化」（35.8%）と続いています。



（３）人材の定着に向けてあるとよい公的支援

Ｑ５．人材の定着に向けて、どのような公的支援があればよいと思いますか。
（○は５つまで）

「子育て中の職員に対する処遇改善にかかる補助」が38.2％と最も多く、以下、「ＩＣＴ導入・活用の支援」（34.0％）、「新規就業者を対象とした介護技術等に関する合同研修」（27.4％）、「事業所間交流の実施」（25.6％）と続いています。

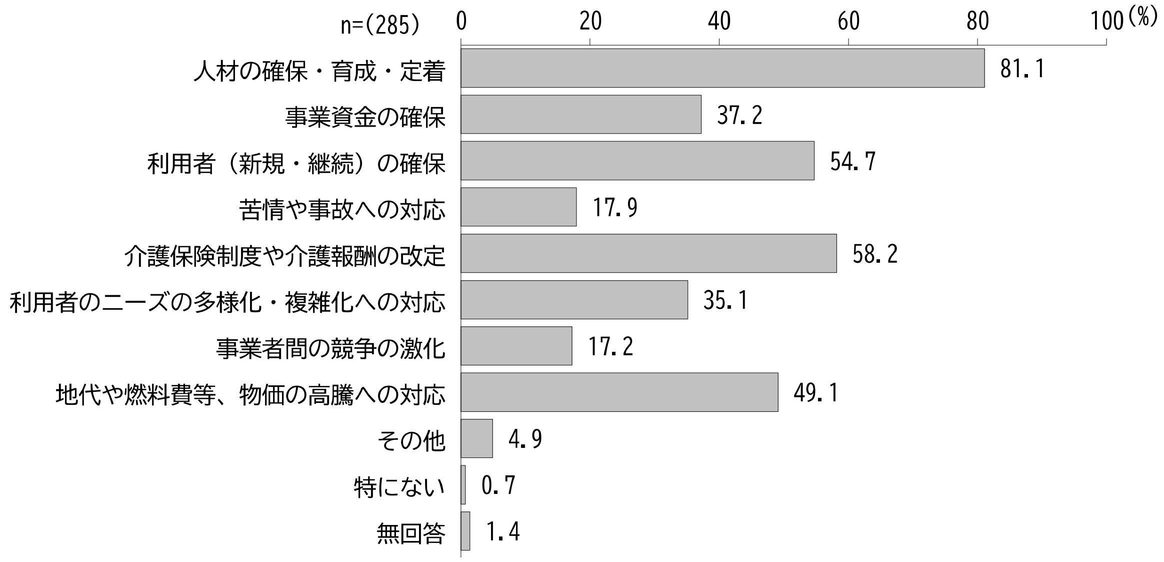


３．事業所運営の状況や課題

（１）事業所の運営に関する不安や課題

Ｑ３．貴事業所の運営にあたり、不安なことや課題と感じていることがあれば教えてください。（〇はいくつでも）

「人材の確保・育成・定着」が81.1％と特に多く、以下、「介護保険制度や介護報酬の改定」（58.2％）、「利用者（新規・継続）の確保」（54.7％）、「地代や燃料費等、物価の高騰への対応」（49.1％）と続いています。

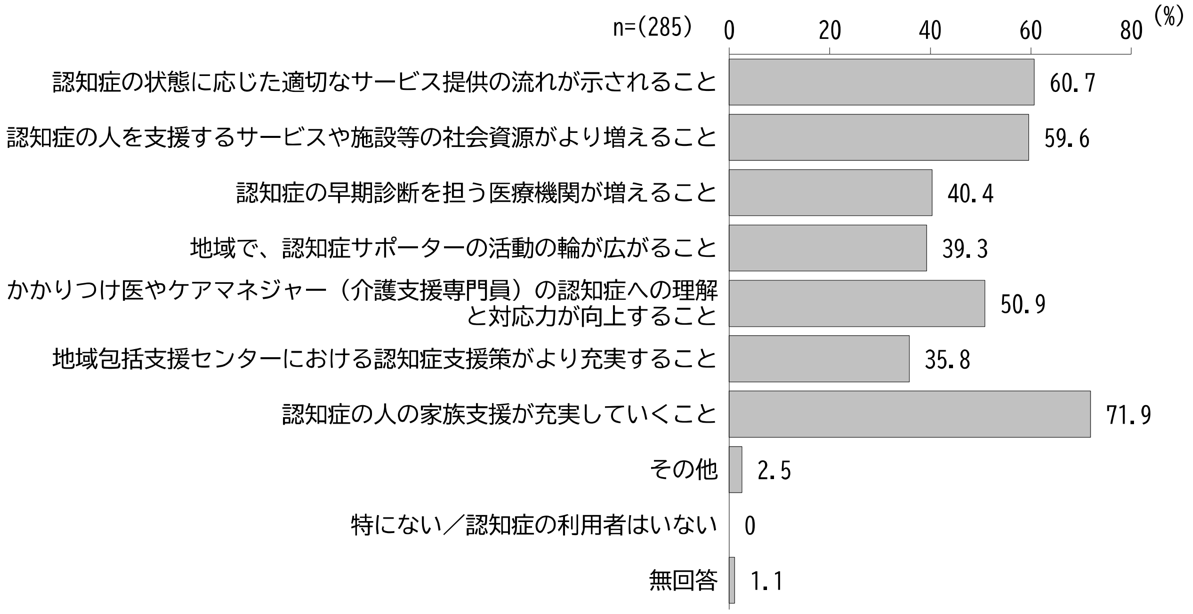


４．認知症の方や家族の支援

（１）認知症の方の支援に必要なこと

Ｑ１．認知症の方の支援にあたり特に必要と思われることは何ですか。（〇はいくつでも）

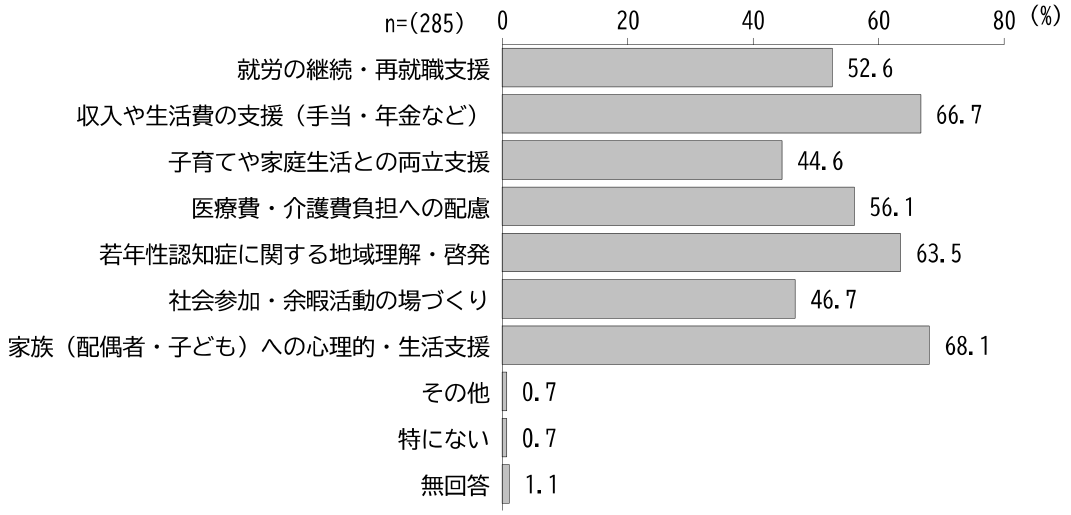
「認知症の人の家族支援が充実していくこと」が71.9％と最も多く、以下、「認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示されること」（60.7％）、「認知症の人を支援するサービスや施設等の社会資源がより増えること」（59.6％）、「かかりつけ医やケアマネジャー（介護支援専門員）の認知症への理解と対応力が向上すること」（50.9％）と続いています。



（２）若年性認知症の方の支援に必要なこと

Ｑ２．若年性認知症（65歳未満で発症）の方の支援について、特に必要と思われることは何ですか。（○はいくつでも）

「家族（配偶者・子ども）への心理的・生活支援」が68.1％と最も多く、以下、「収入や生活費の支援（手当・年金など）」（66.7％）、「若年性認知症に関する地域理解・啓発」（63.5％）、「医療費・介護費負担への配慮」（56.1％）と続いています。

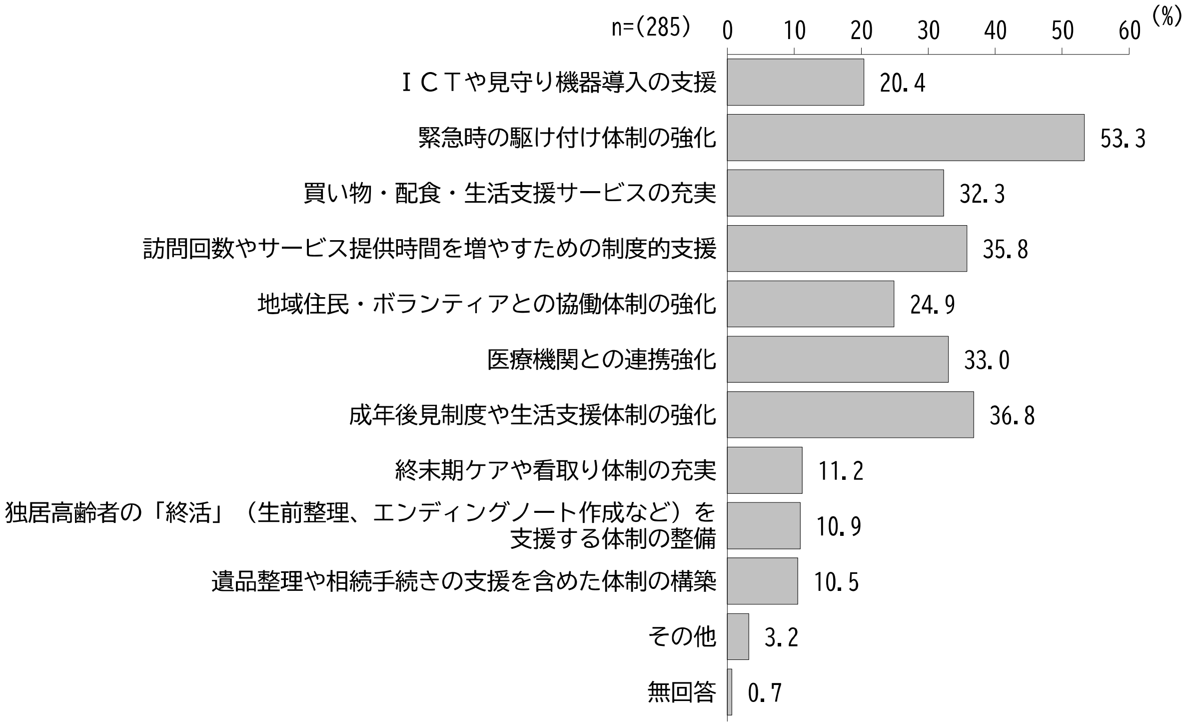


５．独居高齢者

（１）独居高齢者に必要だと思う支援・仕組み

Ｑ２．独居高齢者への支援を充実させるために、どのような支援・仕組みが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「緊急時の駆け付け体制の強化」が53.3％と最も多く、以下、「成年後見制度や生活支援体制の強化」（36.8％）、「訪問回数やサービス提供時間を増やすための制度的支援」（35.8％）、「医療機関との連携強化」（33.0％）、「買い物・配食・生活支援サービスの充実」（32.3％）と続いています。

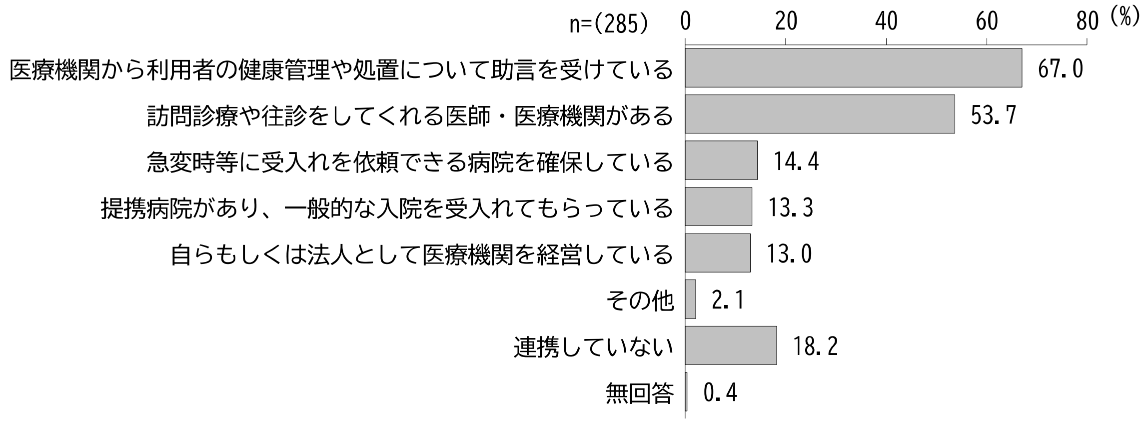


６．連携状況

（１）医療機関との連携状況

Ｑ１．医療機関との連携について、貴事業所が取り組んでいることはありますか。
（○はいくつでも）

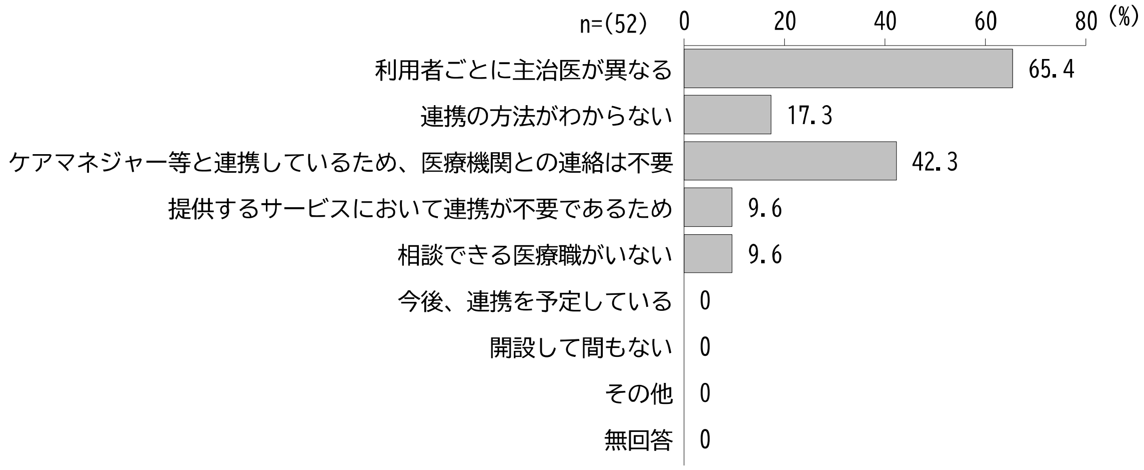
「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」が67.0％と最も多く、以下、「訪問診療や往診をしてくれる医師・医療機関がある」（53.7％）と続いています。一方、「連携していない」は 18.2％となっています。



（２）医療機関と連携しない理由

【Ｑ１で「７」と答えた方に伺います】
Ｑ２．医療機関と連携していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

「利用者ごとに主治医が異なる」が65.4％と最も多く、以下、「ケアマネジャー等と連携しているため、医療機関との連絡は不要」（42.3％）、「連携の方法がわからない」（17.3％）と続いています。

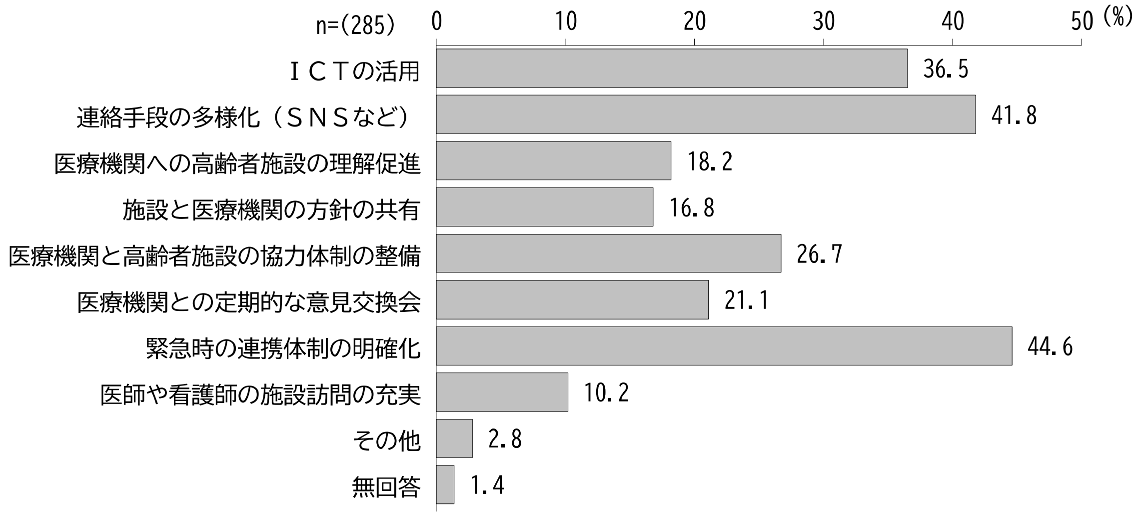


（３）医療機関との連携のために必要な支援や手段

Ｑ３．どのような支援や手段があれば医療機関との連携が充実できると思いますか。

（○は３つまで）

「緊急時の連携体制の明確化」が44.6％と最も多く、以下、「連絡手段の多様化（ＳＮＳなど）」（41.8％）、「ＩＣＴの活用」（36.5％）、「医療機関と高齢者施設の協力体制の整備」（26.7％）と続いています。

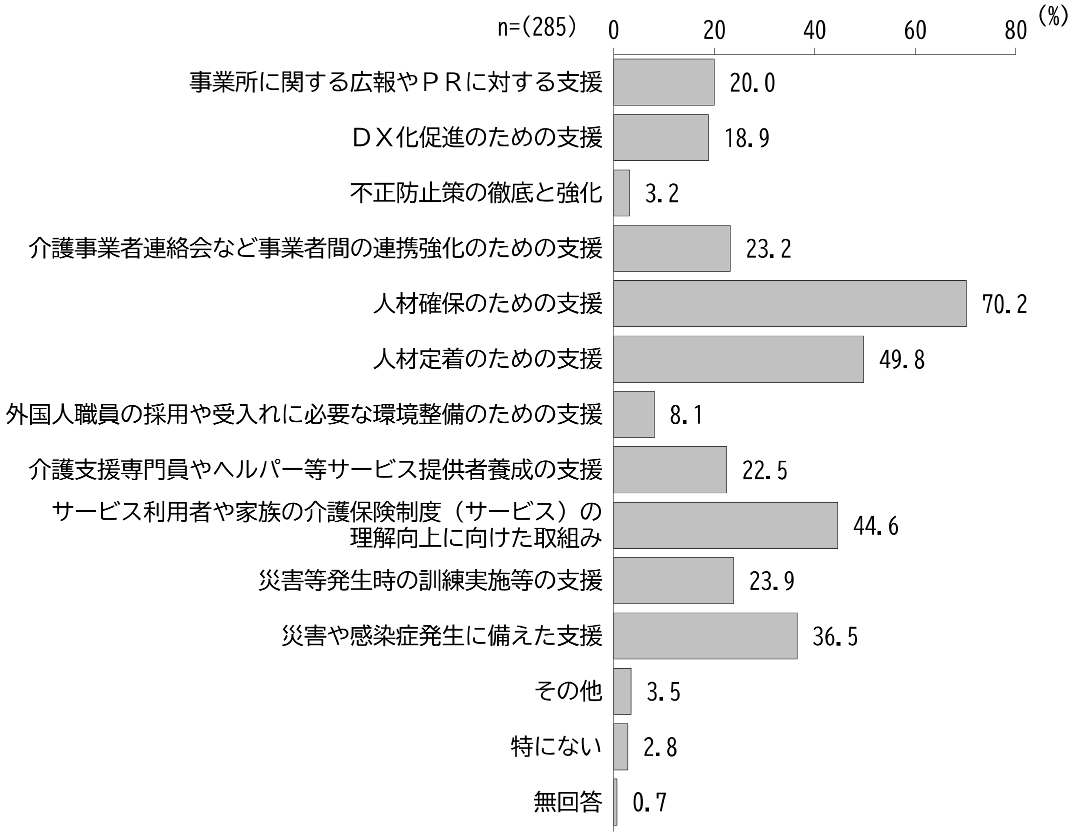


７．区に対する要望

（１）事業運営する上で必要な支援

Ｑ１．事業を運営する上で、区からの支援が必要だと感じることはありますか。
（○は５つまで）

「人材確保のための支援」が70.2％と特に多く、以下、「人材定着のための支援」（49.8％）、「サービス利用者や家族の介護保険制度（サービス）の理解向上に向けた取組み」（44.6％）、「災害や感染症発生に備えた支援」（36.5％）と続いています。



令和８年度のスケジュールについて

資料２

1　令和８年度スケジュール（案）

６月中旬	（庁内調整会議①）
６月２９日（月） **10：00～@飛鳥ホール**	**検討委員会①【第４回】**
８月中旬	（庁内調整会議②）
８月２５日（火） **10：00～@飛鳥ホール**	**検討委員会②【第５回】**
10 月下旬	（庁内調整会議③）
11 月上旬	**検討委員会③【第６回】**
12 月上旬	パブリックコメントの実施について議会報告
12 月	パブリックコメント・**公聴会**
２月	**検討委員会④【第７回】**
３月上旬	パブリックコメントの実施結果及び計画（案）について議会報告
３月	**北区地域包括ケア推進計画策定**

2　検討委員会検討事項（予定）

・①【第４回】…現計画掲載事業の進捗状況報告・計画の体系検討

・②【第５回】…重点事業の検討・成果指標の検討

・③【第６回】…中間のまとめ検討、パブコメ・公聴会の調整

・④【第７回】…パブコメの速報と計画への反映検討、計画（案）の検討

3　パブリックコメントの実施

意見募集期間：令和８年１２月～令和９年１月上旬で実施予定

北区ニュース、区ホームページ、各高齢者あんしんセンター、図書館、地域振興室で中間のまとめの公表を行い、広く区民より意見を募集する。

4　公聴会の実施

・令和８年１２月に２回程度開催予定（場所・時間帯等未定）

・区ホームページ上に、計画素案の説明動画を公開予定